

常磐自動車道 相馬工事

かやぐらばし（下部工）

設 計 図

令和6年11月

1	本線土工
2	相馬IC土工
3	函渠工
4	宇多川橋（下部工）
5	馬藩沢橋（下部工）
6-1	信田橋（下部工）
6-2	信田橋（上部工）
7-1	黒木橋（下部工）
7-2	黒木橋（上部工）
8	かやぐらばし（下部工）
9	大野台希望の橋(下部工)
10	附帯工
11	詳細図
12	参考図
13	契約参考図書

東日本高速道路株式会社 東北支社
いわき工事事務所

図面目次（かやぐらばし（下部工））

図面番号	図 面 名	図面番号	図 面 名
1	かやぐらばし 下部工数量総括表	73	かやぐらばし P1大型土のう配置図
2 ～ 3	かやぐらばし 橋梁一般図(1)～(2)	74	かやぐらばし A1橋台 既設補強土壁撤去図
4	かやぐらばし 下部工座標図	75	かやぐらばし A2橋台 既設補強土壁撤去図
5 ～ 6	かやぐらばし A1橋台 構造一般図(1)～(2)		
7 ～ 19	かやぐらばし A1橋台 配筋図(1)～(13)		
20	かやぐらばし A1橋台 踏掛版配筋図		
21 ～ 22	かやぐらばし A1橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
23	かやぐらばし A1橋台 深礎杭土留工図		
24	かやぐらばし A1橋台 裏込め工排水工詳細図		
25	かやぐらばし P1橋脚 構造一般図		
26 ～ 30	かやぐらばし P1橋脚 配筋図(1)～(5)		
31 ～ 32	かやぐらばし A2橋台 構造一般図(1)～(2)		
33 ～ 45	かやぐらばし A2橋台 配筋図(1)～(13)		
46	かやぐらばし A2橋台 踏掛版配筋図		
47 ～ 48	かやぐらばし A2橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
49	かやぐらばし A2橋台 深礎杭土留め工図		
50	かやぐらばし A2橋台 裏込め工排水工詳細図		
51	かやぐらばし L型擁壁一般図		
52 ～ 64	かやぐらばし L型擁壁配筋図(1)～(13)		
65	かやぐらばし A2橋台 重力式擁壁一般図		
66 ～ 67	かやぐらばし A1橋台 土留工構造図(1)～(2)		
68	かやぐらばし A1橋台 横矢板詳細図		
69 ～ 71	かやぐらばし A2橋台 土留工構造図(1)～(3)		
72	かやぐらばし A2橋台 横矢板詳細図		

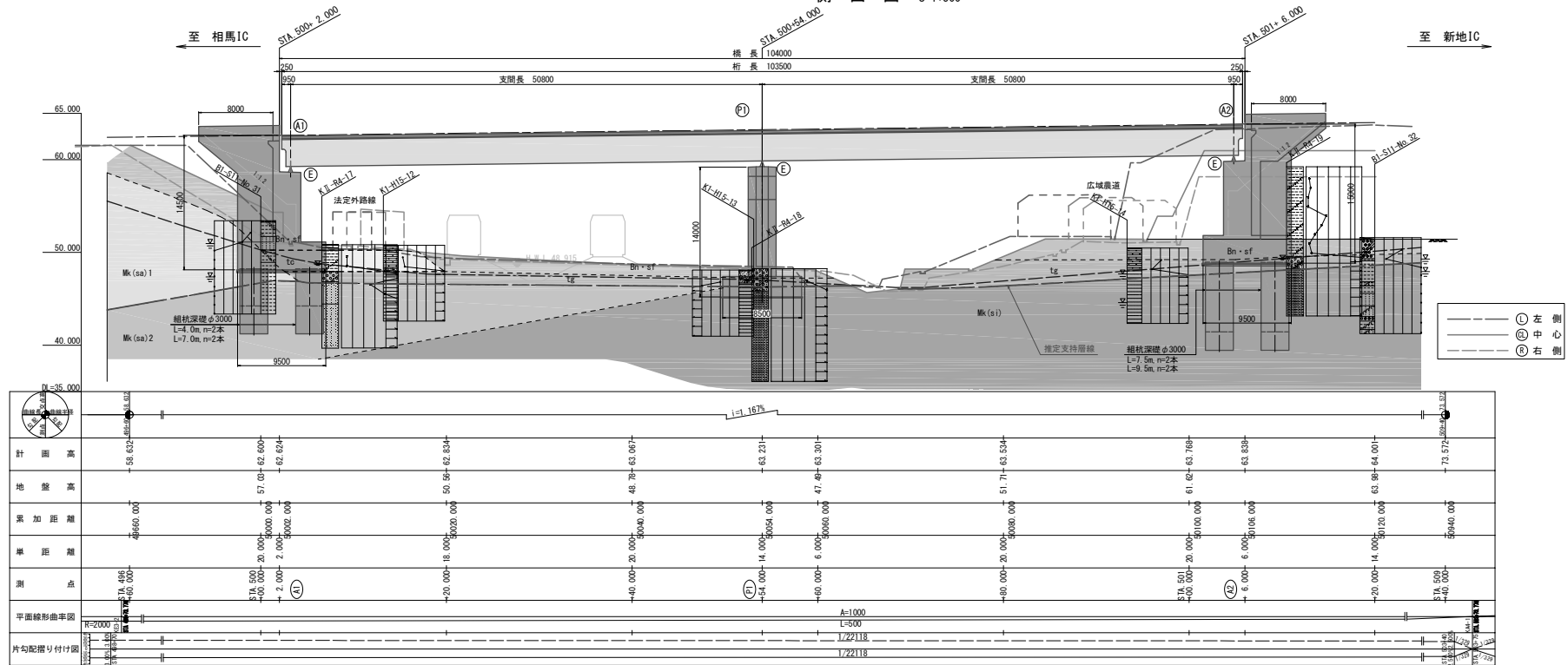
下部工数量総括表

項目	細目	規格寸法	単位	A1	P1	A2	合 計	備 考
構造物掘削	普通		m ³	-	633.1	-	633.1	埋戻し 454.2m ³
	特殊部A9		m ³	1378.1	-	-	1378.1	埋戻し 371.0m ³
	特殊部A10		m ³	-	-	10266.3	10266.3	埋戻し 521.5m ³
基礎材	B	RC-40	m ³	11.2	-	11.2	22.4	
裏込め材(土工)	裏込め工B		m ³	509.0	-	1050.4	1559.4	(一次施工)
地下排水工	Du-Pφ0.15、0.50、0.50		m	7.7	-	9.2	16.9	
基礎杭	場所打ちコンクリート杭	(人力掘削、φ3000)	m	22.0	-	34.0	56.0	
	埋設ライナープレート	(φ3000、t=2.7mm)	m	22.0	-	34.0	56.0	
	裏込めグラウト		m ³	19.4	-	31.2	50.6	
	A1-3	σ _{ck} =30N/mm ²	下部工	322.9	181.6	388.8	893.3	
コンクリート	B2-1	σ _{ck} =24N/mm ²	下部工	302.1	159.0	763.2		
		杭 体	m ³	156.5	-	240.3	396.8	
		計	m ³	457.6	159.0	542.4	1159.0	
	D1-1	σ _{ck} =18N/mm ²	下部工	5.6	7.6	5.6	18.8	
型 わ く	C		m ²	585.0	253.3	724.9	1563.2	
	D		m ²	3.5	3.5	3.5	10.5	
鉄 筋	A	下部工	D13	-	-	-	-	
			D16～D25	2.446	6.733	1.717	10.896	
			D29～D32	2.625	2.261	9.032	13.918	
			D35	6.357	-	-	6.357	
			小計	11.428	8.994	10.749	31.171	
		基礎杭	D16～D25	11.804	-	12.881	24.685	
			D29～D32	1.504	-	5.920	7.424	
			小計	13.308	0.000	18.801	32.109	
			合計	24.736	8.994	29.550	63.280	
	A (E)	下部工	D13	0.864	-	1.003	1.867	
			D16～D25	10.550	-	7.025	17.575	
			D29～D32	8.291	-	14.002	22.293	
			D35	3.380	-	6.772	10.152	
			D41	-	-	6.812	6.812	
		基礎杭	小計	23.085	-	35.614	58.699	
			D29～D32	-	1.183	3.439	4.622	
			D35	4.138	7.513	-	11.651	
			D51	-	18.020	-	18.020	
			小計	4.138	26.716	3.439	34.293	
	B	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	B (E)	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	C	下部工	エポキシ樹脂鉄筋	688	-	754	1442	
			普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	C (E)	下部工	エポキシ樹脂鉄筋	688	-	754	1442	
			普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	D	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	E	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	F	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	G	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	H	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	I	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	J	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	K	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	L	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	M	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	
		基礎杭	鉄筋質量合計	2.285	-	2.475	4.760	
			機械式定着加工 (下部工)	43.365	38.996	57.052	139.413	
	N	下部工	普通鉄筋	38	185	38	261	
			D29～D32	0.956	-	2.562	3.518	
			D35	-	-	0.676	0.676	
			小計	0.956	-	3.238	4.194	
		基礎杭	エポキシ樹脂鉄筋	13	-	37	50	
			D16～D25	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	1.473	3.286	1.537	6.296	
			合計	0.599	-	3.418	4.017	
			機械式定着加工 (下部工)	2.072	3.286	4.955	10.313	
	O	下部工	普通鉄筋	231	460	239	930	
			D13	64	-	392	456	
			D16～D25	0.279	-	0.316	0.595	
			小計	2.006	-	2.159	4.165	

かやぐらばし 橋梁一般図(1)

2 / 75

側面図 S=1:500

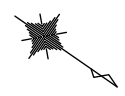
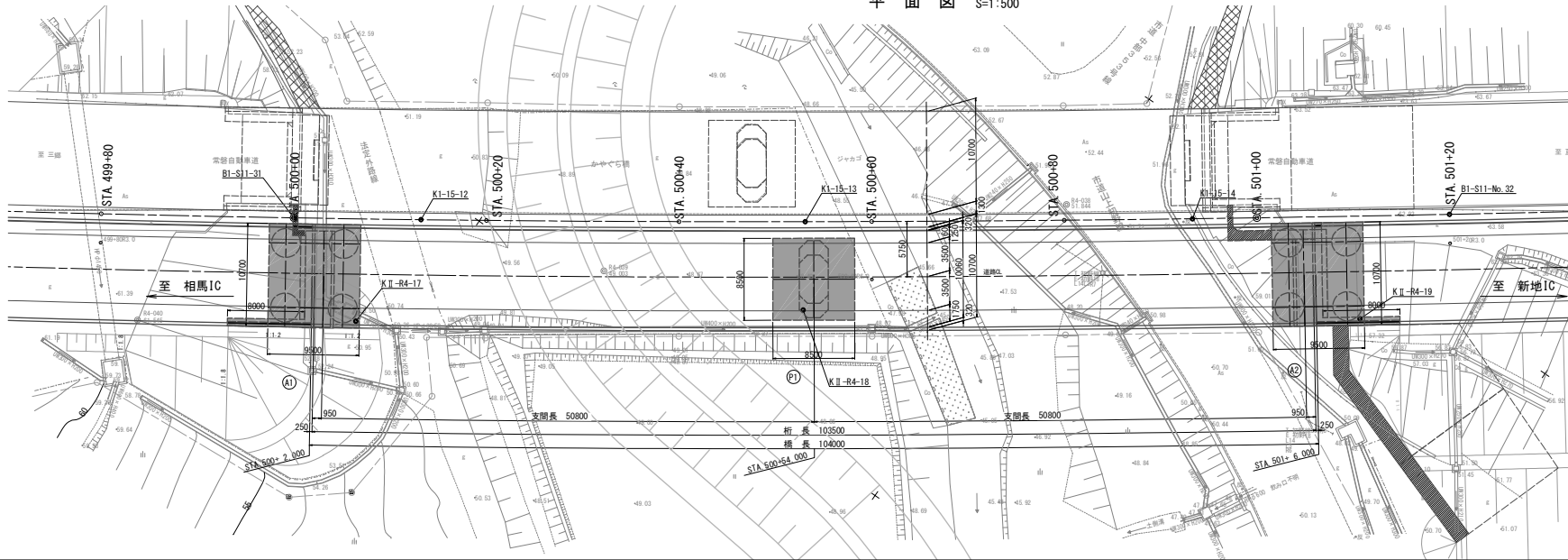


地質区分凡例

記号	主な土質・岩石名
Bn	粘性土
sf	粘土混じり砂礫
tc	礫混じり粘土
tg	粘土混じり砂礫
	玉石混じり砂礫
Mx(sa)1	凝灰質中粒砂岩
Mx(sa)2	礫粒砂岩
Mx(s)	シルト岩

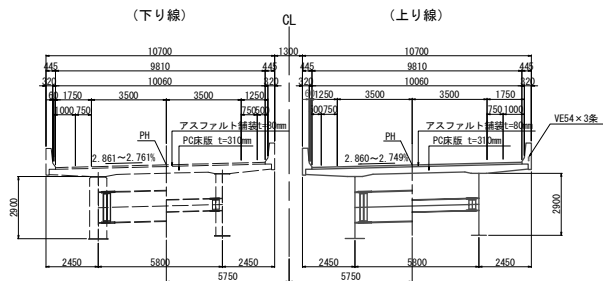
① 左側
② 中心
③ 右側

平面図 S=1:500



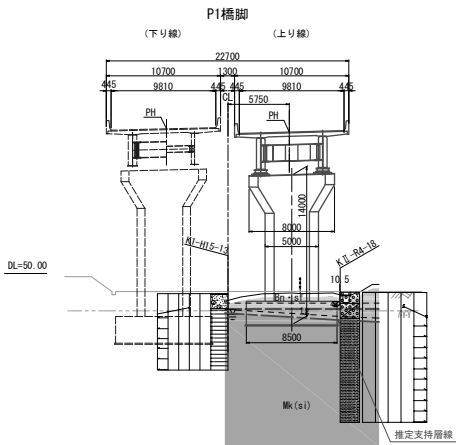
常磐自動車道 相馬工事	
図面の種類	かやぐらばし 橋梁一般図(1)
縮尺	図示 図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社
事務所名	いわき工務事務所

標準横断面 S=1:250

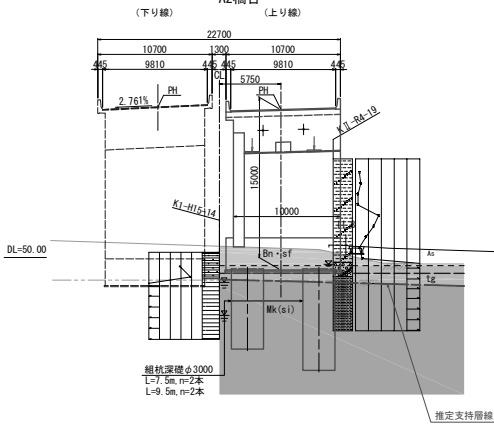


設計条件			
道路規格	第1種2級B規格	設計速度	V=100 km/h
計画交通量	大型車 3,067台 (2方向・台/日)		
活荷重	B活荷重	雪荷重	考慮しない
橋長	L=104,000 m	桁長	L=103,500 m
支間長	L= 50,800 m + 50,800 m		
有効幅員	W= 9,810 m		
縦断勾配	1.167 ‰		
平面線形	A= 1000 m		
横断勾配	2.860~2.749 ‰		
斜角	90°-00°-00°		
重要度区分	B種の橋		
地域区分	A2地域(福島県相馬市)		
設計水平曲率	水平曲率 KH = 0.20		
地盤種別	I 地盤		
支持層	A1: 極細粒砂岩 (Mk (sa) 2) P1, A2: シルト岩 (Mk (si))		
上部工形式	鋼2径間P.C床版連続合成2主桁桁橋		
架設工法	トラッククレーンベント架設		
舗装	アスファルト舗装 t= 80 mm		
支承	固定支承		
高橋形式	フロリダ型壁高欄SB種		
コンクリート	床版 $\sigma_{ck} = 40 \text{ N/mm}^2$ 地盤 壁高欄 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$		
鉄筋	材質 SD345		
P.C鋼材	SNPR19L 1S28.6		
鋼材	SM520, SM490Y, SM400, SS400, S10T		
下部工形式	A1: 逆T式橋台 P1: 張出し橋脚 A2: 逆T式橋台		
コンクリート	躯体 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$ フーチング $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$		
鉄筋	材質 SD345		
基礎形式	A1: 組杭深礎 P1: 直接基礎 A2: 組杭深礎		
適用基準	道路橋示方書・同解説 I～V (日本道路協会) 平成29年11月 設計要領第二集 (東日本高速道路株式会社) 平成28年 6月		

下部工正面図 S=1:500



A2橋台

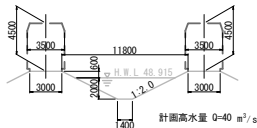


交差条件 S=1:500

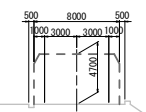
法定外路線



小泉川 (二級河川)
No. 7



市道山上初野線
No. 79
FH=52.184



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	橋梁一般図(2)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

A1橋台座標

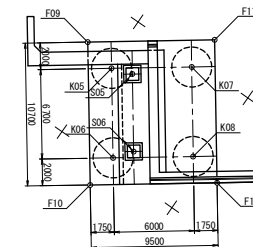
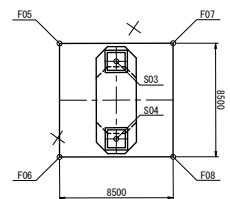
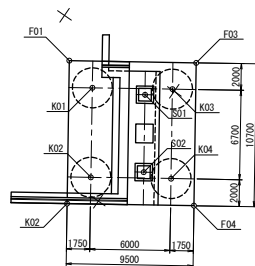
		x	y
支承	S01	201.488.3370	92.311.4562
	S02	201.491.5609	92.316.2777
フーチング	F01	201.482.2370	92.312.5881
	F02	201.488.1846	92.321.4829
	F03	201.490.1342	92.307.3076
	F04	201.496.0818	92.316.2023
深礎杭	K01	201.484.8034	92.313.2780
	K02	201.488.5276	92.318.8476
	K03	201.489.7911	92.309.9429
	K04	201.493.5153	92.315.5125

P1橋脚座標

		x	y
支承	S03	201.530.3432	92.282.7916
	S04	201.533.6533	92.287.5543
フーチング	F05	201.526.0829	92.284.1085
	F06	201.530.9338	92.291.0883
	F07	201.533.0627	92.279.2575
	F08	201.537.9137	92.286.2373

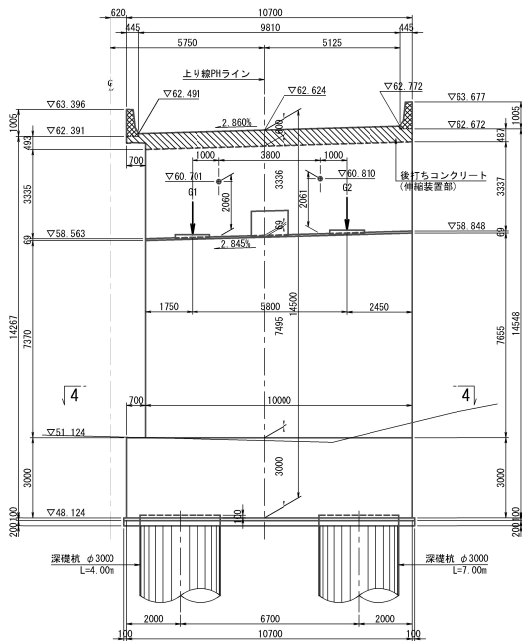
A2橋台座標

		x	y
支承	S05	201.571.8716	92.253.4530
	S06	201.575.2541	92.258.1646
フーチング	F09	201.567.7622	92.253.3874
	F10	201.574.0022	92.262.0795
	F11	201.575.4795	92.247.8472
	F12	201.581.7195	92.256.5393
深礎杭	K05	201.570.3502	92.253.9915
	K06	201.574.2575	92.259.4342
	K07	201.575.2242	92.250.4925
	K08	201.579.1315	92.255.9351

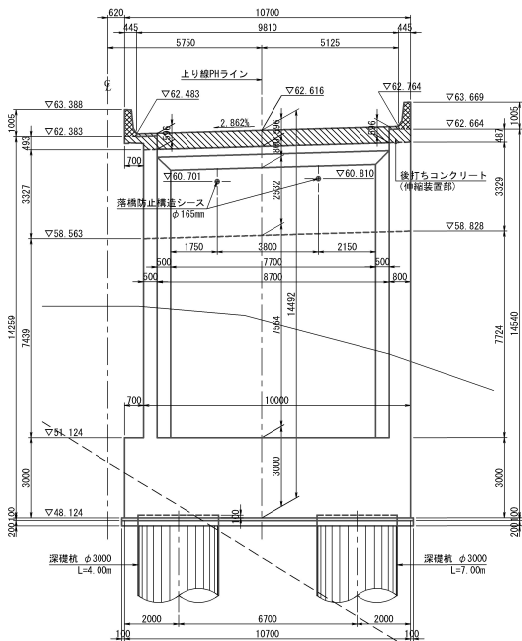


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	下部工座標図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

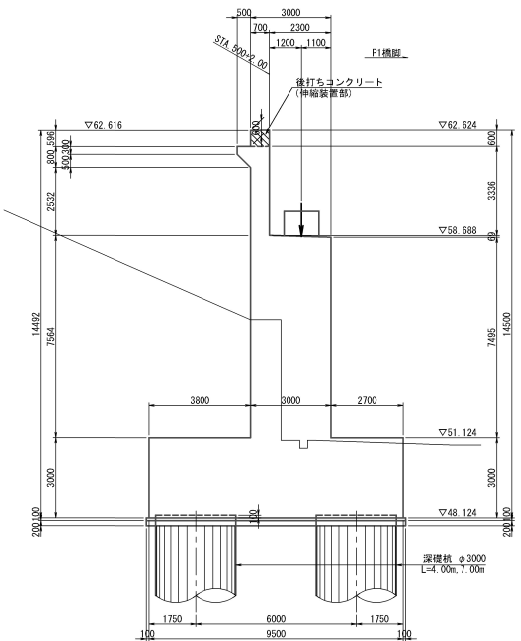
正面図(1-1)



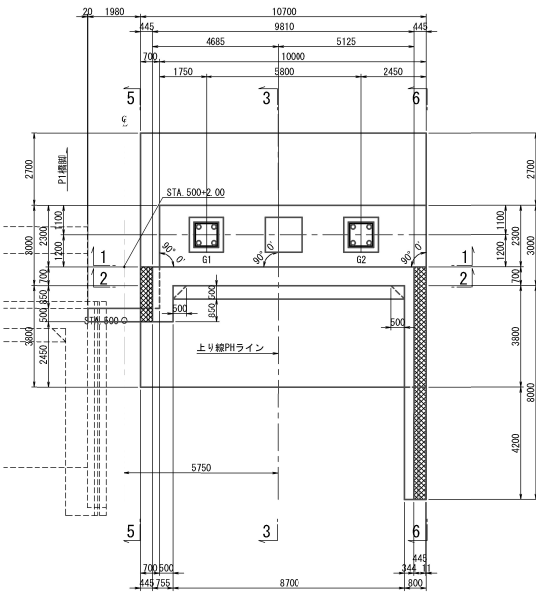
背面図(2-2)



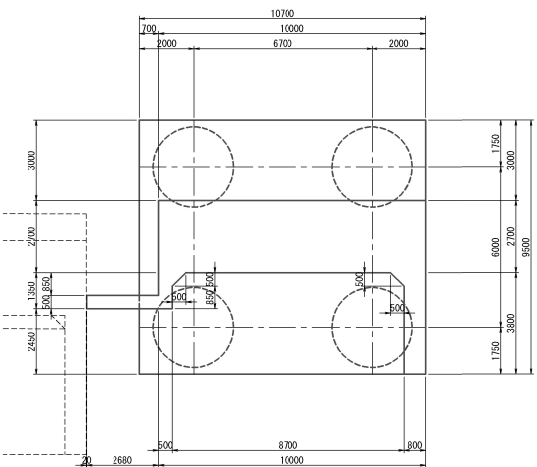
3-3



平面図



杭配置図(4-4)

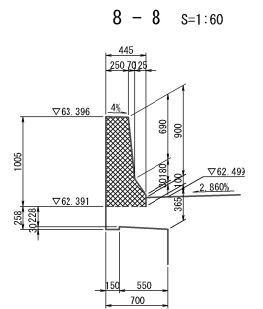
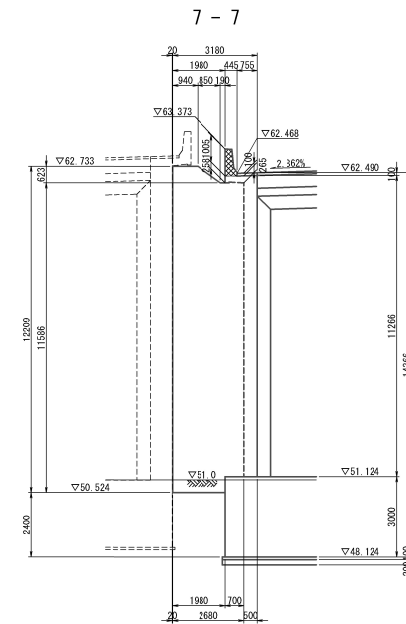
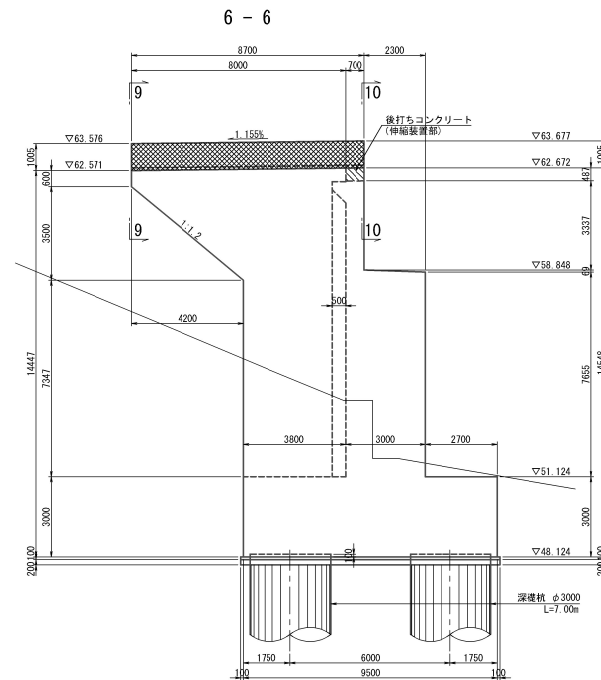
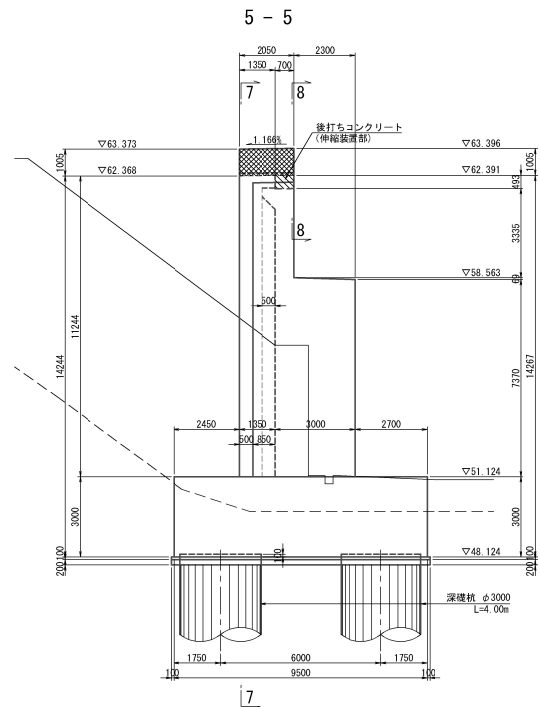


設計条件

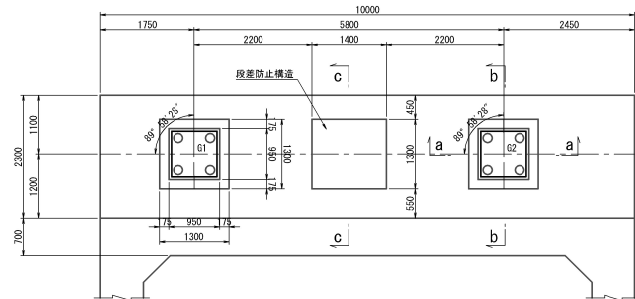
道路規格	第1種 2級 B規格		
重要度区分	B種の橋		
活荷重	B活荷重		
地域区分	A2地区		
地盤種別	I 種地盤		
斜角	∠R(支承設置角: 89° 58' 28")		
適用示方書	道路橋示方書(同解説) 日本道路協会(平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社(平成28年6月)		
設計標準 寸法	レベル1	レベル2-I	レベル2-II
	構軸方向	0.20	0.83
材料	コンクリート	躯体: $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 底版: 深礎: $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	
	鉄筋	SD345	
下地構造	支持地盤 極細粒砂岩 (Mk(sa)2層)		

・本図で示す標高はすべてT P表示とする。
・図で示すハッチングは、上部工事とする。

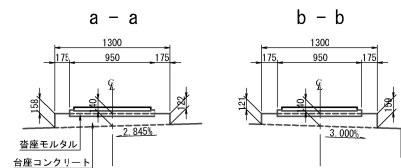
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台構造一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



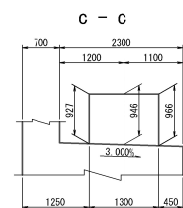
橋座面展開図 S=1:100



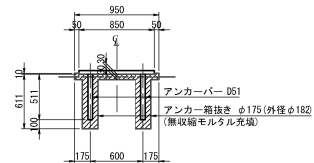
台座コンクリート詳細図 S=1:60



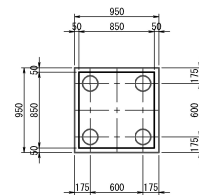
段差防止構造詳細図 S=1:100



支承箱抜き詳細図 S=1:60

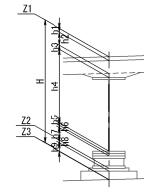


平面图

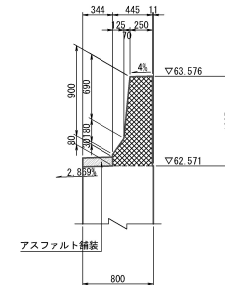


構造高表

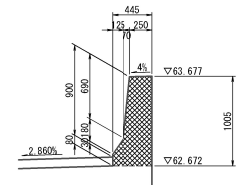
	G1	G2
路面標高	Z1 62.361	62.781
舗装厚	h1 0.680	0.680
床版厚	h2 0.310	0.310
ハンチ高	h3 0.100	0.100
主桁高	h4 2.900	2.900
下フラジ厚	H5 0.026	0.026
ソールプレート厚	h6 0.027	0.027
支床高	H7 0.373	0.373
管座面標高	Z2 58.747	58.912
管座モルタル厚	H8 0.030	0.030
台座コンクリート高	H9 0.140	0.140
構造高合計	H 3.486	3.986
下部工天端標高	Z3 58.575	58.741



9 - 9 S=1:60

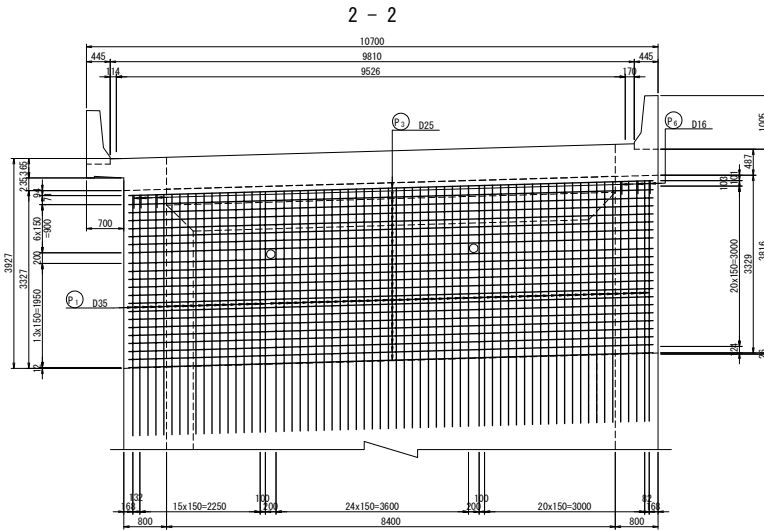
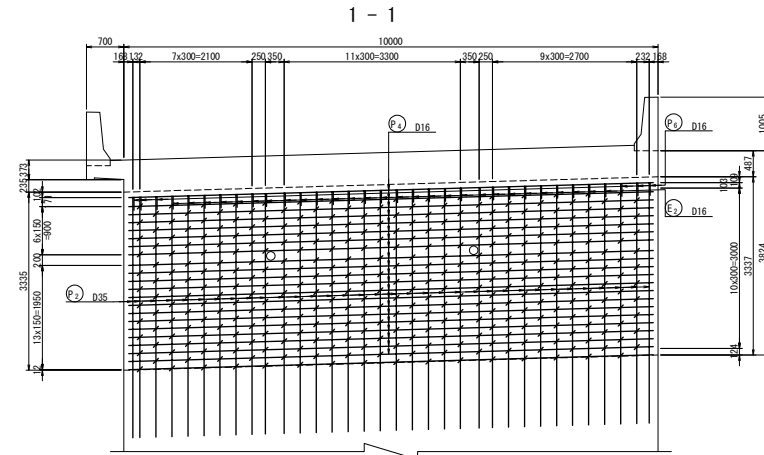


10 - 10 s=1:50

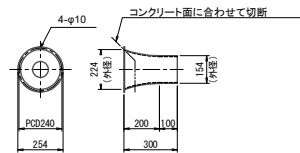


- ・本図で示す標高はすべてTP表示とする。
- ・図で示すハッチング 部は、上部工施工とする。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし 11橋台構造一般図(図2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



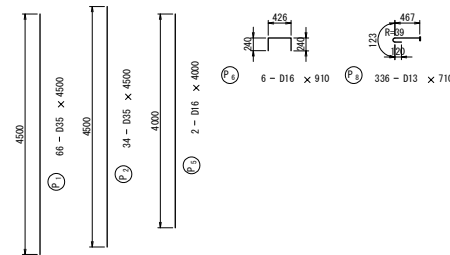
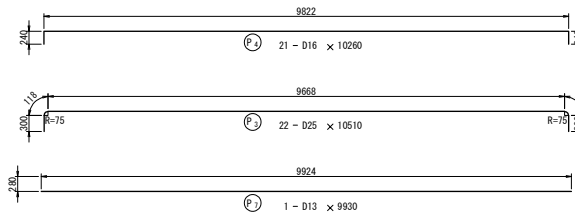
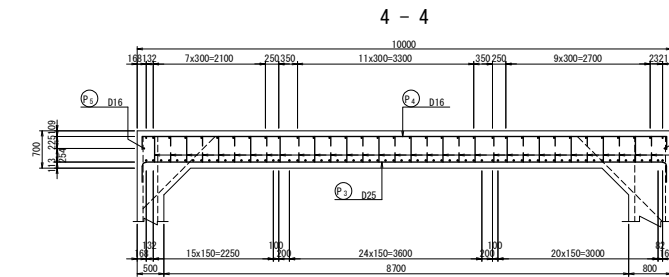
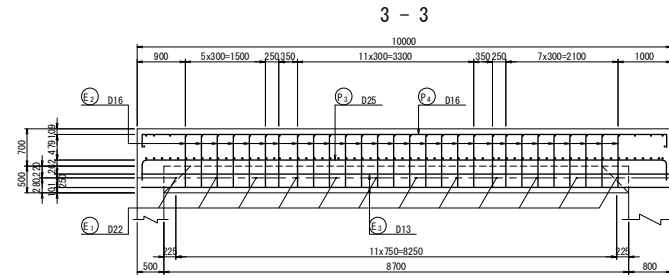
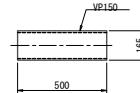
偏向ダクト S=1:30



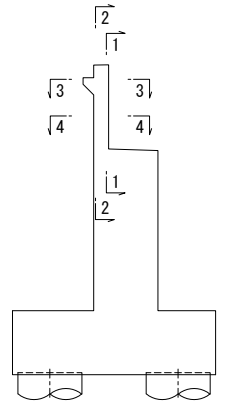
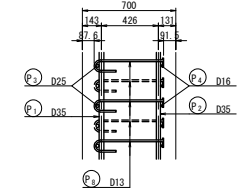
落橋防止構造 材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150

シース S=1:30



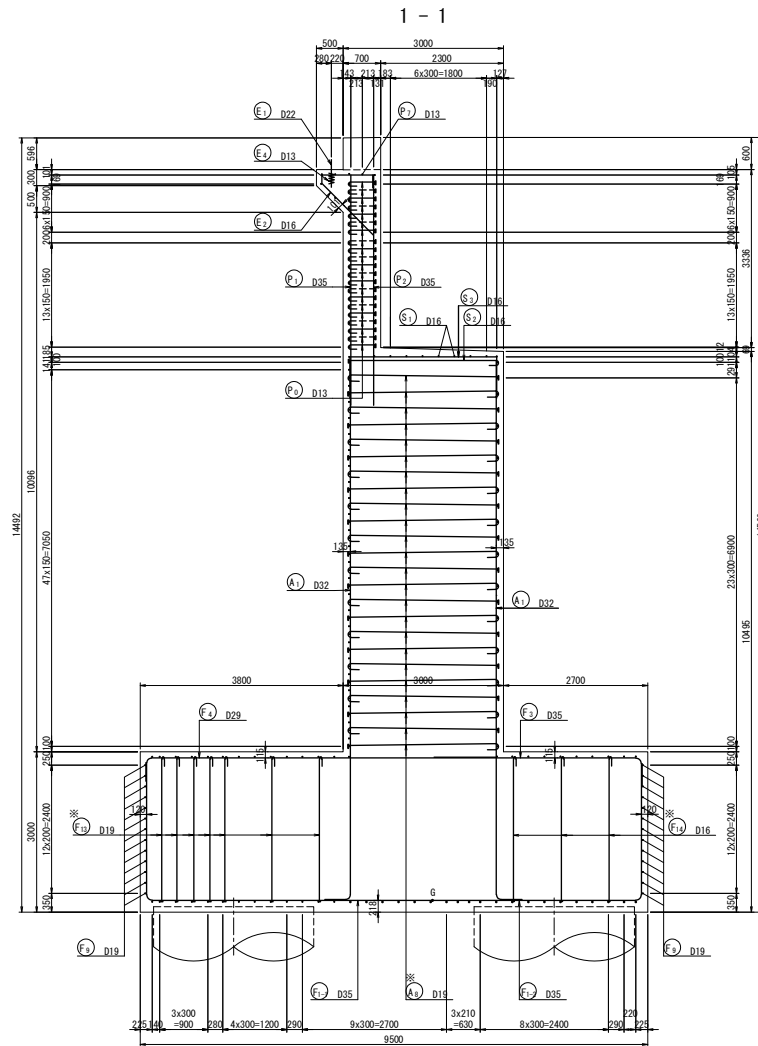
かぶり詳細図 S=1:40



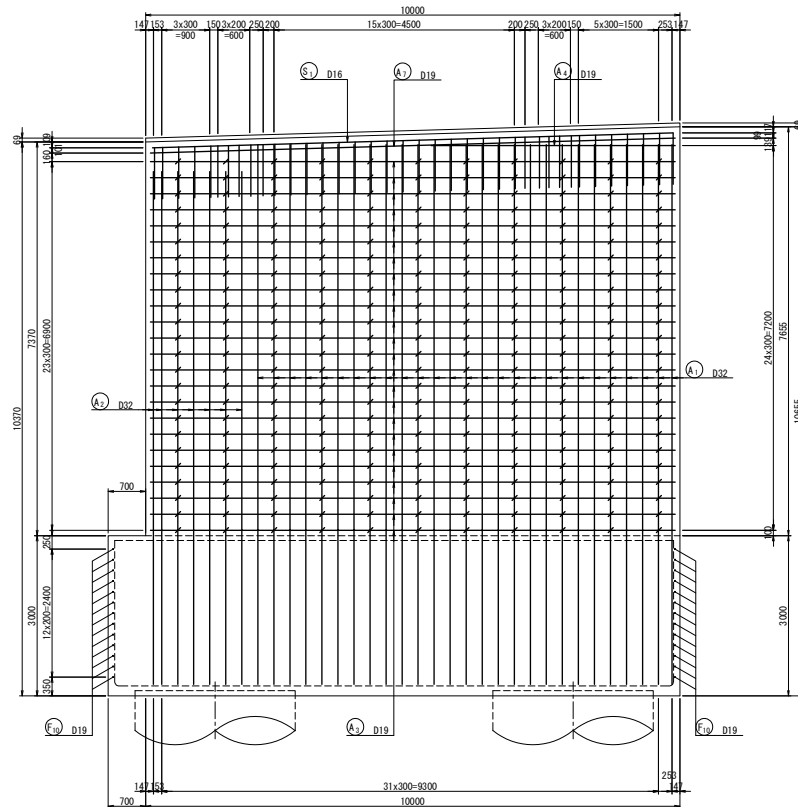
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間棒鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚束効果の発揮等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はhead-bar工法であるが、他工法の採用を希望するものではない。
- 機械式組手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Kは機械式組手を示す。

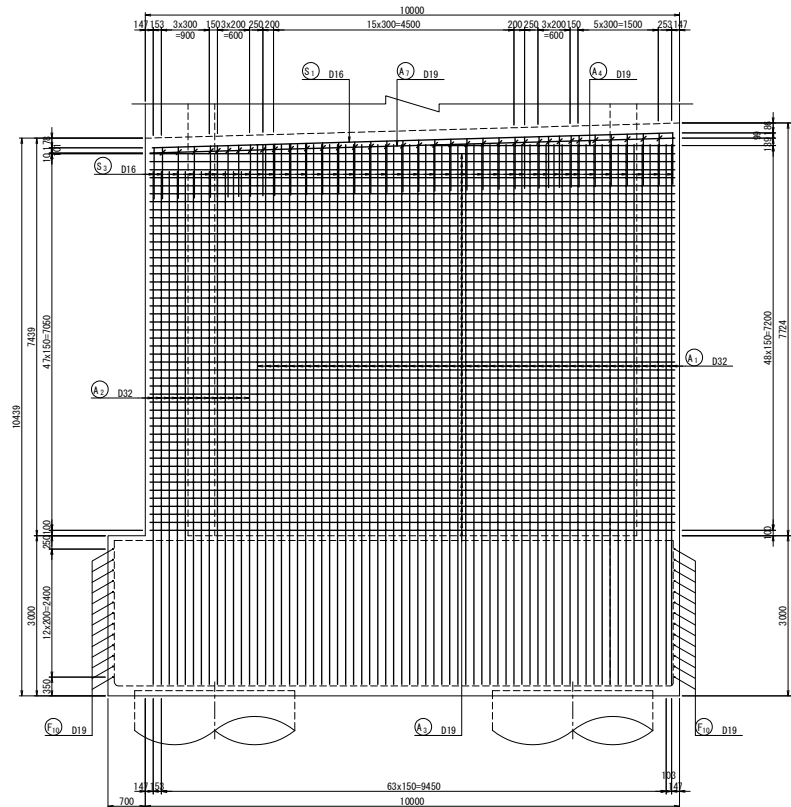
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台配筋図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



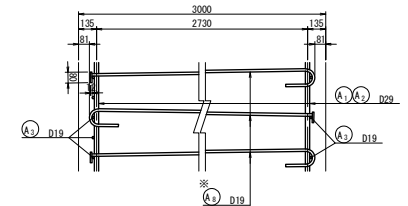
1 - 1



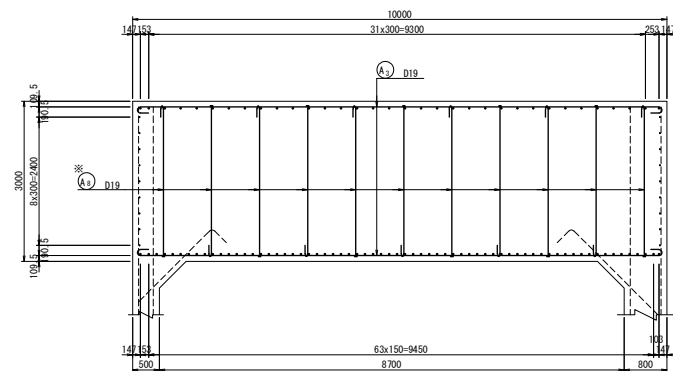
2 - 2



かぶり詳細図 S=1:40



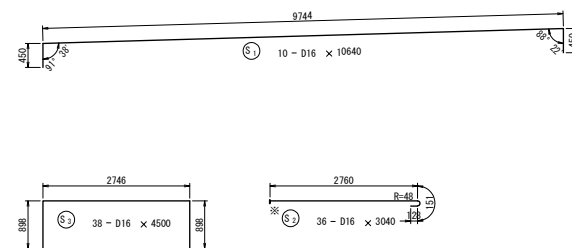
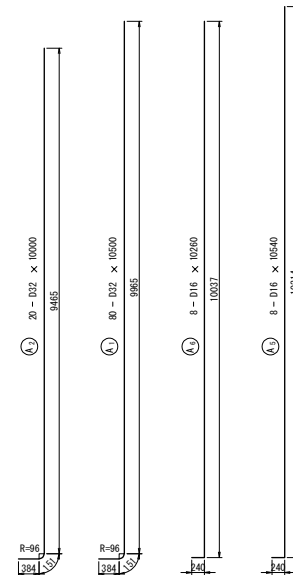
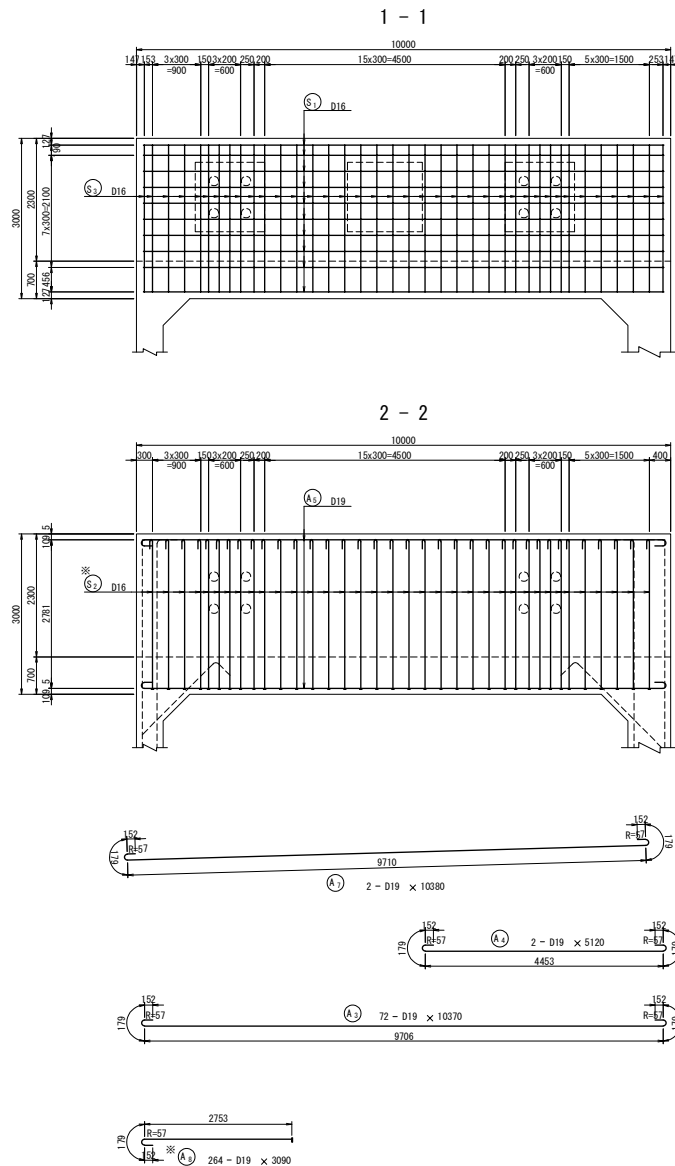
3 - 3



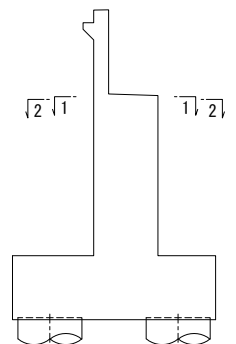
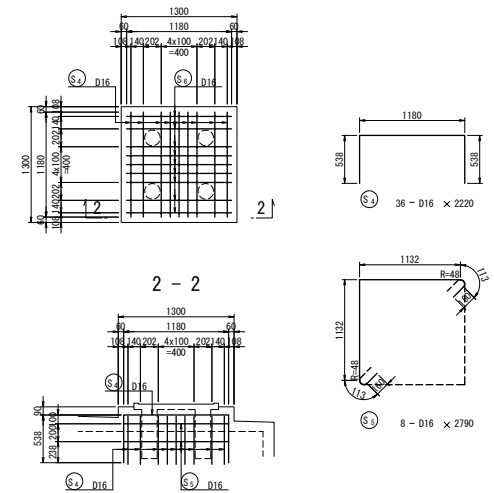
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
道路橋示方書（関係図：029、11日本道路協会）
機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（028、7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間等鉄筋に本定着体を用いる場合は構造物効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHot-bon工法であるが、他工法の採用を肯定するものではない。
- 機械式定着機については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工 事 務 所		



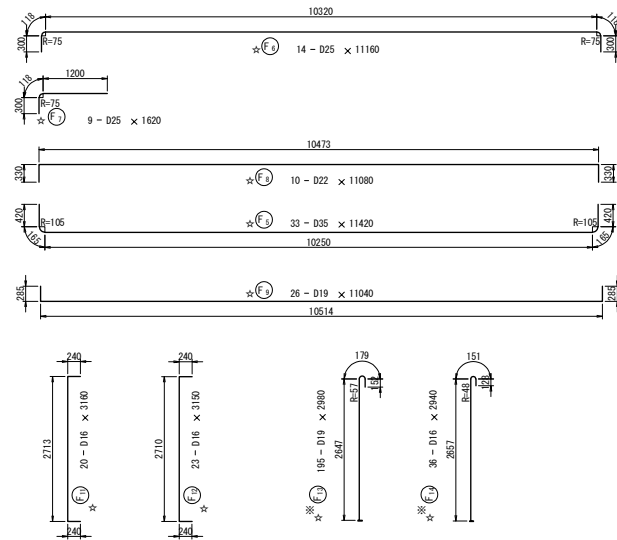
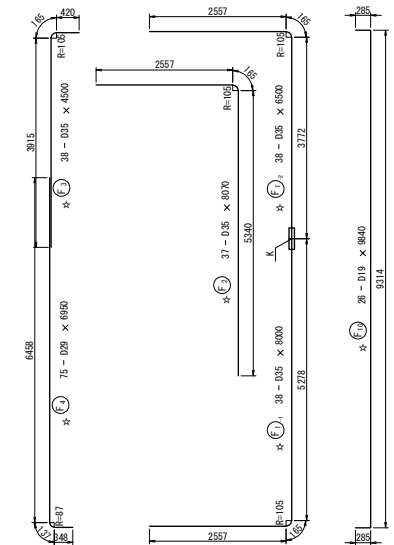
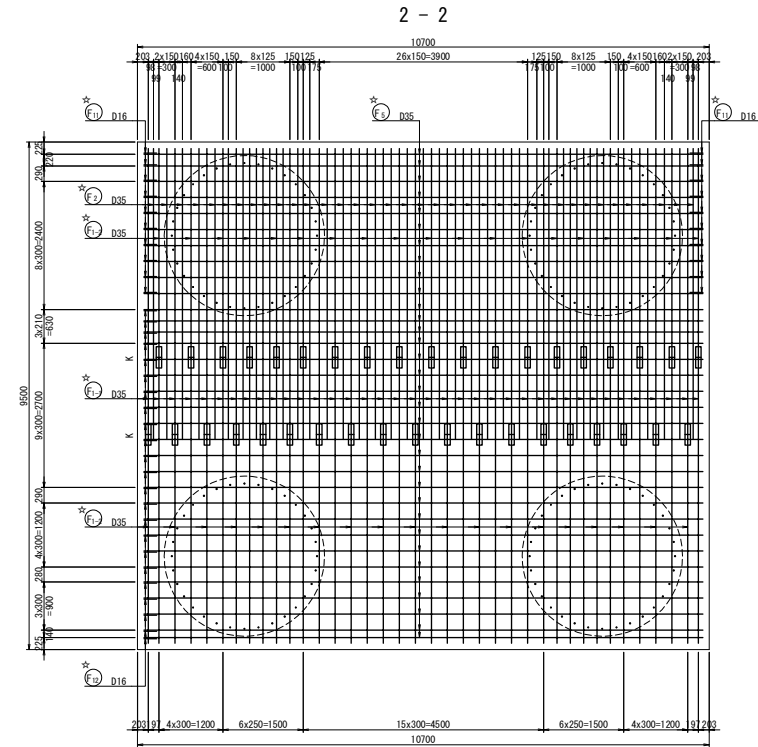
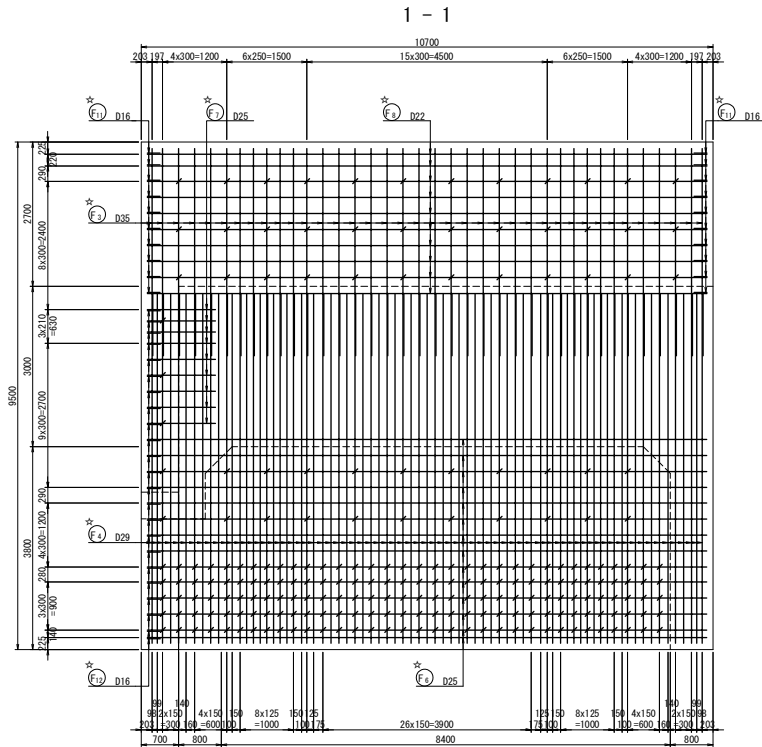
台座コンクリート補強図 S=1:60



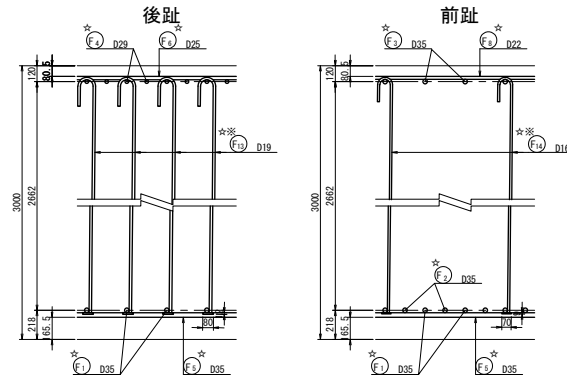
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は構造的効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はhead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式組手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式組手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

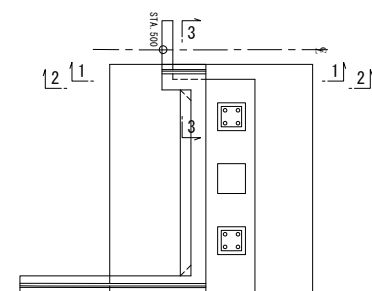
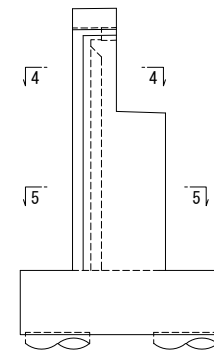
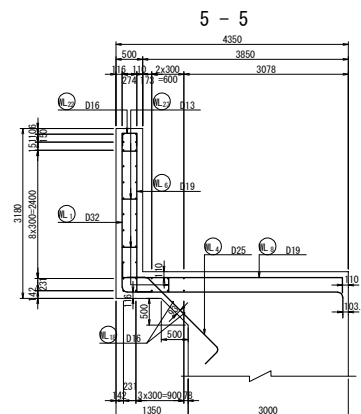
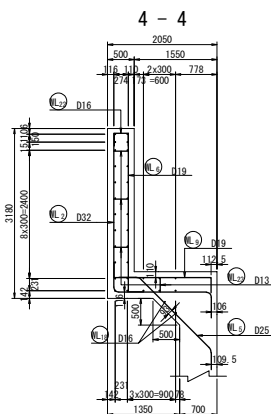
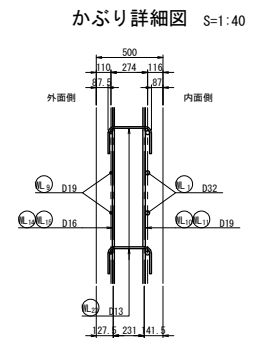
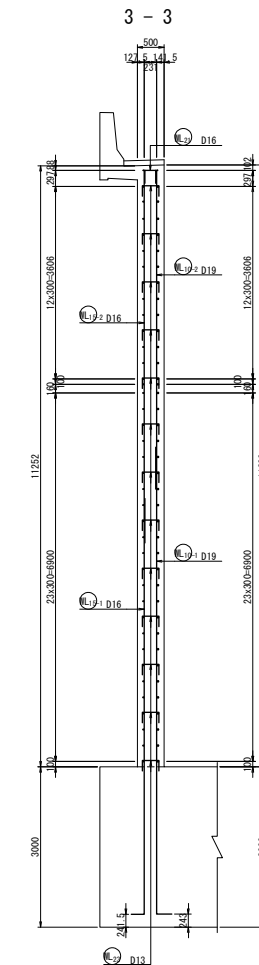
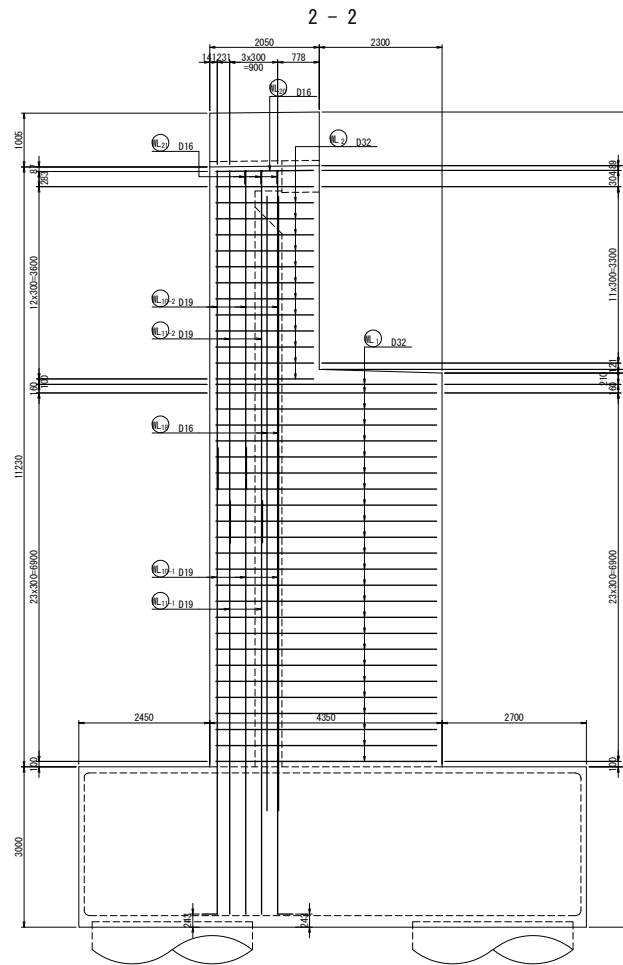
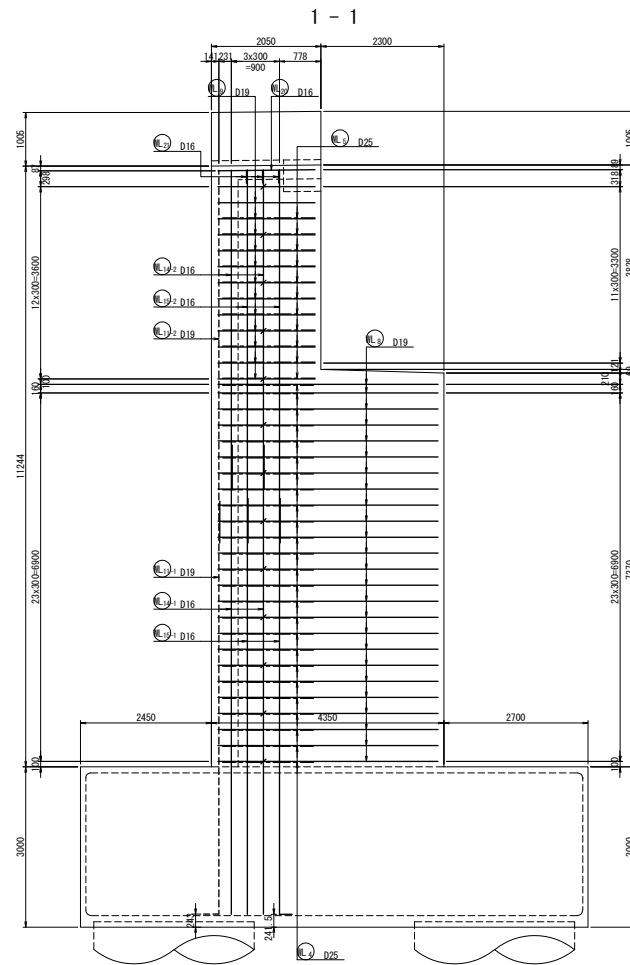


かぶり詳細図 S=1:40

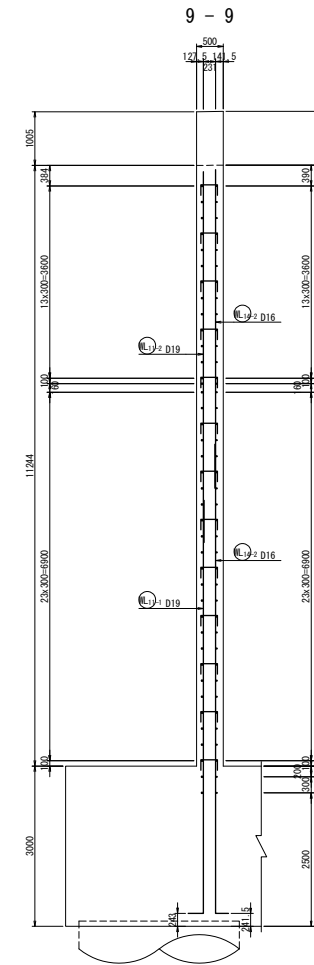
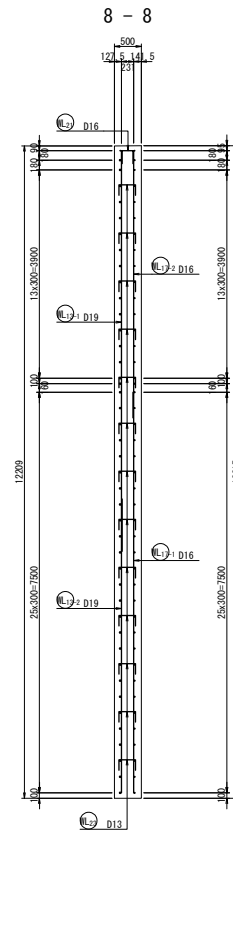
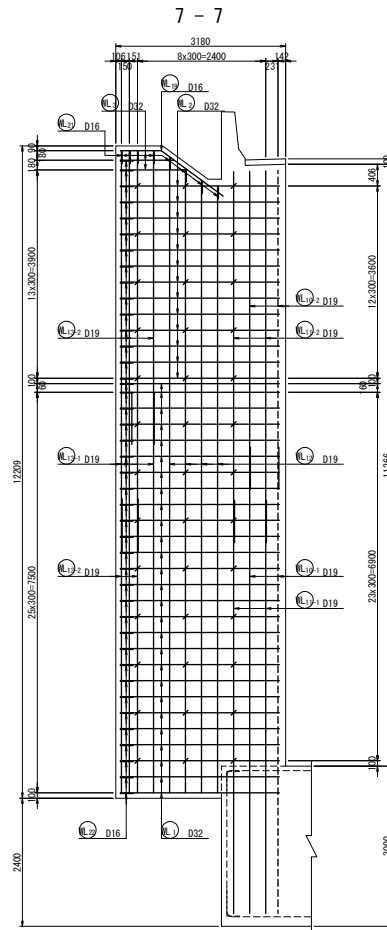
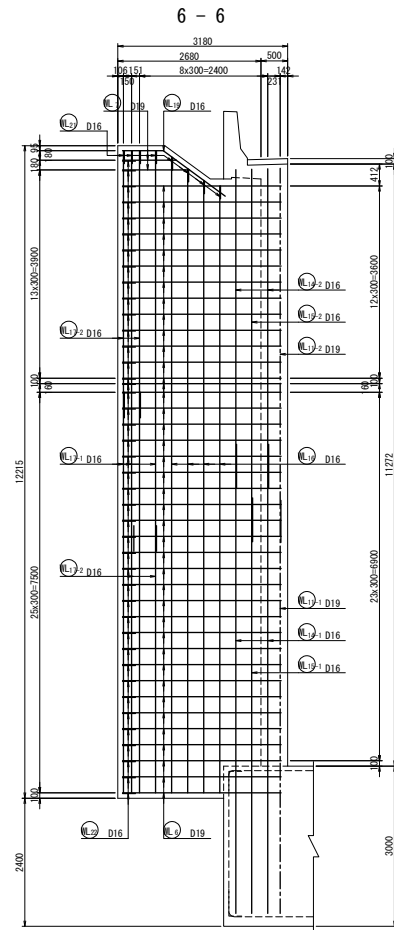


- 特記事項
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書（第4版）（H29.11日本道路協会）
- 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構造効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
 - 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監理員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 詳細図に示す定着体（Head-bar）工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
 - 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
 - ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
 - K は機械式継手を示す。

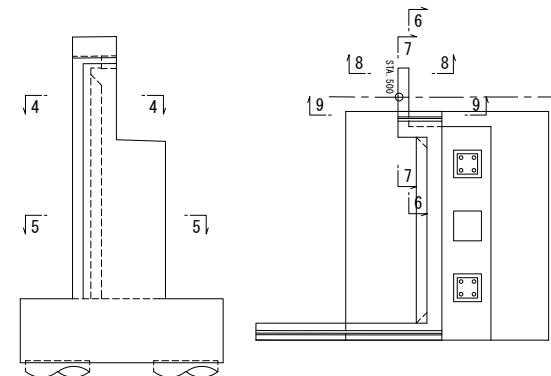
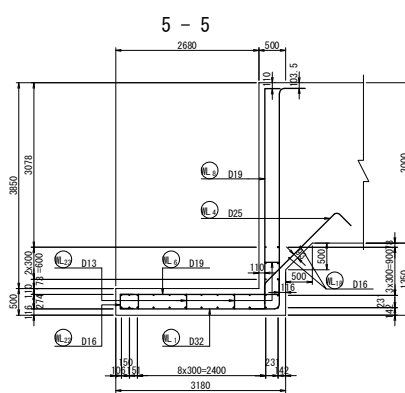
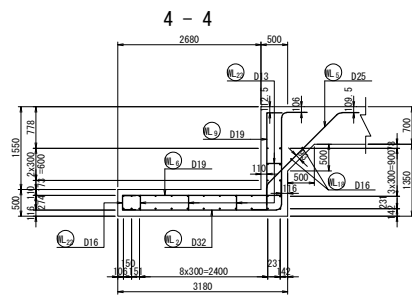
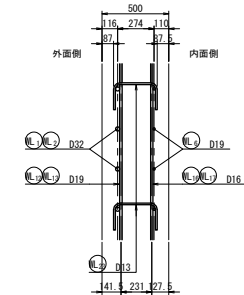
常 磐 自 動 車 道			
相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台配筋図(5)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



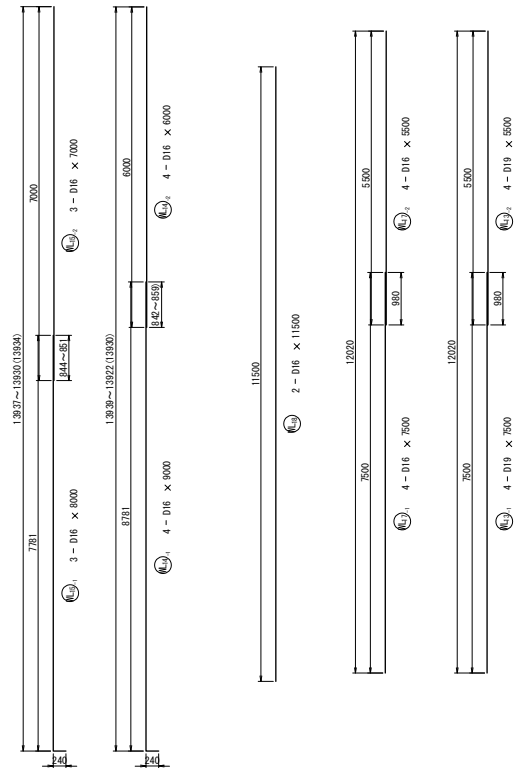
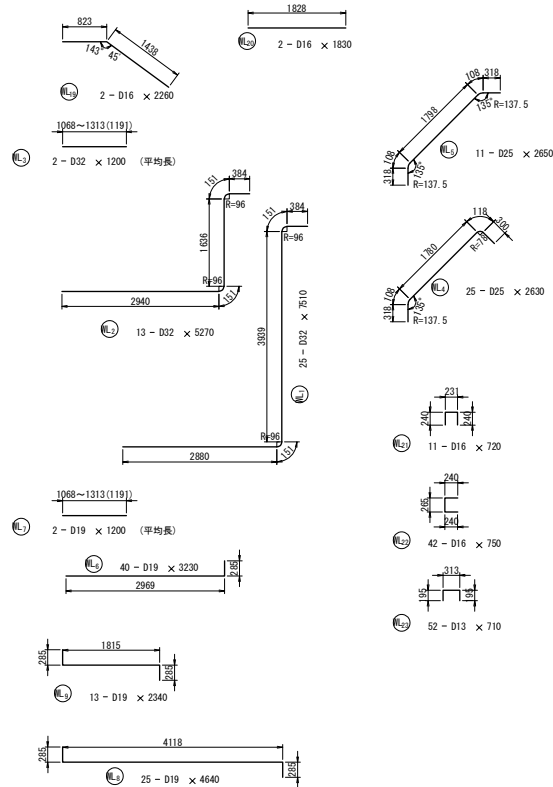
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(6)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		




かぶり詳細図 S=1:40



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(7)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

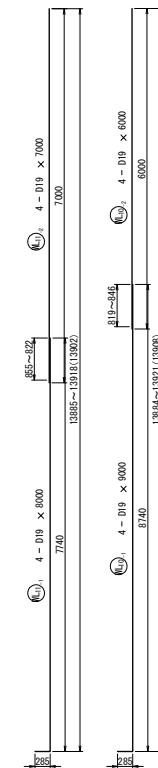


Technical drawing showing a vertical dimension line with arrows at both ends, labeled 'a'.



4 - D16 × 11610 (平均)

記号	径	本数	a	L
16 -1	D16	1	11905	119
16 -2	"	1	11685	116
16 -3	"	1	11465	114
16 -4	"	1	11360	113
平均		4		116

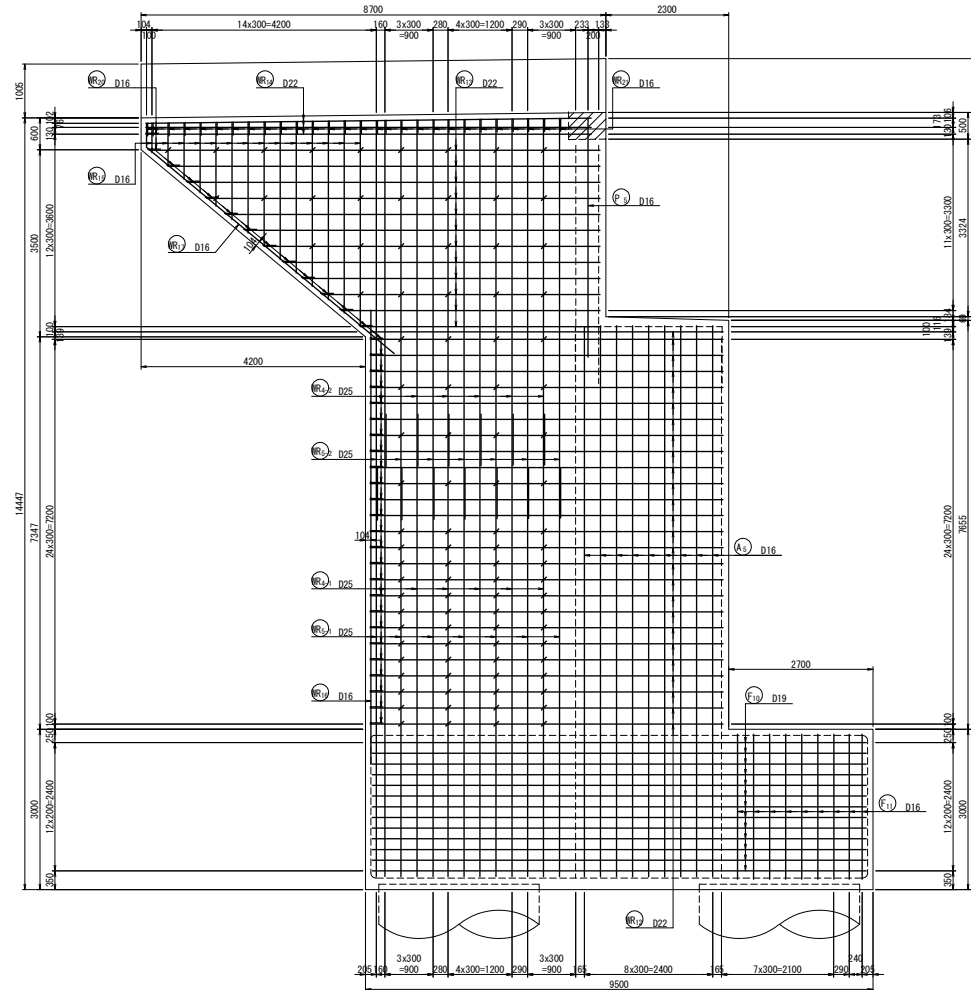


特記事項

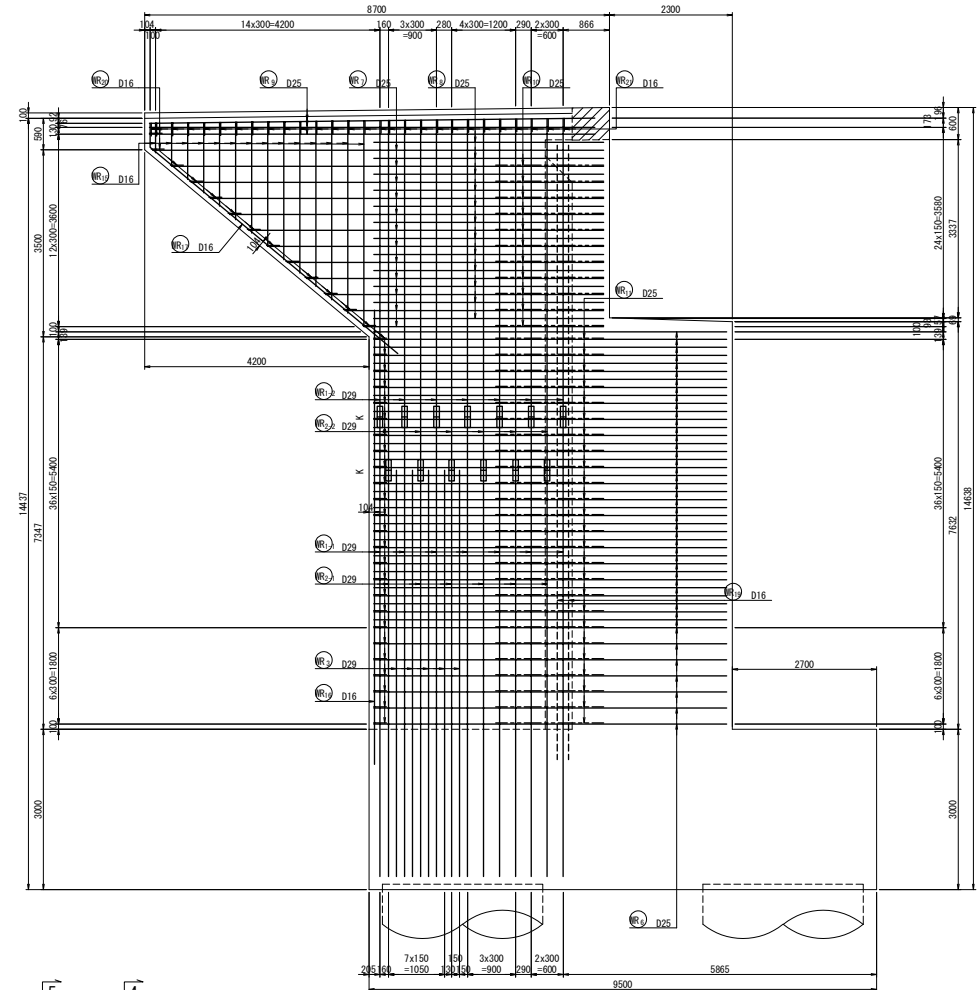
- 1) 「※」印記載は機械式特定鑑定工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満たすこと。
 - 通称「磁気式測定器」の解説(2019年11月現在)を参照。
 - 機械式特定鑑定工法の配給設計ガイドライン(2028「機械式特定鑑定工法技術検討委員会」)による、定量的な取扱い方法(測定位置・測定方向・測定姿勢)に適合する機器と、測定方向・姿勢の位置関係を定めて使用する。
 - 中・細部形状に本体定規を用いる場合は機械式磁気式測定器によるより効果的が確保された特定鑑定工法を用いること。
- 2) 機械式特定鑑定工法の適用範囲は、
 - a) 鋼製および鉄鋼材料の組立工法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - b) 詳細図に示す定規は、Hard Body工法であるが、他の工法の種類を指定するものではない。
 - c) 機械式特定鑑定については、使用品・物品の施工方法、管理方法を審査後に確認したうえで工法を実施すること。
 - d) 木材製品は通称「木材」の印刷のない場合はエボキシ樹脂塗布を示す。
 - e) Kは機械式測定器を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (8)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

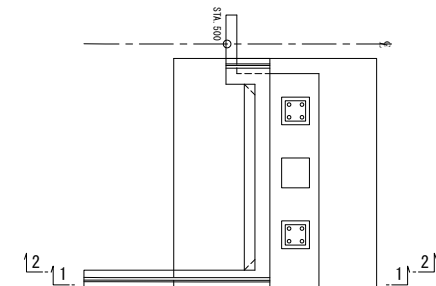
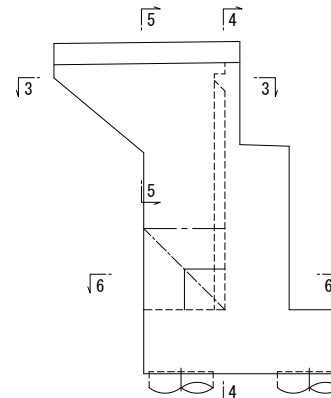
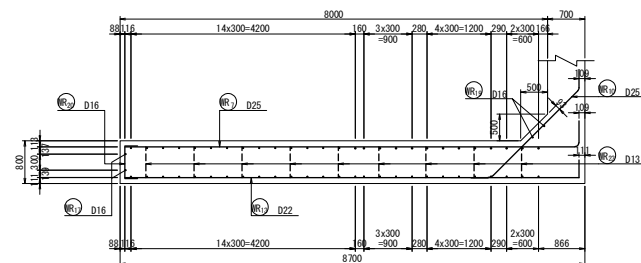
1 - 1



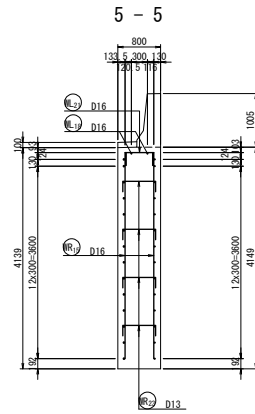
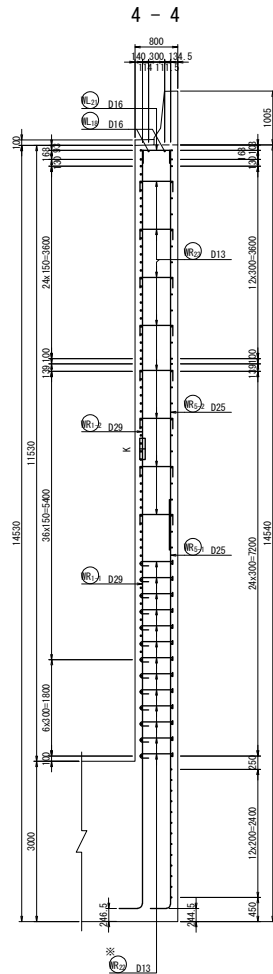
2 - 2



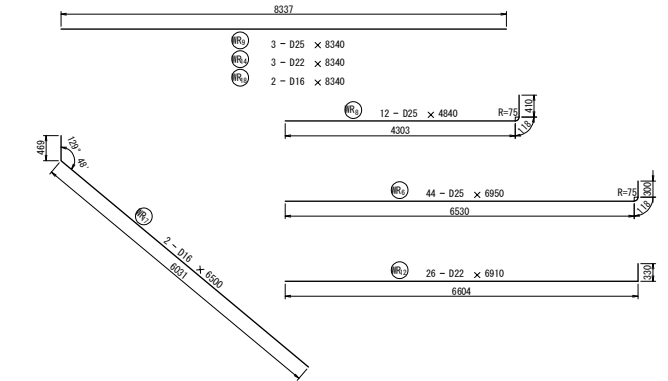
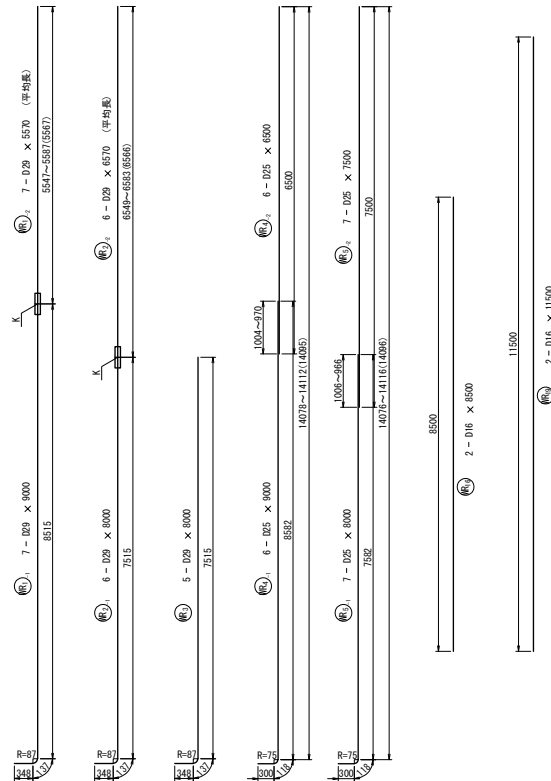
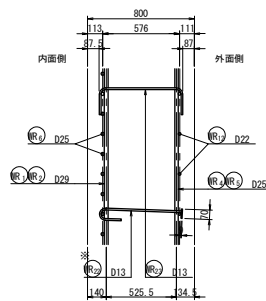
3 - 3



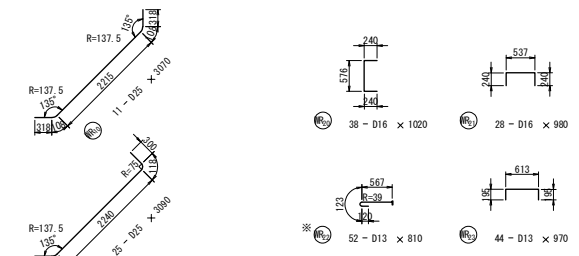
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (9)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



かぶり詳細図 S=1:40



12 - D25 × 6920 (平均長)					12 - D22 × 6770 (平均長)					28 - D16 × 2210 (平均長)				
記号	種	本数	a	L	記号	種	本数	a	L	記号	種	本数	a	L
7-1	D25	1	8369	8900	13-1	D22	1	8441	8750	15-1	D16	2	555	570
7-2	"	1	8008	8540	13-2	"	1	8081	8390	15-2	"	2	808	810
7-3	"	1	7648	8180	13-3	"	1	7721	8030	15-3	"	2	1062	1070
7-4	"	1	7288	7820	13-4	"	1	7361	7670	15-4	"	2	1315	1320
7-5	"	1	6928	7460	13-5	"	1	7001	7310	15-5	"	2	1569	1570
7-6	"	1	6568	7100	13-6	"	1	6641	6950	15-6	"	2	1822	1830
7-7	"	1	6208	6740	13-7	"	1	6281	6590	15-7	"	2	2076	2080
7-8	"	1	5848	6380	13-8	"	1	5921	6230	15-8	"	2	2329	2330
7-9	"	1	5488	6020	13-9	"	1	5561	5870	15-9	"	2	2583	2590
7-10	"	1	5128	5660	13-10	"	1	5201	5510	15-10	"	2	2836	2840
7-11	"	1	4768	5300	13-11	"	1	4841	5150	15-11	"	2	3090	3090
7-12	"	1	4408	4940	13-12	"	1	4481	4790	15-12	"	2	3343	3350
平均		12		6920	平均		12		6770	平均		28		2210



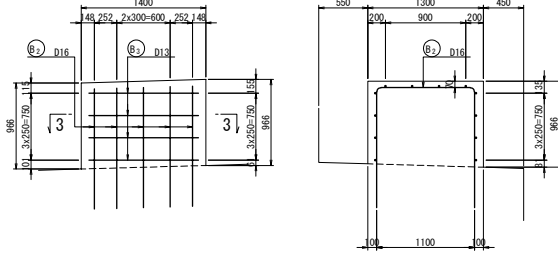
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
-道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
-機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はhook-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式鉄筋については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を免注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

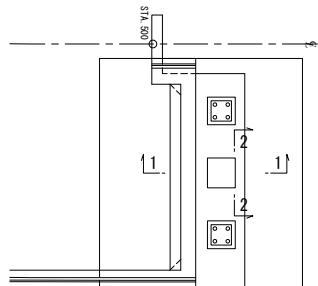
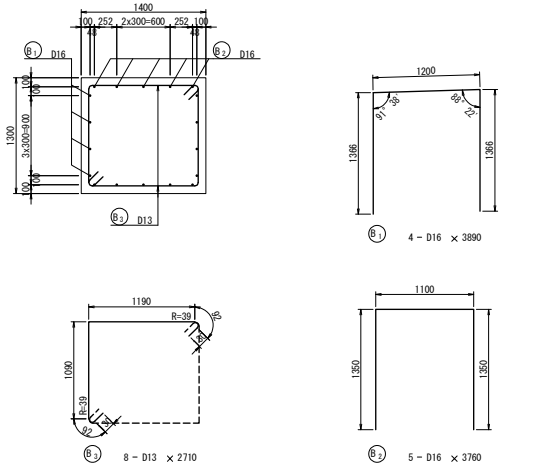
常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台配筋図(10)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

特記事項

2 - 2



3 - 3



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/本)	1本辺り質量 (kg/本)	質量 (kg)	描 要
P 1	D35	4,500	66	7.51	33.8	2,231	┌
P 2	D35	4,500	34	7.51	33.8	1,149	┌
P 3	D25	10,512	22	3.98	41.8	920	┌
P 4	D16	10,260	21	1.56	16.0	336	┌
P 5	D16	3,000	2	1.56	4.68	9	┌
P 6	D16	910	6	1.56	1.42	9	┌
P 7	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	┌
P 8	D13	710	336	0.995	0.706	237	┌
4,901 kg							
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	┌
E 2	D16	2,690	28	1.96	4.20	118	┌
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	┌
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	┌
1,922 kg							
A 1	D32	10,500	80	6.23	65.4	532	┌
A 2	D32	10,000	20	6.23	62.3	1,246	┌
A 3	D19	10,370	72	2.25	23.3	1,678	┌
A 4	D19	5,120	2	2.25	11.5	23	┌
A 5	D16	10,540	8	1.56	16.4	131	┌
A 6	D16	10,260	8	1.56	16.0	128	┌
A 7	D19	3,080	2	2.25	23.4	47	┌
A 8	D19	10,390	264	2.25	6.95	1,835	┌
10,320 kg							
S 1	D16	10,640	10	1.56	16.6	166	┌
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	┌
S 3	D16	4,500	38	1.56	7.02	267	┌
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	┌
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	┌
764 kg							
F 1-1	D35	8,000	38	7.51	60.1	2,854	┌
F 1-2	D35	6,500	38	7.51	48.8	1,284	┌
F 2	D35	8,070	37	7.51	60.6	2,242	┌
F 3	D35	4,500	38	7.51	33.8	1,284	┌
F 4	D29	6,950	75	5.04	35	2,625	┌
F 5	D35	11,420	33	7.51	85.8	2,831	┌
F 6	D25	11,160	14	3.98	44.4	622	┌
F 7	D25	1,740	8	3.98	6.93	55	┌
F 8	D22	11,080	10	3.04	33.7	337	┌
F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	┌
F 10	D19	9,840	26	2.25	22.1	575	┌
F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	┌
F 12	D16	3,150	23	1.56	4.91	113	┌
F 13	D19	2,980	195	2.25	6.71	1,308	┌
F 14	D16	2,940	36	1.56	4.59	165	┌
17,039 kg							
WL 1	D32	7,510	25	6.23	46.8	1,170	┌
WL 2	D32	5,270	13	6.23	32.8	426	┌
WL 3	D32	1,200	2	6.23	7.48	15	┌
WL 4	D25	2,630	25	3.98	10.5	263	┌
WL 5	D25	2,650	11	3.98	10.5	116	┌
WL 6	D19	3,230	40	2.25	7.27	291	┌
WL 7	D19	1,200	2	2.25	2.70	5	┌
WL 8	D19	4,640	25	2.25	10.4	260	┌
WL 9	D19	2,340	13	2.25	5.27	69	┌
WL 10-1	D19	9,000	4	2.25	20.3	81	┌
WL 10-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	┌
WL 11-1	D19	8,000	4	2.25	18.0	72	┌
WL 11-2	D19	7,000	4	2.25	15.8	63	┌
WL 12	D19	11,610	4	2.25	26.1	104	┌
WL 13-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	┌
WL 13-2	D19	5,500	4	2.25	12.4	50	┌
WL 14-1	D16	9,000	4	1.56	14.0	56	┌
WL 14-2	D16	6,000	4	1.56	9.36	37	┌
WL 15-1	D16	8,000	3	1.56	12.5	38	┌
WL 15-2	D16	7,000	3	1.56	10.9	33	┌
WL 16	D16	11,610	4	1.56	18.1	72	┌
WL 17-1	D16	7,500	4	1.56	11.7	47	┌
WL 17-2	D16	5,500	4	1.56	8.58	34	┌
WL 18	D16	11,500	2	1.56	17.9	36	┌
WL 19	D16	2,260	2	1.56	3.53	7	┌
WL 20	D16	1,830	2	1.56	2.85	6	┌
WL 21	D16	720	11	1.56	1.12	12	┌
WL 22	D16	750	42	1.56	1.17	49	┌
WL 23	D13	710	52	0.995	0.706	37	┌
3,571 kg							

鉄筋表

[illegible]

機械式鉄筋定着工法数量表（普通鉄筋）

鉄筋径	箇 所 数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤
D13	----	----	----	----	----	----
D16	----	----	36	----	----	----
D19	----	----	195	----	----	----
D22	----	----	----	----	----	----
D25	----	----	----	----	----	----
小 計	----	----	231	----	----	----
合 計						231 箇所

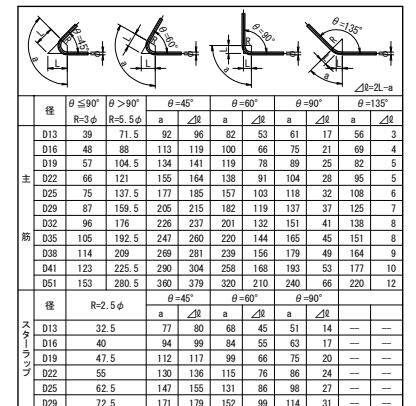
特記事項

- [illegible]

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A + B + C
普通鉄筋	D51 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D41 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D38 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D35 6357 kg	4138 kg (38)	〓 kg	10495 kg
	D32 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D29 2625 kg	〓 kg	〓 kg	2625 kg
	D25 677 kg	〓 kg	〓 kg	677 kg
	D22 337 kg	〓 kg	〓 kg	337 kg
	D19 1220 kg	〓 kg	1308 kg	2528 kg
	D16 212 kg	〓 kg	165 kg	377 kg
	D13 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
合計	11428 kg	4138 kg	1473 kg	17039 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D41 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D38 〓 kg	〓 kg	〓 kg	〓 kg
	D35 3380 kg	〓 kg	〓 kg	3380 kg
	D32 8089 kg	〓 kg	〓 kg	8089 kg
	D29 202 kg	956 kg (13)	〓 kg	1158 kg
	D25 4424 kg	〓 kg	〓 kg	4424 kg
	D22 888 kg	〓 kg	〓 kg	888 kg
	D19 2865 kg	〓 kg	1635 kg	4700 kg
	D16 2373 kg	〓 kg	171 kg	2544 kg
	D13 864 kg	〓 kg	279 kg	1143 kg
合計	23085 kg	956 kg	2285 kg	26326 kg
総質量	34513 kg	5094 kg	3758 kg	43365 kg

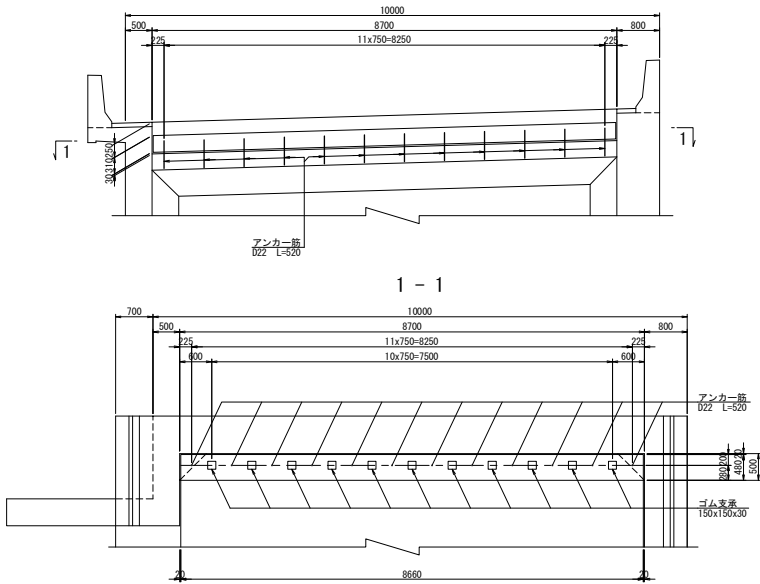
機械式鉄筋定着工法数量表（エポキシ鉄筋）

鉄径径	箇 所 数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	388	-----	-----	-----	-----	-----
D16	-----	-----	-----	36	-----	-----
D19	-----	-----	-----	264	-----	-----
D22	-----	-----	-----	-----	-----	-----
D25	-----	-----	-----	-----	-----	-----
小 計	388	-----	-----	300	-----	-----
合 計						688 箇所

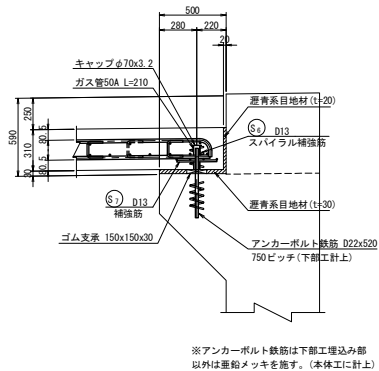


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(13)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

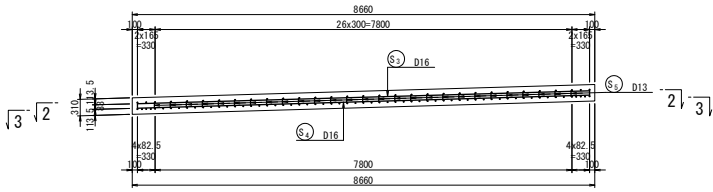
受台部横断面図



受台部詳細図 S=1:40

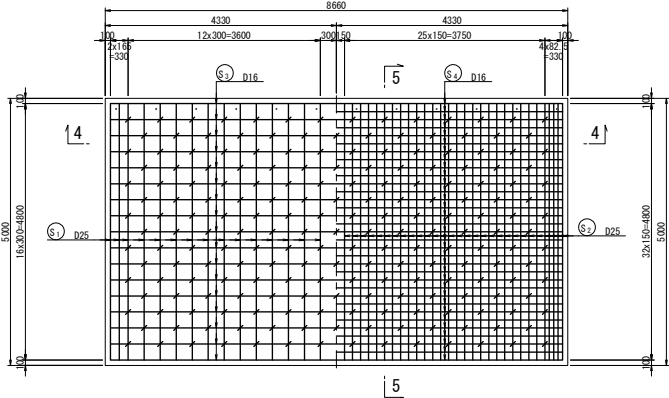


4 - 4

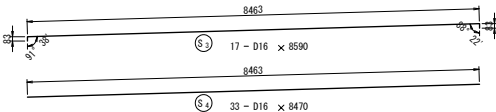
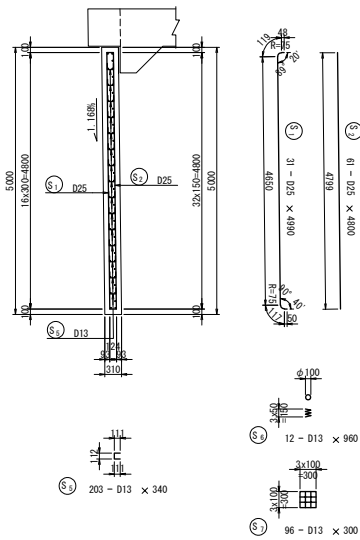


2 - 2

3 - 3



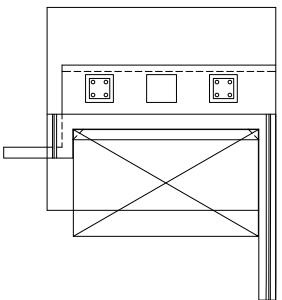
5 - 5



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D25	4,990	31	3.98	19.86	616	—	
S 2	D25	4,800	61	3.98	19.10	1,165	—	
S 3	D16	8,590	17	1.56	13.40	228	—	
S 4	D16	8,470	33	1.56	13.21	436	—	
S 5	D13	340	203	0.995	0.34	69	—	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	—	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
2,555 kg								
(SD345) D13							110 kg	
(SD345) D16							664 kg	
(SD345) D25							1,781 kg	
合計							2,555 kg	

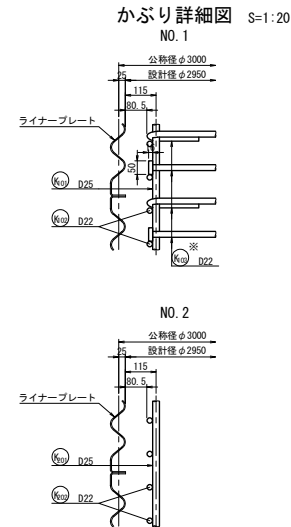
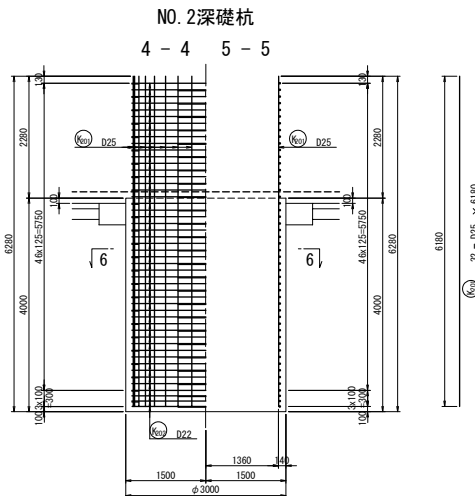
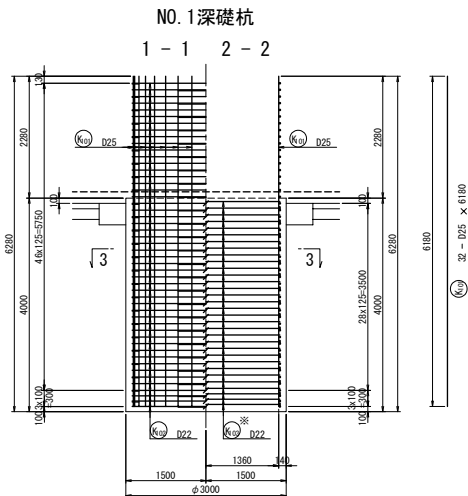
位置図



下部工計上以外施工対象外(舗装工事施工)

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台踏掛版配筋図	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1) S=1:100
〈φ3000 杭長 L=4.0m, N=2本〉

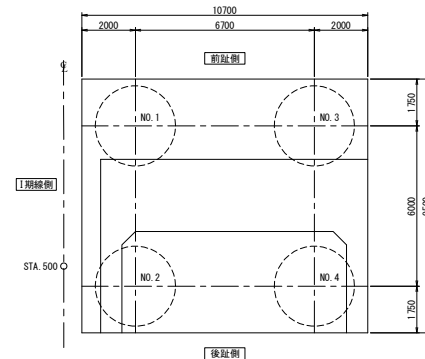
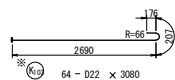
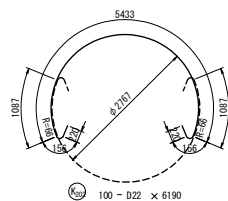
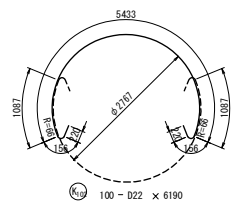
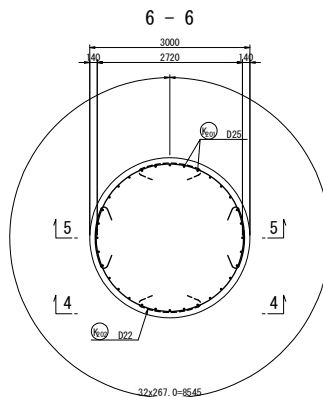
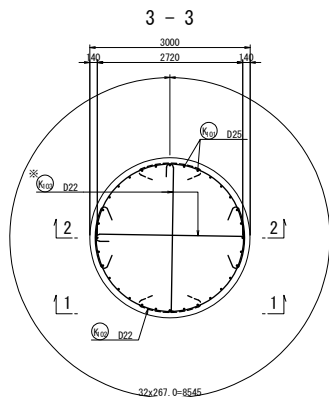


鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
NO.1深礎杭							
K 101	D25	6,180	32	3.98	24.6	787	
K 102	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880	
K 103	D22	3,080	64	3.04	9.36	599	
						3,266 kg	
				鉄筋A	鉄筋C		
				(SD345) D22	1,880 kg	599 kg	
				(SD345) D25	787 kg		
				合計	2,667 kg	599 kg	
NO.2深礎杭							
K 201	D25	6,180	32	3.98	24.6	787	
K 202	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880	
						2,667 kg	
				鉄筋A	鉄筋C		
				(SD345) D22	1,880 kg		
				(SD345) D25	787 kg		
				合計	2,667 kg		

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	面 所 数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	---	64	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小 計	---	---	---	64	---	---
合 計	---	---	---	64	---	---



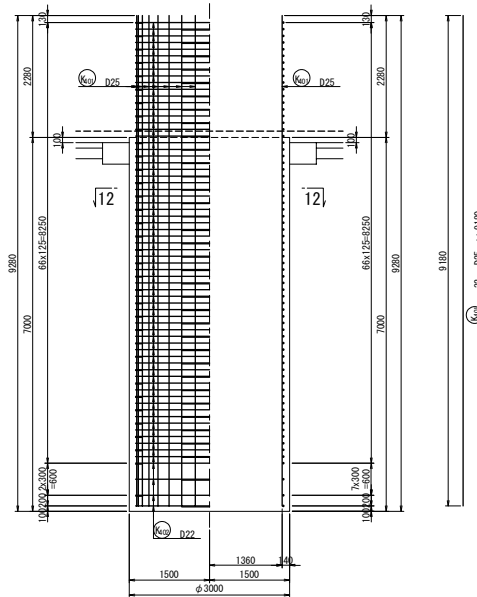
特記事項

機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は構構東効果の実験等により効果が発現された定着工法を用いること。
3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

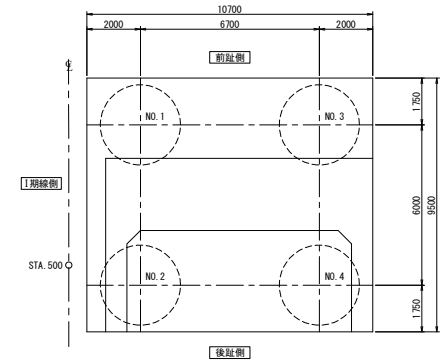
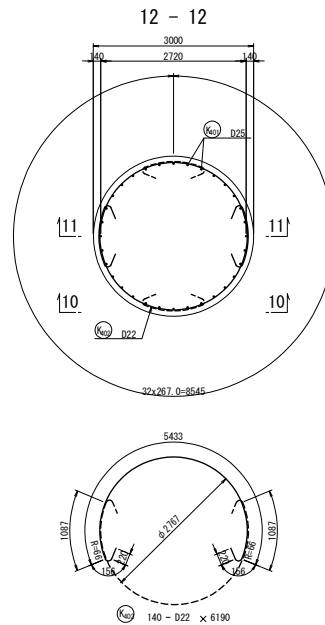
常 常 自 助 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

10 - 10 11 - 11



鉄筋表

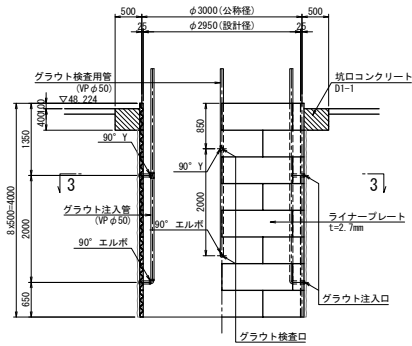
記号	径 (mm)	長 (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当りの質量 (kg・本)	質量 (kg)	検査
NO.3深堀坑							
K 301	D29	9,320	32	5.04	47.0	1,504	○
K 302	D22	6,180	142	3.04	18.8	2,670	○
						4,174 kg	
						鉄筋A	鉄筋C
(SD345) D22						2,670 kg	
(SD345) D29						1,504 kg	
合計						4,174 kg	
NO.4深堀坑							
K 401	D25	9,180	32	3.98	36.5	1,168	○
K 402	D22	6,190	140	3.04	18.8	2,632	○
						3,800 kg	
						鉄筋A	鉄筋C
(SD345) D22						2,632 kg	
(SD345) D25						1,168 kg	
合計						3,800 kg	



常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

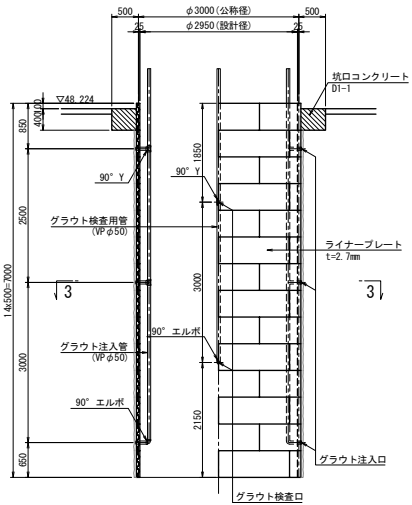
NO. 1, 2深礎杭

1 - 1 2 - 2

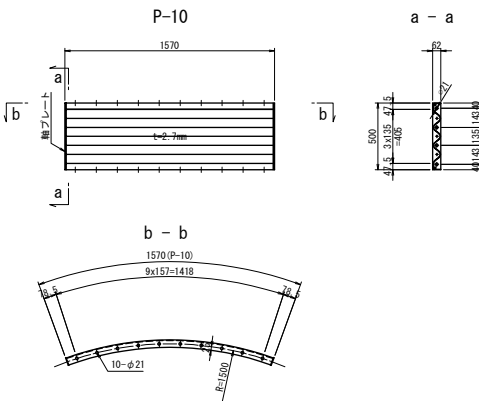


NO. 3, 4深礎杭

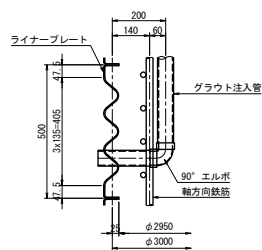
1 - 1 2 - 2



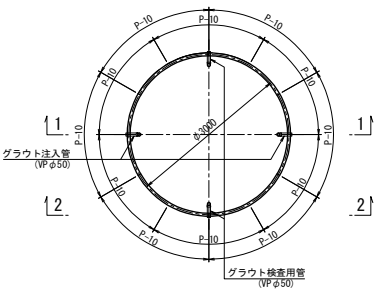
ライナープレート詳細図 S=1:40



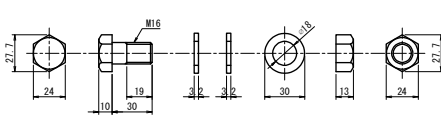
配管詳細図 S=1:20



3 - 3



組立ボルト詳細図 S=1:4

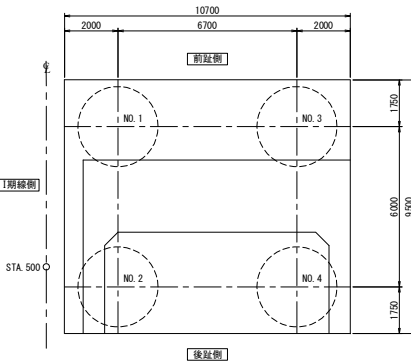


ライナープレート材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	単位質量	質量 (kg)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	96	26.0	2,496	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6 LP組立て用)	1,224	0.137	168	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	168	26.0	4,368	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6 LP組立て用)	2,232	0.137	306	
ライナープレート			6,864 kg		
組立ボルト			474 //		
合計			7,338 kg		

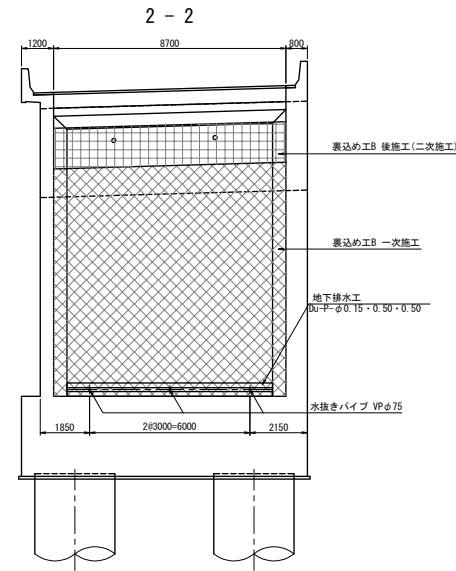
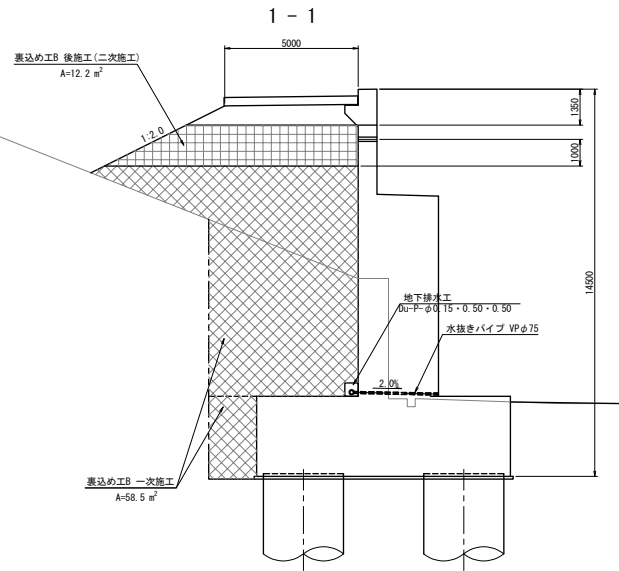
グラウト注入管材料表 (参考)

名 称	規 格 寸 法	数 量	延長 (m)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)				
直管	VP 50	—	22.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	8	—	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)				
直管	VP 50	—	46.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	12	—	
坑口コンクリートD1-1	2.2 m ³	1本当たり		
坑口型枠D	8.8 m ²	4本当たり		
坑口型枠D	5.025m ²	1本当たり		
坑口型枠D	20.1 m ²	4本当たり		

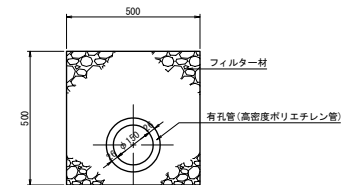


・ 本図で示す標高はすべてT.P表示とする。

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭土留工図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

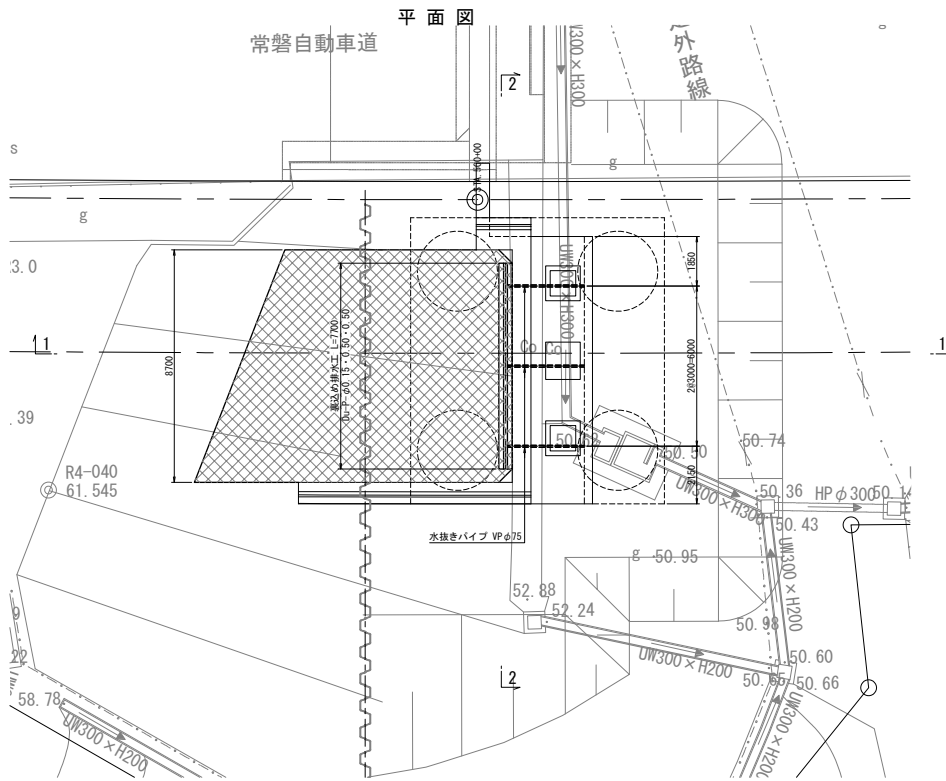


地下排水工詳細図 S=1:40
Du-P-φ0.15・0.50・0.50

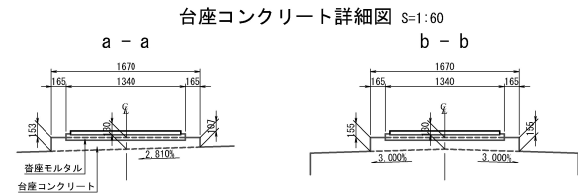
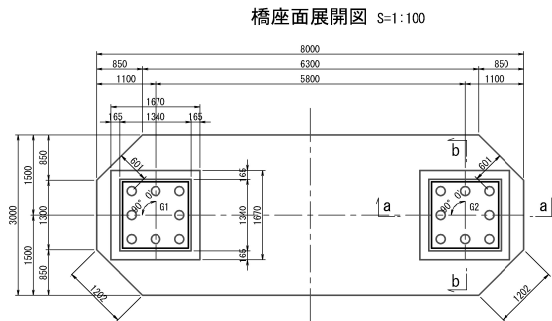
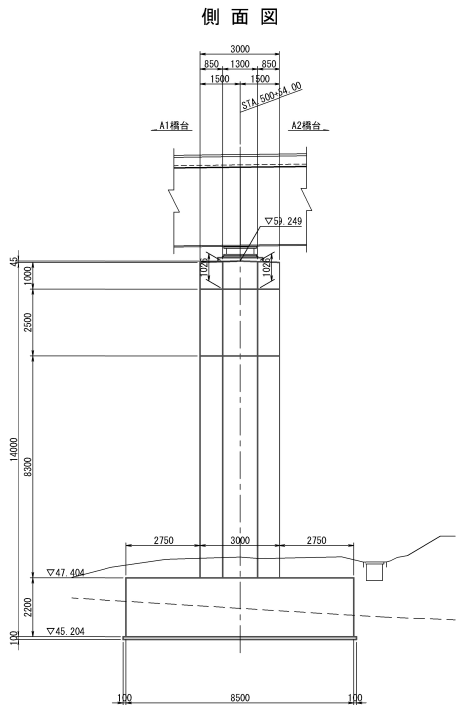
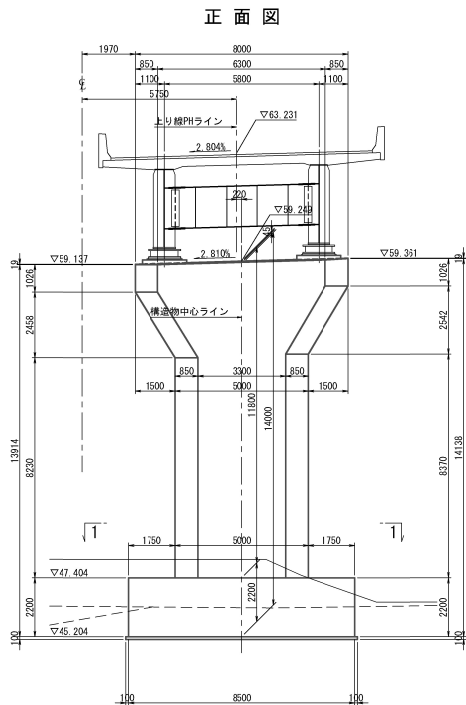


数量表

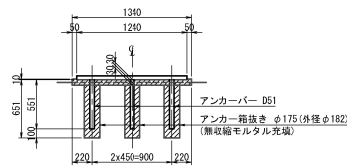
項目	種別	単位	数量	備考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m³	509.0	
	裏込め工B (舗装工事施工)	m³	106.1	二次施工
地下排水工	Du-P-φ0.15・0.50・0.50	m	7.7	



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台裏込め工排水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

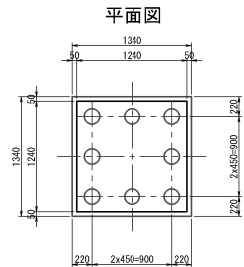
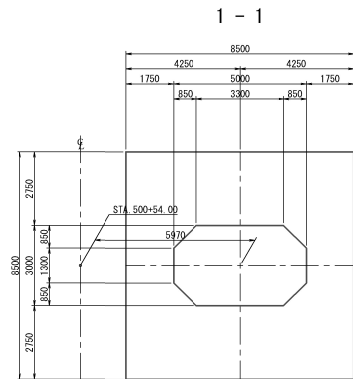
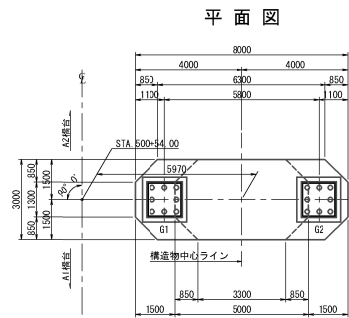


支承箱抜き詳細図 S=1:60



構造高表

		G1	G2
路面標高	Z1	63.156	63.318
箱底厚	h1	0.080	0.080
庇板厚	h2	0.310	0.310
ハンチ高	h3	0.100	0.100
主桁高	h4	2.900	2.900
下フランジ厚	h5	0.067	0.067
ソールプレート厚	h6	0.030	0.030
支承高	h7	0.365	0.365
管座面標高	Z2	59.305	59.468
管座モルタル厚	h8	0.030	0.030
台座コンクリート高	h9	0.130	0.130
構造高合計	H	4.012	4.012
下部工天端標高	Z3	59.144	59.306

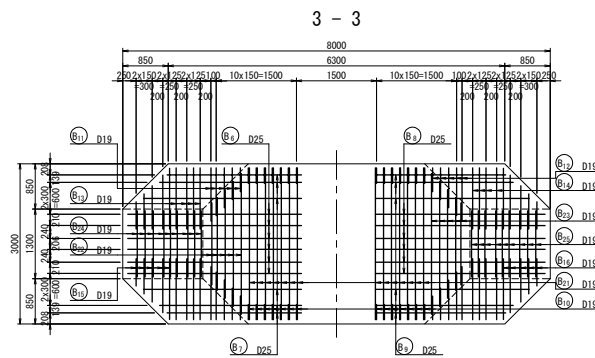
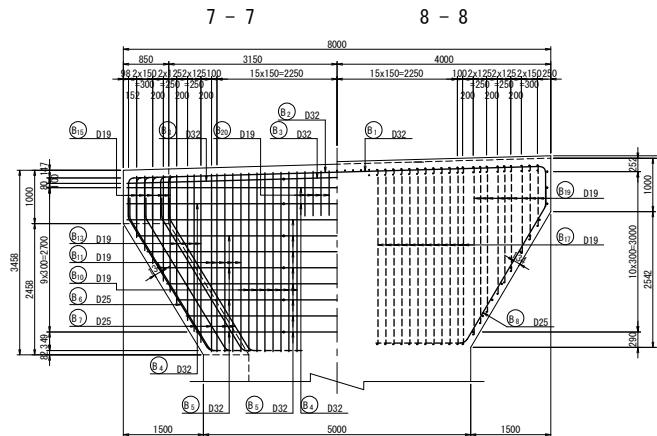
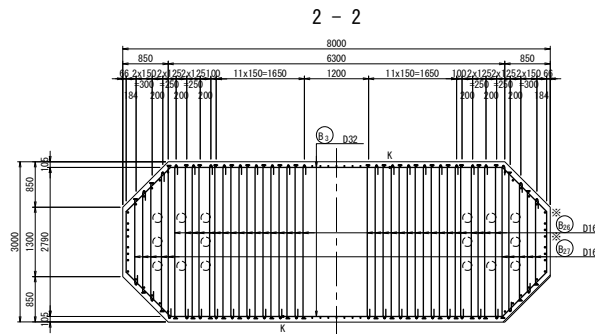
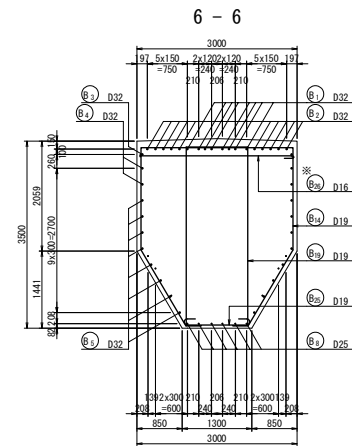
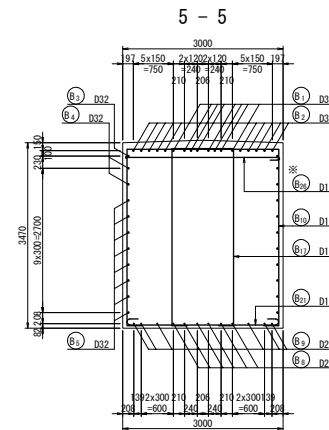
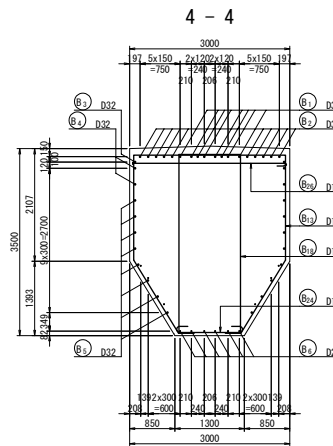
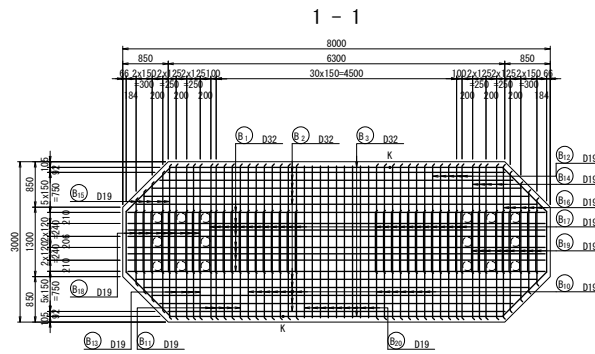


設計条件

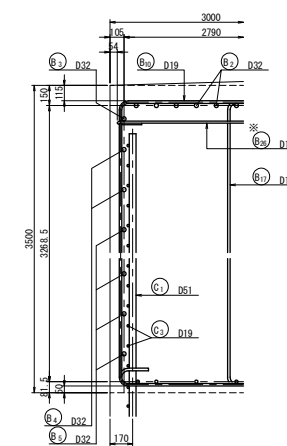
道 路 規 格	第1種 2車 8規格
重 要 度 区 分	B種の橋
活 荷 重	B活荷重
地 域 区 分	A2地区
地 盤 種 別	I種地盤
斜 角	2.8%
適 用 示 方 書	道路橋示方書 解説 社 日本道路協会 (平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社 (平成28年6月)
設計	レベルI レベル2-I レベル2-II
計画	橋軸方向 0.20 0.83 0.85
水国	直交方向 0.20 0.84 0.85
下 部 構 造	形式 橋脚 橋脚基礎 基礎 橋脚基礎 コンクリート 梁 柱: σ tk=30N/mm ² 、底版: c tk=24N/mm ² 鉄 筋 SD345 支持地盤 シルト岩 (W (s) 層)

・本図で示す標高はすべてP表示とする。

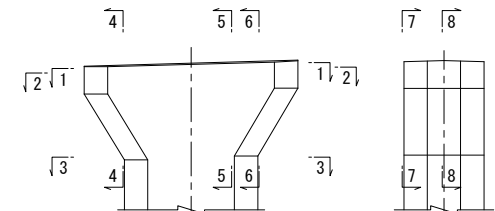
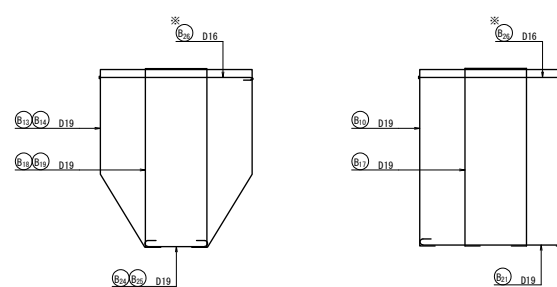
常 設 自 動 車 道	相 馬 工 事
図面の種類	かやぐらばし
縮 尺	図 示
図面番号	P1橋脚構造一般図
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
施工会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所



かぶり詳細図 S=1:40



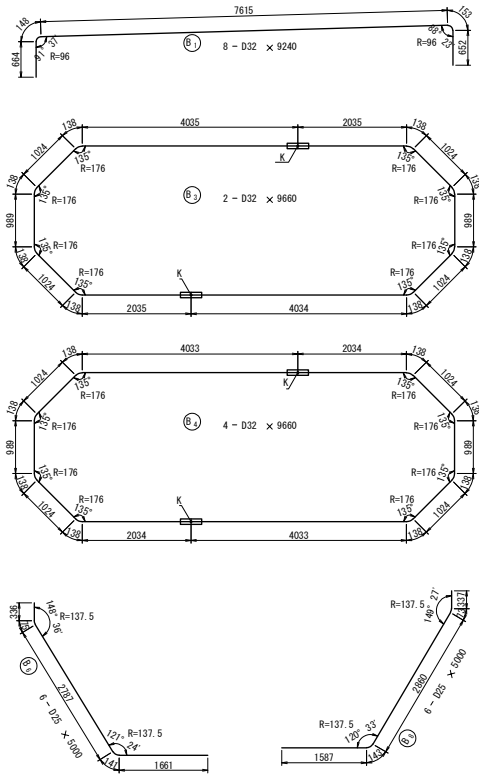
スターラップ組立図 etc150



特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 ・道路橋示方書：同解説（H29.11日本道路協会）
 ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H29.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
 なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
 また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋梁効果の実験等による効果が確認された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式組立については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を美注者に確認してから工事を実施すること。
- K は機械式組手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	P1橋脚配筋図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



Technical drawing of a mechanical part (Fig. 7) showing dimensions and a table of data.

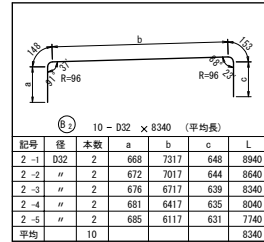
Dimensions and features:

- Top left: 336, 180, $R=137.5$, 36°
- Top right: 127, $R=137.5$, 24°
- Bottom left: 6 - D25 \times 4470 (平均長)

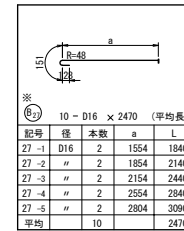
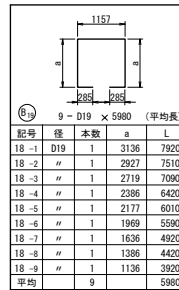
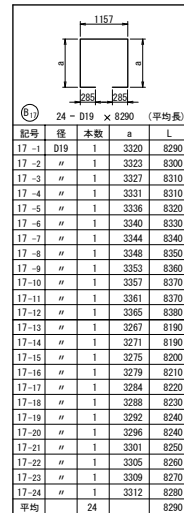
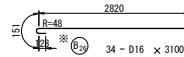
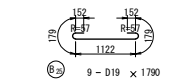
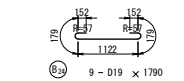
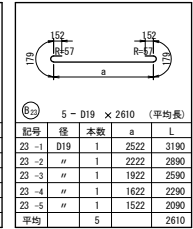
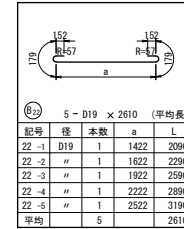
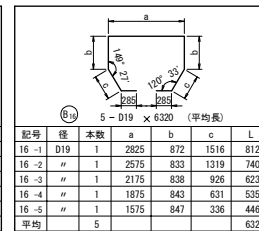
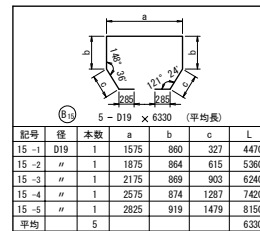
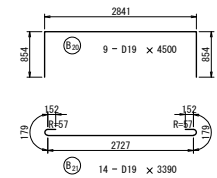
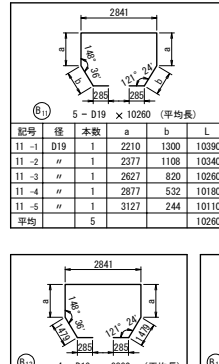
記号	径	本数	a	L
7 - 1	D25	2	1364	4710
7 - 2	"	2	1064	4410
7 - 3	"	2	925	4270
平均		6		4470

Technical drawing of a bent pipe. The drawing shows a horizontal section of length 'a' and a vertical section of length 'b'. The horizontal section has an outer radius $R=137.5$ and an inner radius $r=120$. The vertical section has an outer radius $R=137.5$ and an inner radius $r=120$. The bend angle is 27° . The total length of the pipe is $6 - D25 \times 4470$ (average length). The drawing also shows a cross-section of the pipe with an outer diameter of $\phi 9$ and an inner diameter of $\phi 7$.

記号	径	本数	a	L
9-1	D25	2	1290	4710
9-2	"	2	990	4410
9-3	"	2	851	4270
平均		6		4470



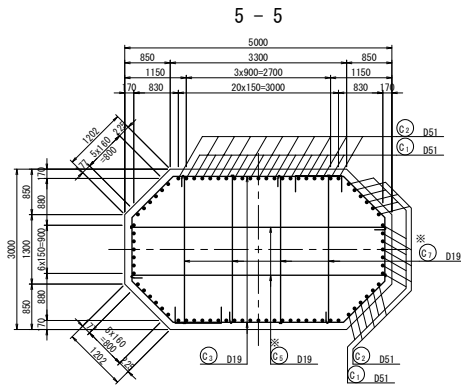
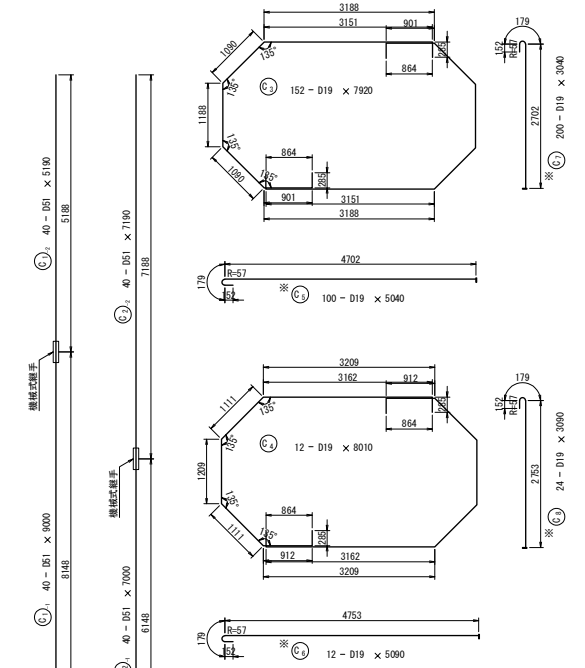
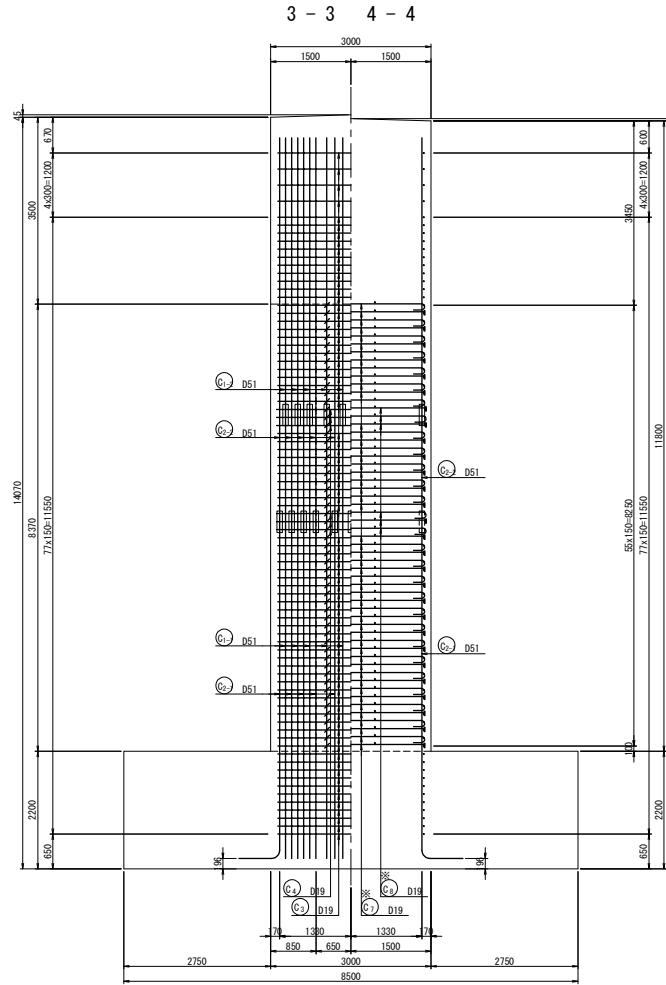
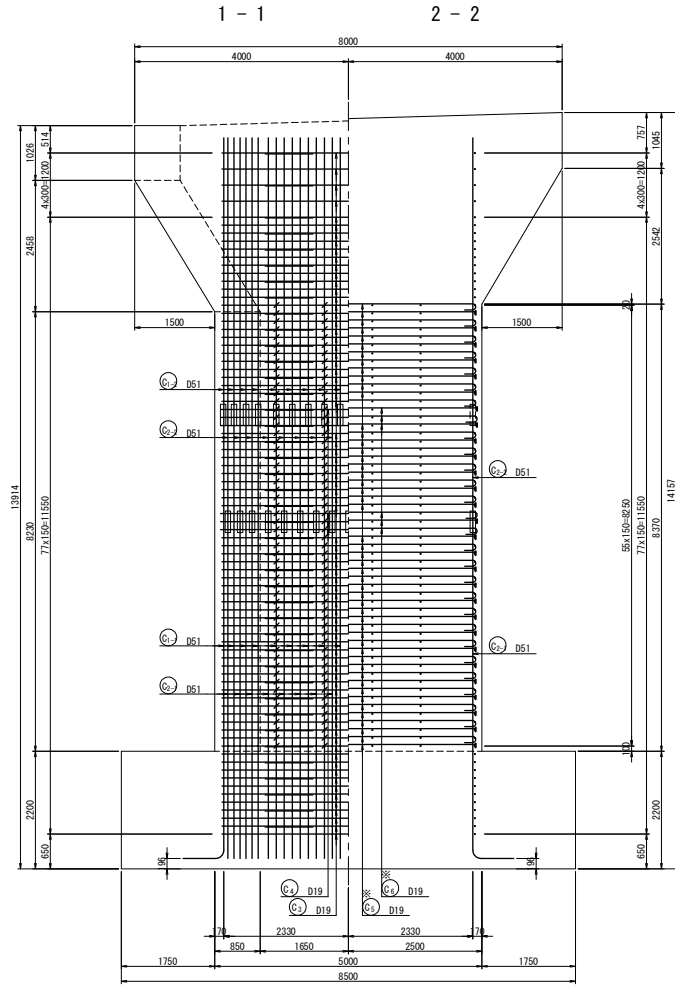
記号	径	本数	a	b	c	d	L
5-1	D32	1	4033	2034	—	—	9660
5-2	"	1	—	—	3887	1888	9370
5-3	"	1	3837	1838	—	—	9270
5-4	"	1	—	—	3710	1711	9010
5-5	"	1	3654	1655	—	—	8900
5-6	"	1	—	—	3533	1534	8660
5-7	"	1	3471	1472	—	—	8540
5-8	"	1	—	—	3356	1357	8310
5-9	"	1	3288	1289	—	—	8170
5-10	"	1	—	—	3179	1180	7950
5-11	"	1	3105	1106	—	—	7800
5-12	"	1	—	—	3002	1003	7600
5-13	"	1	2922	923	—	—	7440
5-14	"	1	—	—	2825	826	7240
5-15	"	1	2739	740	—	—	7070
5-16	"	1	—	—	2648	649	6890
平均		16					8250



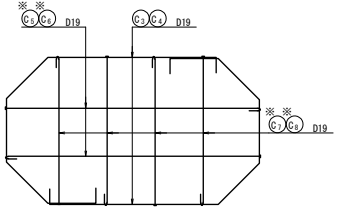
特記事項

- ① 「1」 印表機に機械式検定装置を示すことが、適宜にあつては下記の事項を添付すること。
選定理由等 向附第12回 日本機械学会「機械式検定装置の設計と製造」(第28、29機械式検定装置設計技術検討委員会)による、定常時の検定方法、工事現場に於ける定常時と非定常時の検定方法を変更してのこと。
また、世間標準「日本定規製造業協会の定規製造業の標準」による効力が保たれた定規工を用いること。
- ② 機械式検定装置の検定方法については、管理方法の提案を待てるまで工事を行わない。
検査員による定常時Head-BとHead-Cが、他工場の検定を定まるまで行うこと。
- ③ 機械式検定については、使用品目と施工方法、管理方法を等差注記を記載して施工工を明確にする。
- ④ 互換機械規格については、

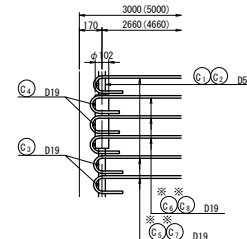
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



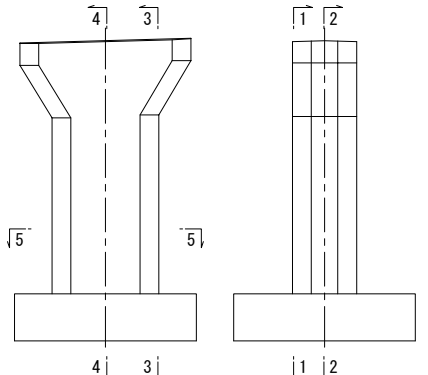
帯鉄筋組立図 ctc150



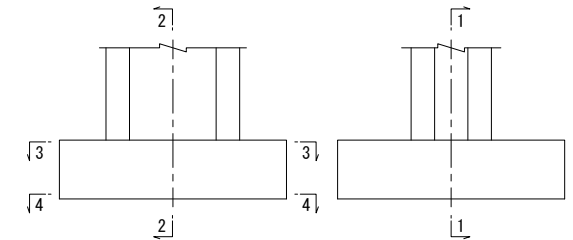
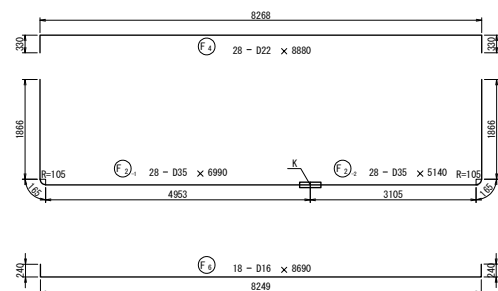
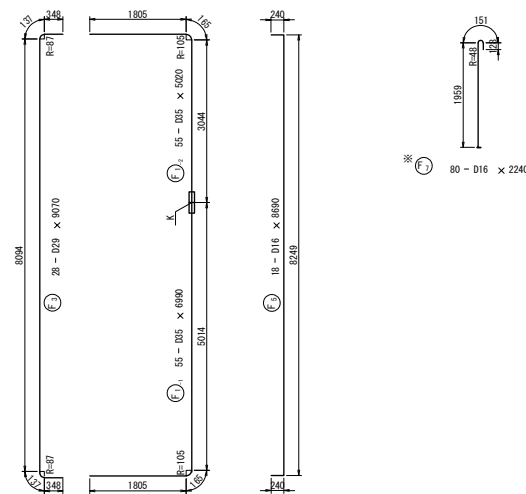
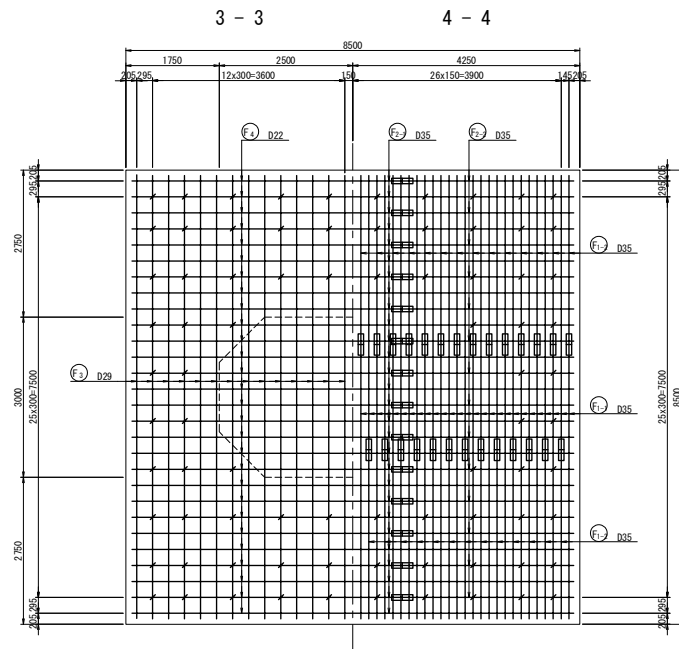
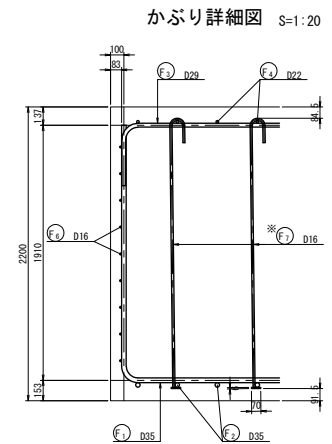
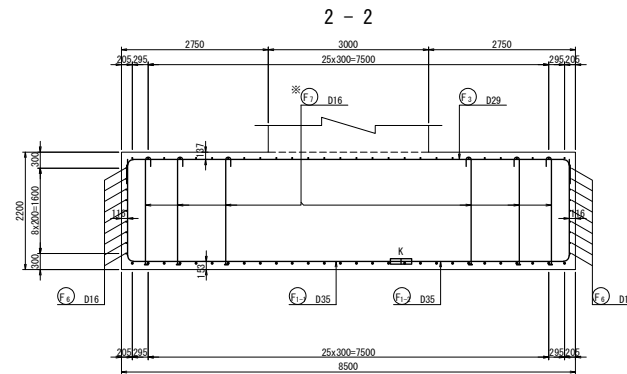
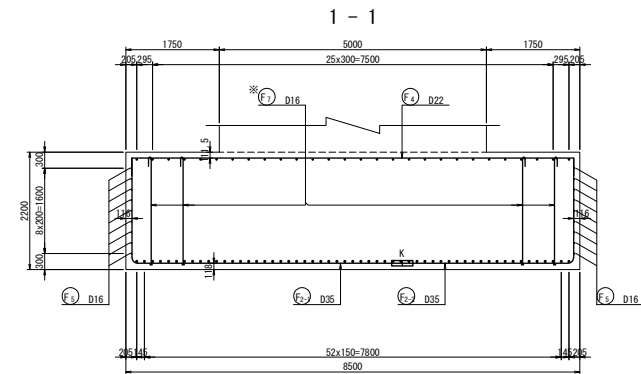
かぶり詳細図 S=1:40



- 特記事項
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
-道路橋示方書：同解説（H29.11日本道路協会）
-機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H29.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚実効果の実験等による効果が確認された定着工法を用いること。
 - 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
 - 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を美注者に確認してから工事を実施すること。
 - Kは機械式継手を示す。



常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

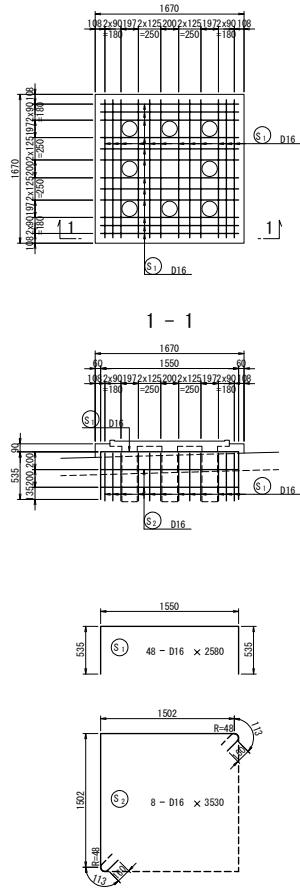


特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
 ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
 ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H29.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
 なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
 また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構造的効果の実験等による効果が確認された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図 (4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工 事 事 務 所		

台座コンクリート補強図



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
S 1	D16	2,580	48	1.56	4.02	193	
S 2	D16	3,530	8	1.56	5.51	44	
237 kg							
B 1	D32	9,240	8	6.23	57.6	461	
B 2	D32	8,340	10	6.23	52	520	
B 3	D32	9,660	2	6.23	60.2	120	(3)
B 4	D32	9,660	4	6.23	60.2	241	(10)
B 5	D32	8,250	16	6.23	51.4	822	(平均値)
B 6	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 7	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均値)
B 8	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 9	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均値)
B 10	D19	9,970	14	2.25	22.4	314	(平均値)
B 11	D19	10,260	5	2.25	23.1	116	(平均値)
B 12	D19	10,210	5	2.25	23.0	115	(平均値)
B 13	D19	9,390	4	2.25	21.1	84	(平均値)
B 14	D19	9,370	4	2.25	21.1	84	(平均値)
B 15	D19	6,330	5	2.25	14.2	71	(平均値)
B 16	D19	6,320	5	2.25	14.2	71	(平均値)
B 17	D19	8,290	24	2.25	18.7	449	(平均値)
B 18	D19	5,990	9	2.25	13.5	122	(平均値)
B 19	D19	5,980	9	2.25	13.5	122	(平均値)
B 20	D19	4,500	9	2.25	10.1	91	
B 21	D19	3,390	14	2.25	7.63	107	
B 22	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均値)
B 23	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均値)
B 24	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 25	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 26	D16	3,100	34	1.56	4.84	165	※
B 27	D16	2,470	10	1.56	3.85	39	※
4,696 kg							
C 1-1	D51	9,000	40	15.9	143	5,720	L (40)
C 1-2	D51	5,190	40	15.9	82.5	3,300	L
C 2-1	D51	7,000	40	15.9	111	4,440	L (40)
C 2-2	D51	7,190	40	15.9	114	4,560	L
C 3	D19	7,920	152	2.25	17.8	2,706	
C 4	D19	8,010	12	2.25	18.0	216	
C 5	D19	5,040	100	2.25	11.3	1,130	※
C 6	D19	5,090	12	2.25	11.5	138	※
C 7	D19	3,040	200	2.25	6.84	1,368	※
C 8	D19	3,090	24	2.25	6.95	167	※
23,745 kg							
F 1-1	D35	6,990	55	7.51	52.5	2,888	(55)
F 1-2	D35	5,020	55	7.51	37.7	2,074	
F 2-1	D35	6,990	28	7.51	52.5	1,470	(28)
F 2-2	D35	5,140	28	7.51	38.6	1,081	
F 3	D29	9,070	28	5.04	45.7	1,280	
F 4	D22	8,880	28	3.04	27.0	756	
F 5	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	
F 6	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	
F 7	D16	2,240	80	1.56	3.49	279	※
10,318 kg							

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A+B+C
普通鉄筋	D51	18020 kg (80)	18020 kg	
D38	---	---	---	---
D35	---	7513 kg (83)	---	7513 kg
D32	981 kg	1183 kg (22)	---	2164 kg
D29	1280 kg	---	---	1280 kg
D25	452 kg	---	---	452 kg
D22	756 kg	---	---	756 kg
D19	4798 kg	---	2803 kg	7601 kg
D16	727 kg	---	483 kg	1210 kg
D13	---	---	---	---
合計	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg
総質量	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	90	34	---	---
D19	---	---	---	224	---	112
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	90	258	---	112
合計	---	---	---	---	460箇所	---

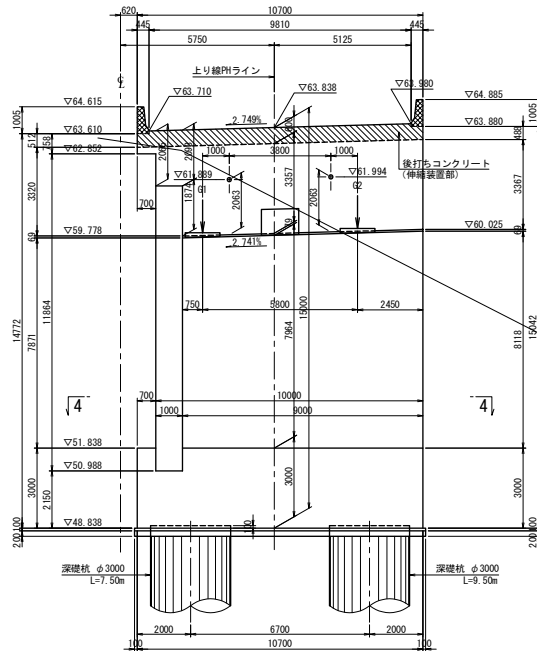
径	θ ≤ 90° R=3φ	θ > 90° R=5.5φ	a = 45°	L = 45°	a = 60°	L = 60°	a = 90°	L = 90°	a = 135°	L = 135°	
主 断	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
径 R=2.5φ				a = 45°	L = 45°	a = 60°	L = 60°	a = 90°			
ス タ イ ラ フ	D13	32.5	77	80	68	45	51	14	—	—	
	D16	40	94	99	84	55	63	17	—	—	
	D19	47.5	112	117	99	66	75	20	—	—	
	D22	55	130	136	115	76	86	24	—	—	
	D25	62.5	147	155	131	86	98	27	—	—	
	D29	72.5	171	179	152	99	114	31	—	—	

特記事項

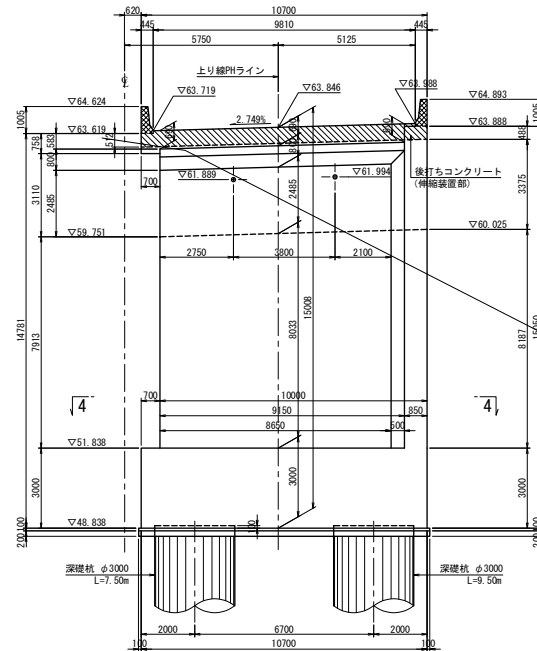
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験による効果が確認された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式鉄筋については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- Kは機械式継手を示す。

常 営 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	P1橋脚配筋図(5)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

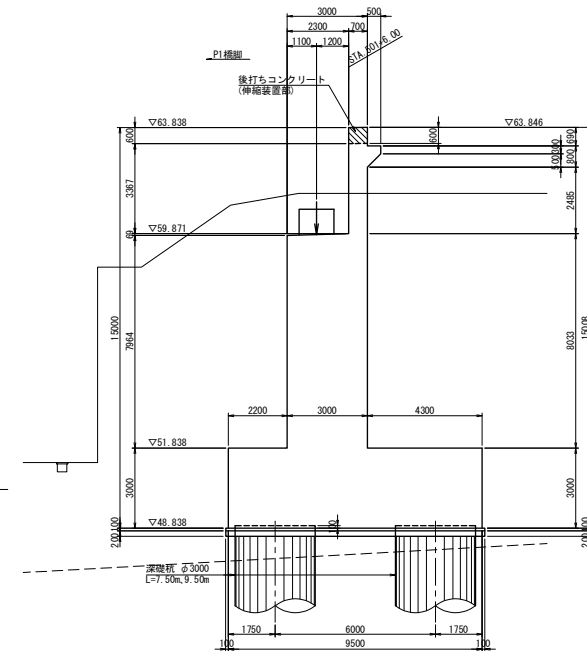
正面図(1-1)



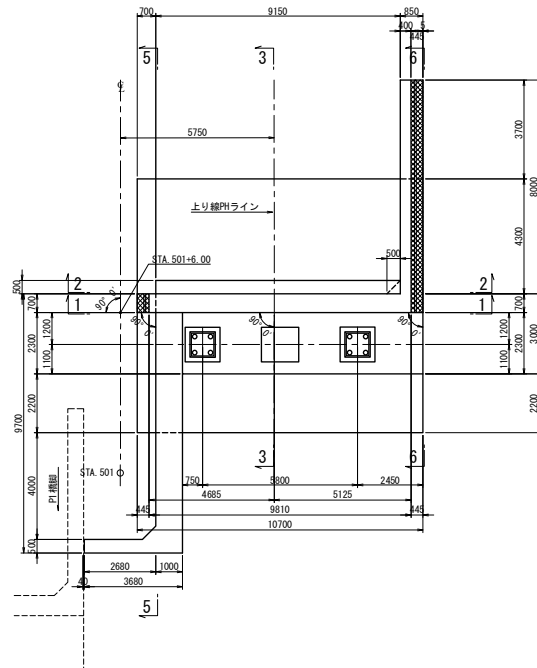
正面図(2-2)



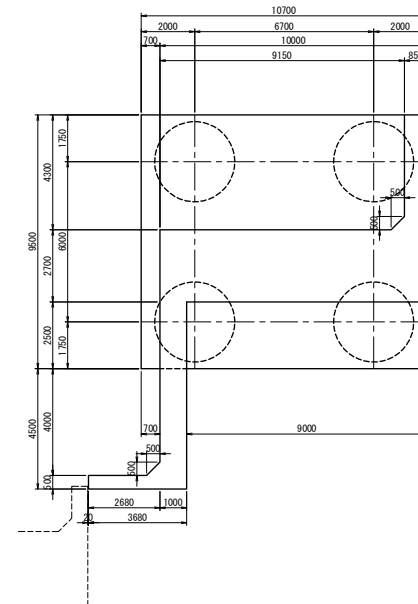
3-3



平面図



杭配置図(4-4)



設計条件

道路規格	第1種 2級 B規格
重要度区分	B種の橋
活荷重	B活荷重
地域区分	A2地区
地盤種別	I種地盤
制角	∠R (支保設置角: 90° ± 6°)
適用示方書	道路橋示方書・向解説 社) 日本道路協会 (平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社 (平成29年6月)
設計標準	レベルI
橋軸方向	0.20
直角方向	0.20
橋軸方向	0.83
直角方向	0.84
制式	逆T式
基礎	組杭深礎基礎φ3000
コンクリート	躯体: σ _{ck} =30N/mm ² 底版: 深礎: σ _{ck} =24N/mm ²
鉄筋	SD345
支持地盤	シルト岩 (Mk (s) 層)

・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

常磐自動車道 相馬工事	
図面の種類	かやぐらばし A2橋台構造一般図(1)
縮尺	図示 図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所



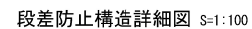
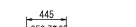
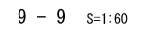
橋座面展開図 S=1:100



支承箱抜き詳細図 S=1:60



8 - 8 S=1:60



平面図



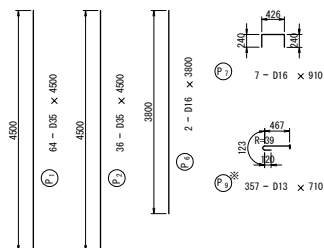
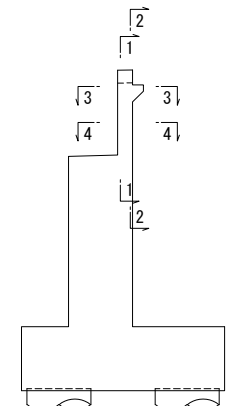
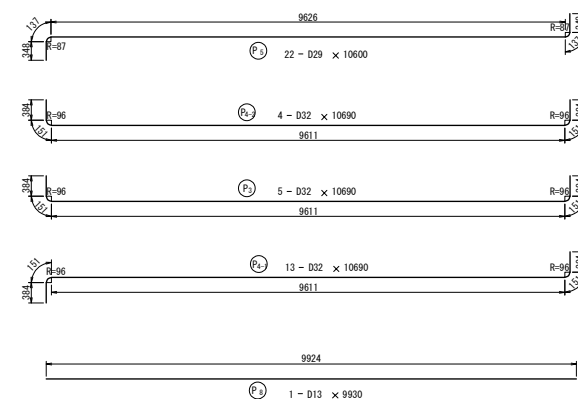
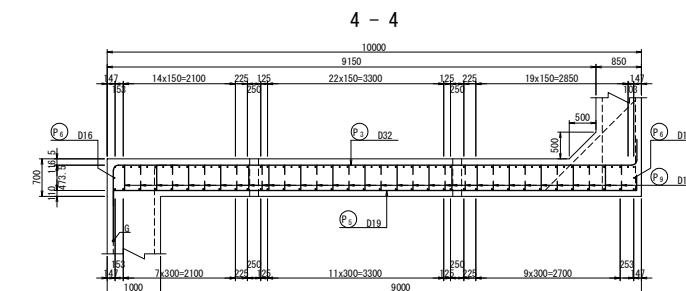
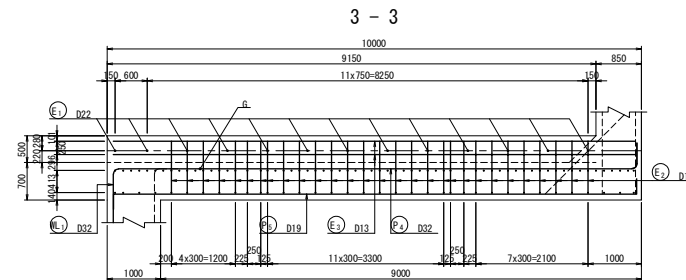
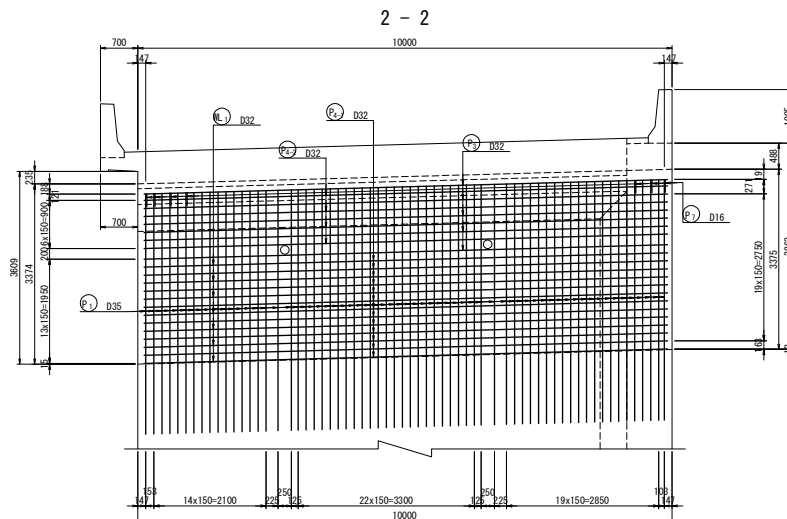
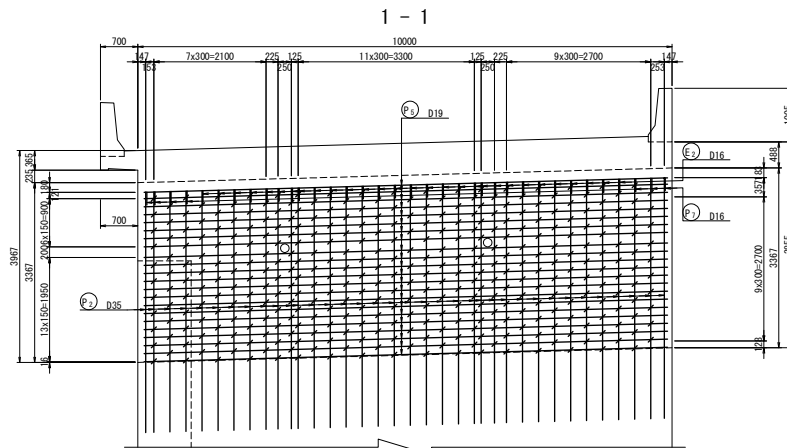
構造高表

	g1	g2
路面標高	Z1 63.750	63.909
舗装厚	h1 0.080	0.080
床版厚	h2 0.310	0.310
ハンチ高	h3 0.100	0.100
主桁高	h4 2.900	2.900
下フランジ厚	h5 0.026	0.026
ソールプレート厚	h6 0.027	0.027
支承高	h7 0.373	0.373
管径モデル高	Z2 59.026	60.095
管径モデル高	h8 0.030	0.030
台座コンクリート高	h9 0.140	0.140
構造高合計	H 3.966	3.966
下部工天端標高	Z3 59.964	59.923



- ・本図で示す標高はすべてT P表示とする。
- ・図で示すハッチング 部は、上部工施工とする。

常 態 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし I2橋台構造一般図 (2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事業務所		



偏向ダクト S=1:30

シース S=1:30



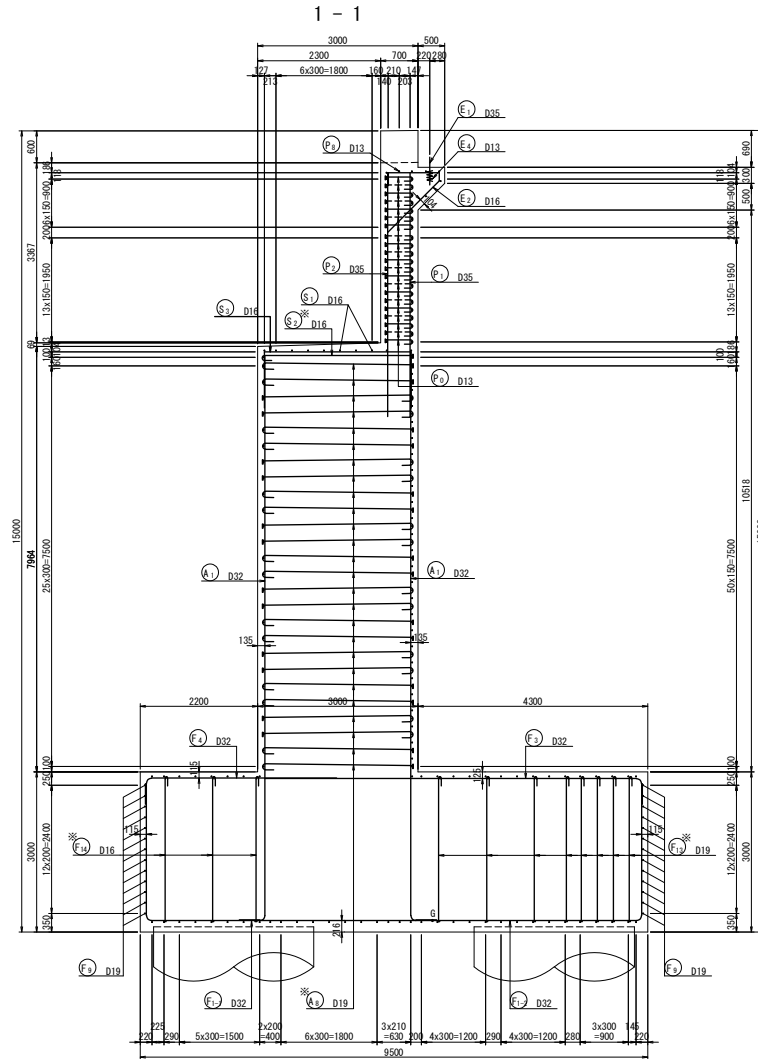
落橋防止構造材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150

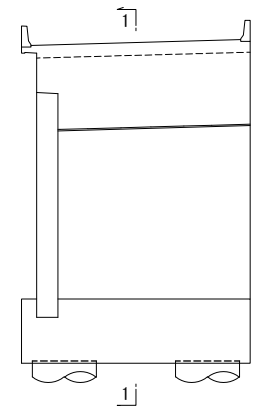
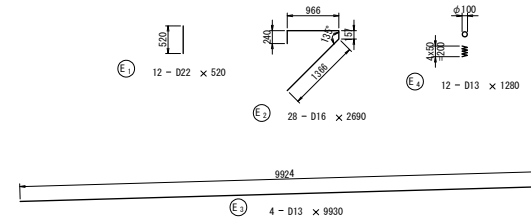
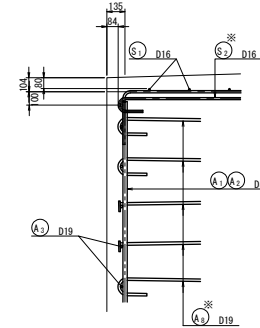
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
・道路橋示方書 関係図 (029.11日本道路協会)
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(028.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚効果の発揮等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式鉄筋手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
- K は機械式鉄筋手を示す。

常 常 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



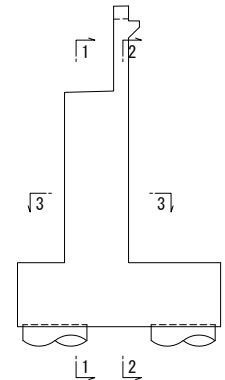
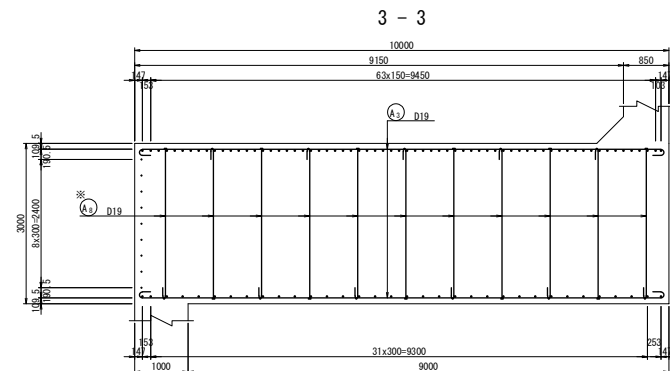
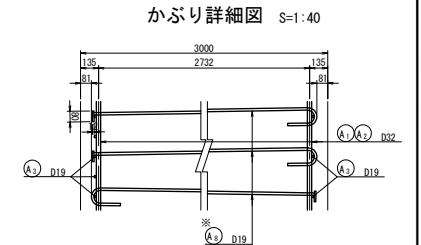
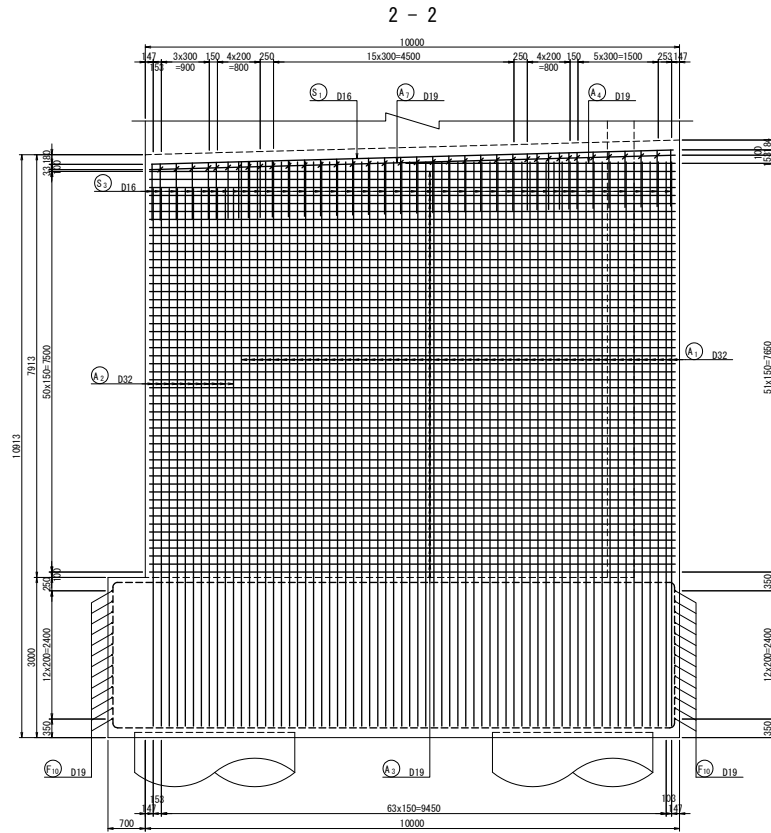
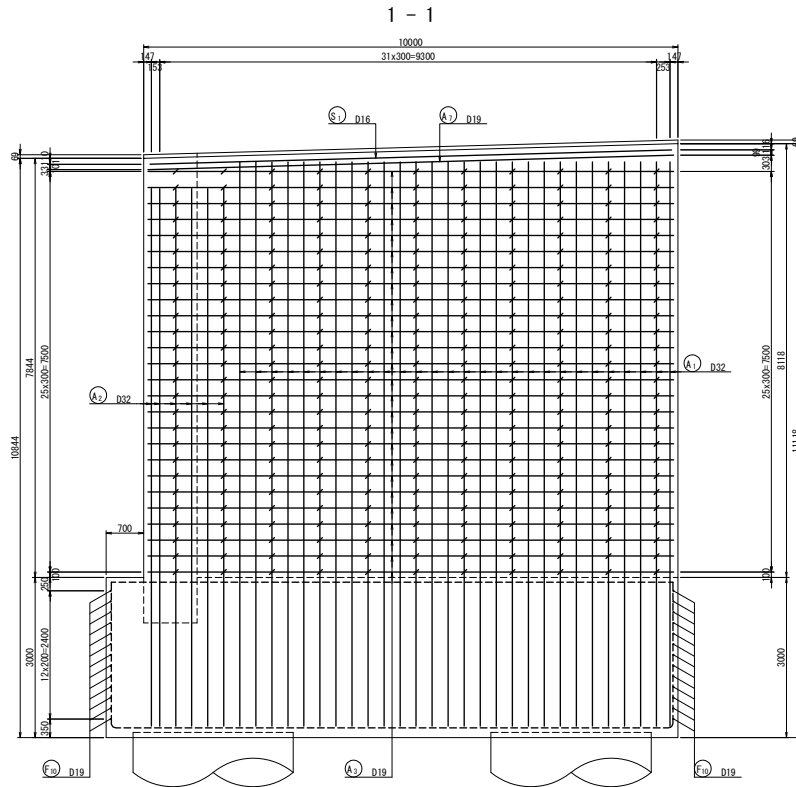
かぶり詳細図 S=1:40



特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
- 道路標示方書 関係図 (K29.11日本道路協会)
- 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は鉄筋束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式鉄筋については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋。この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

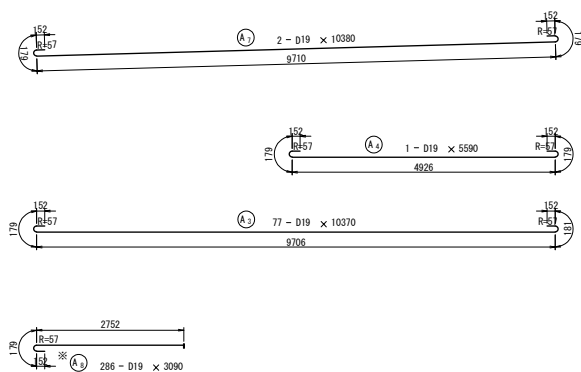
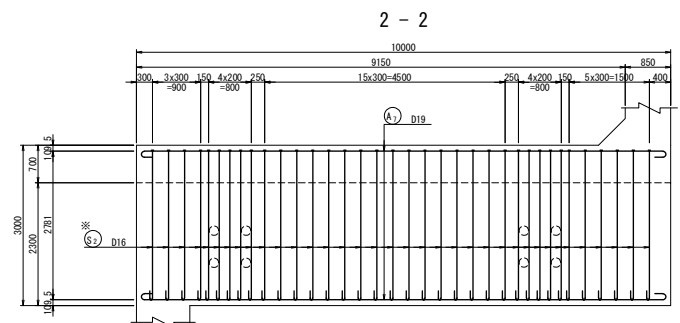
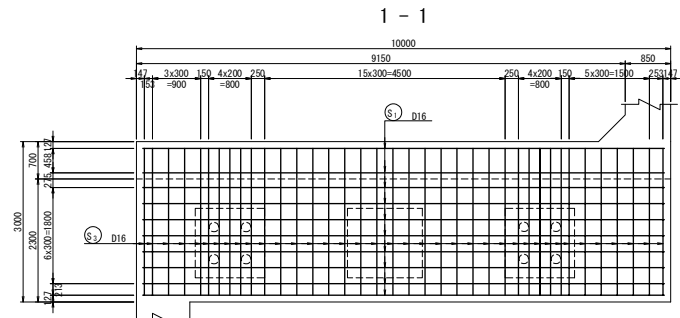
常 常 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工 事 事 務 所		



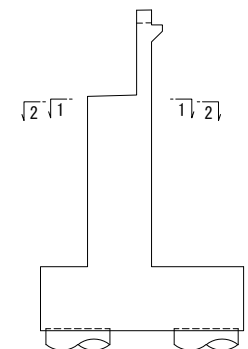
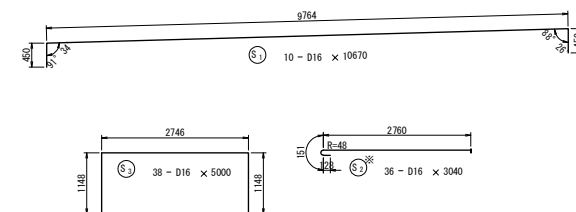
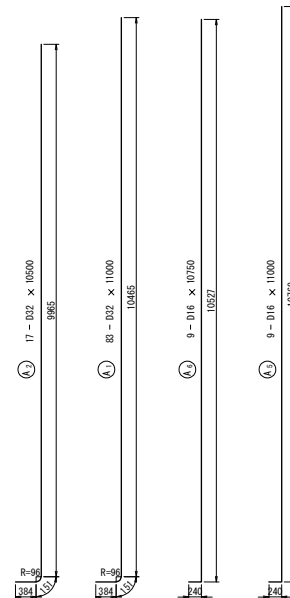
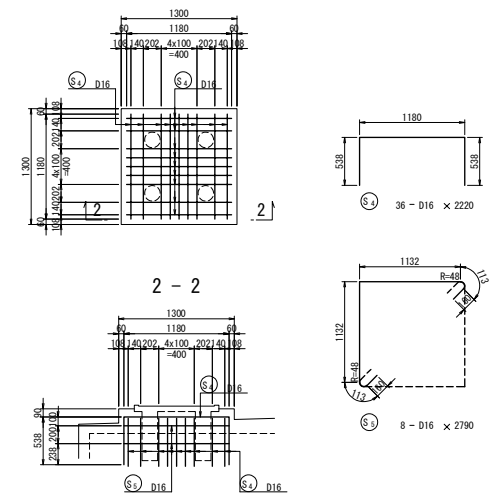
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
道路橋示方書（旧版）（929.11日本道路協会）
機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、
監理員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常 禁 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



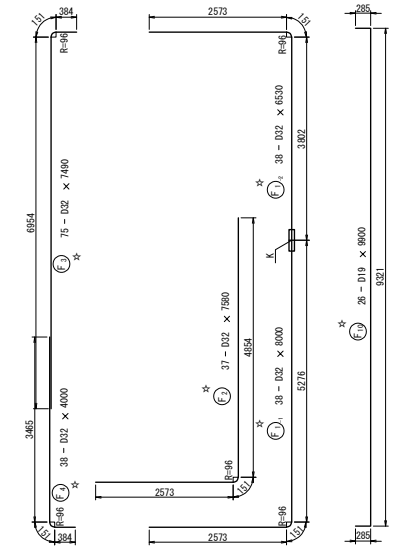
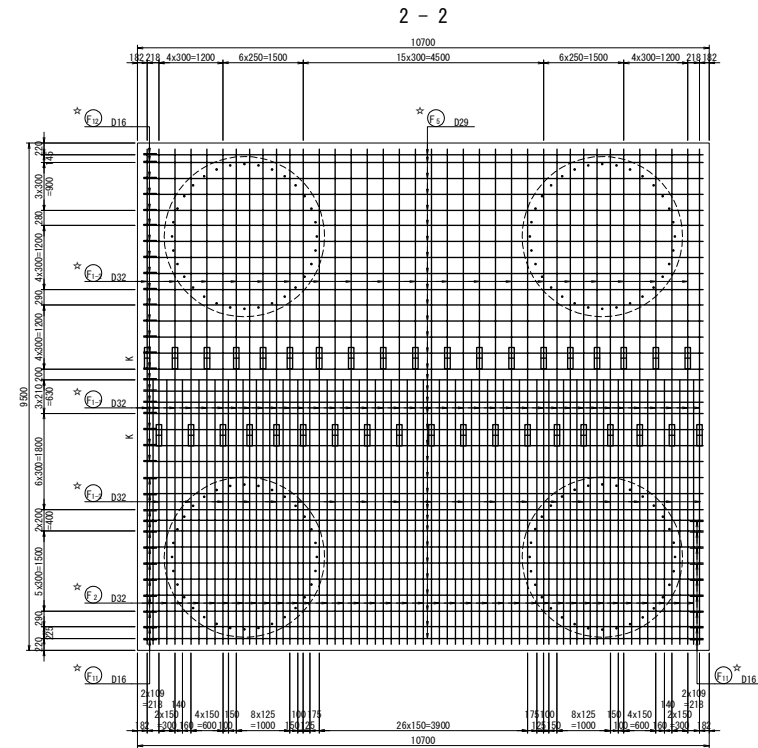
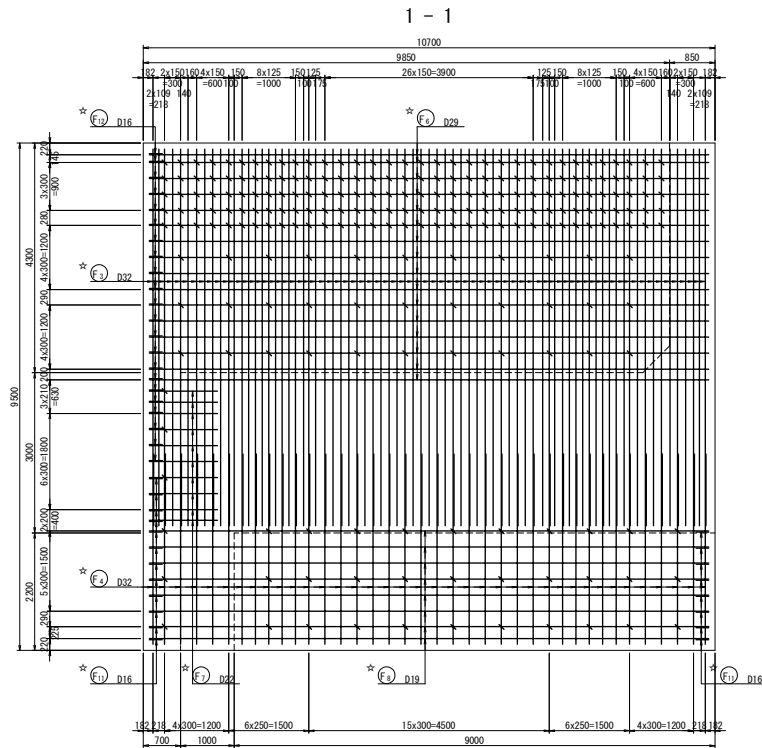
台座コンクリート補強図 S=1:60



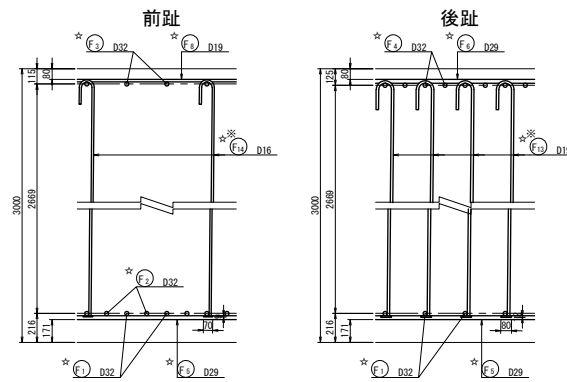
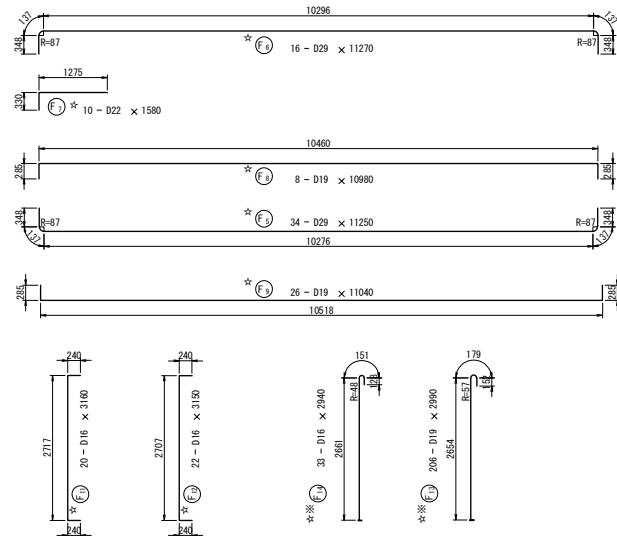
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
-道路橋示方書・同解説 (H29:11日本道路協会)
-機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は機拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



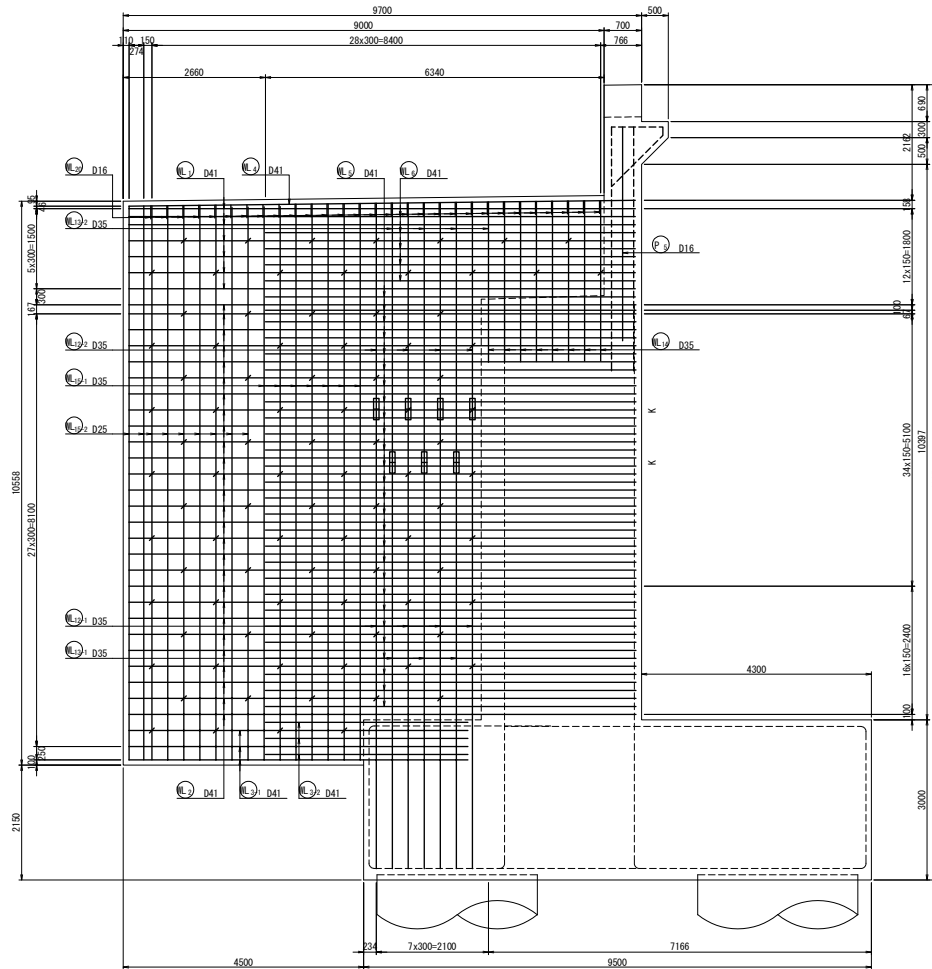
かぶり詳細図 S=1:40



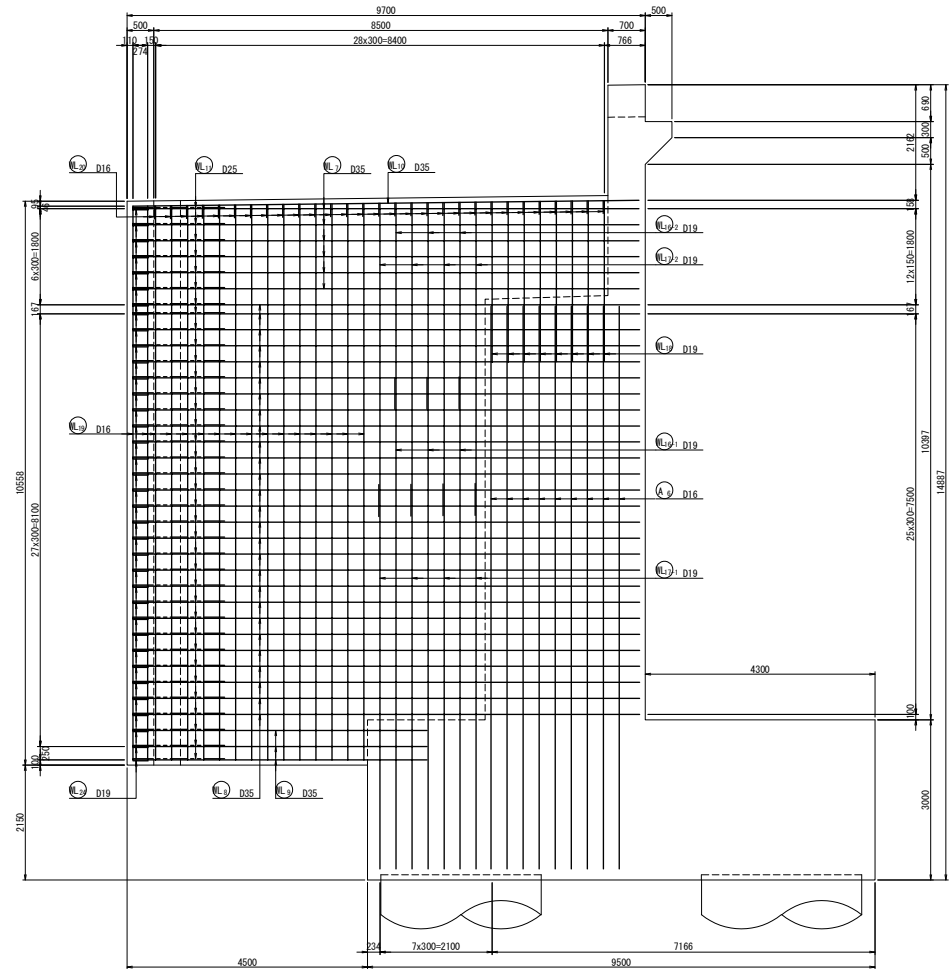
- 特記事項
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等満足すること。
- 道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
- 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は構構束効果の実績等による効果が保障された定着工法を用いること。
 - 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 機械式鉄筋定着工法については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を売主者に確認してから工事を実施すること。
 - ※印表記は通常鉄筋。この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
 - K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(5)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

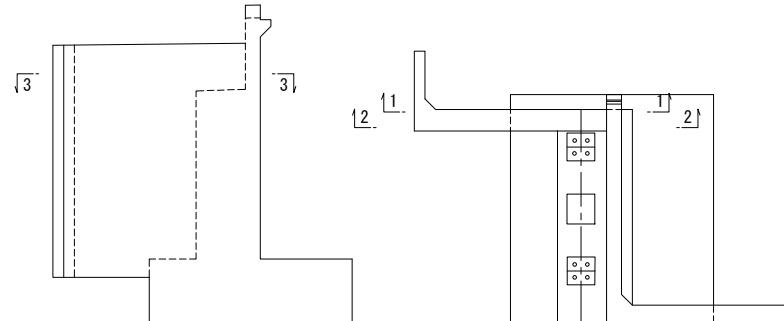
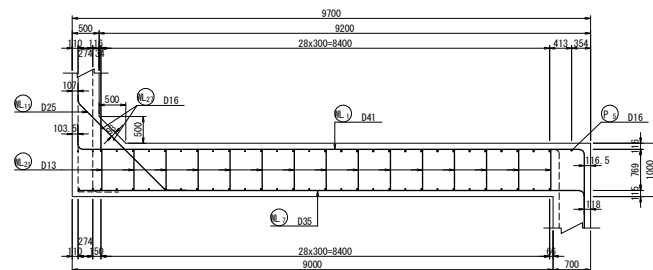
1 - 1



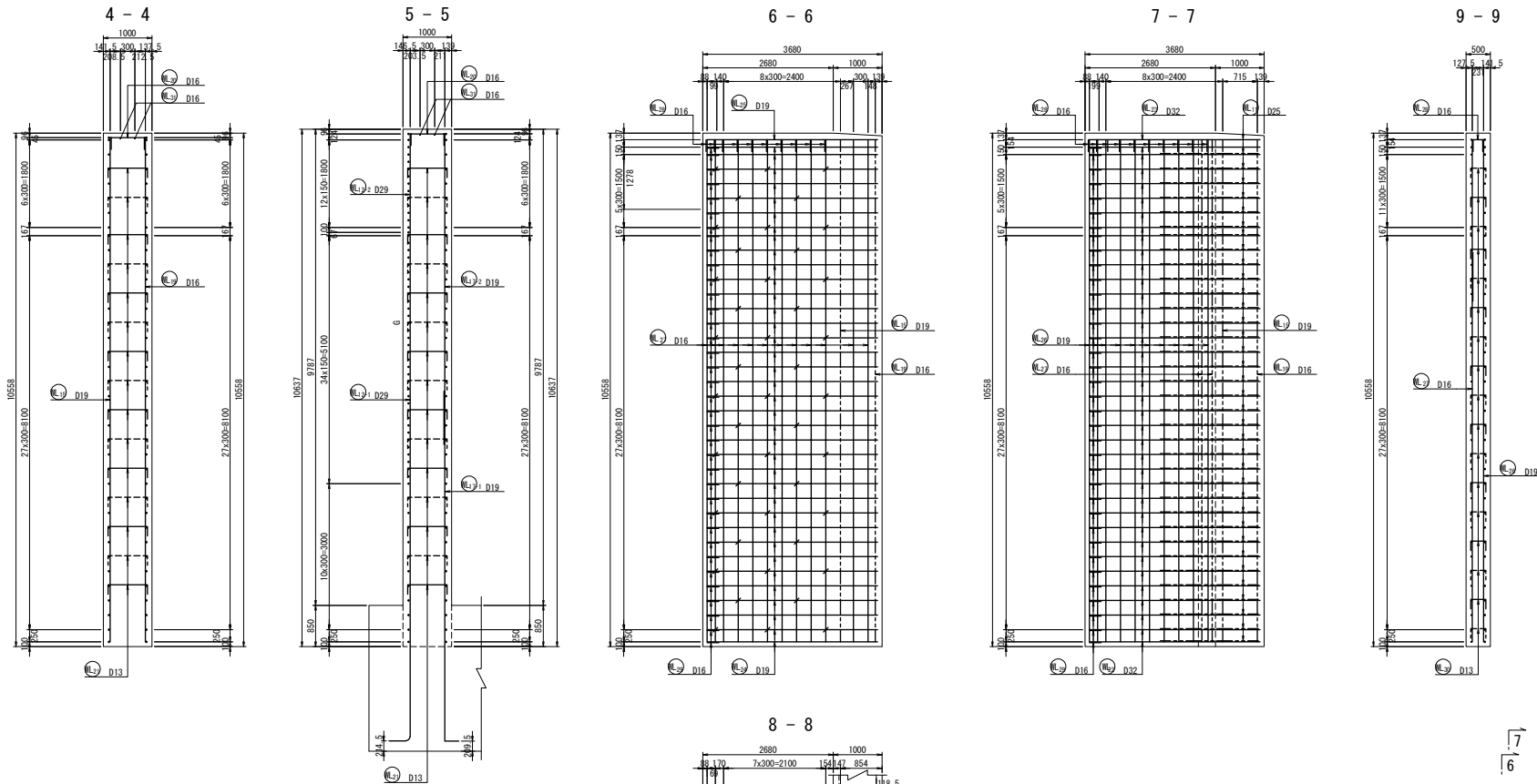
2 - 2



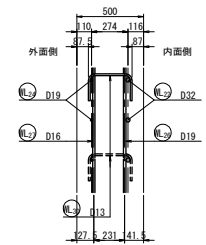
3 - 3



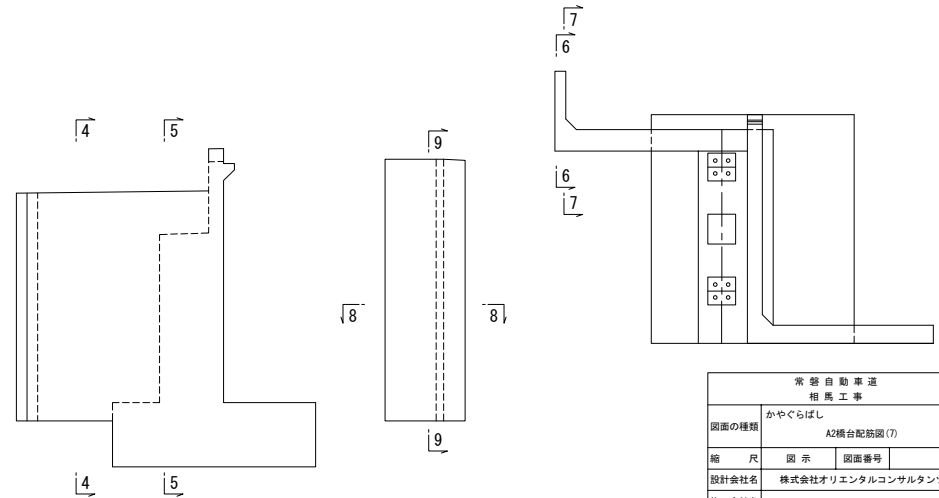
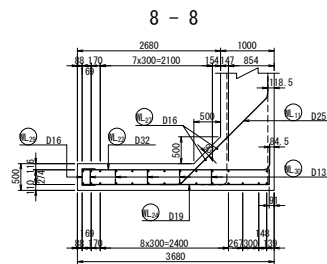
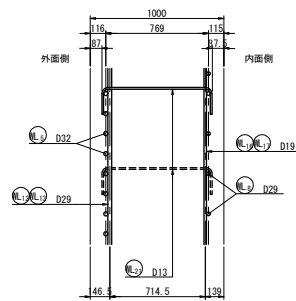
常磐自動車道 相馬工事			
かやぐらばし A2橋台配筋図(6)			
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



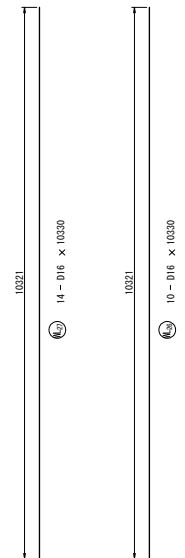
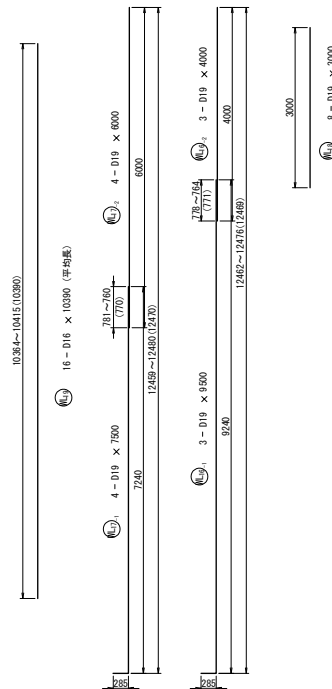
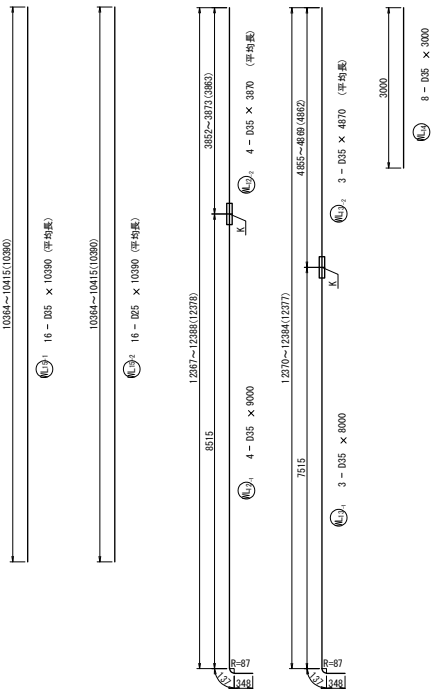
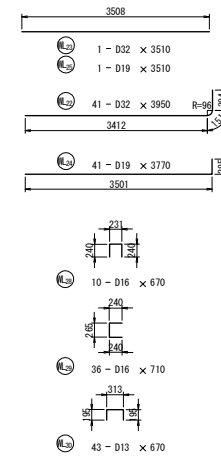
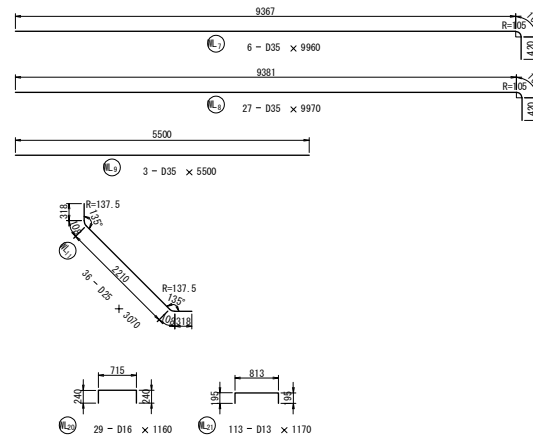
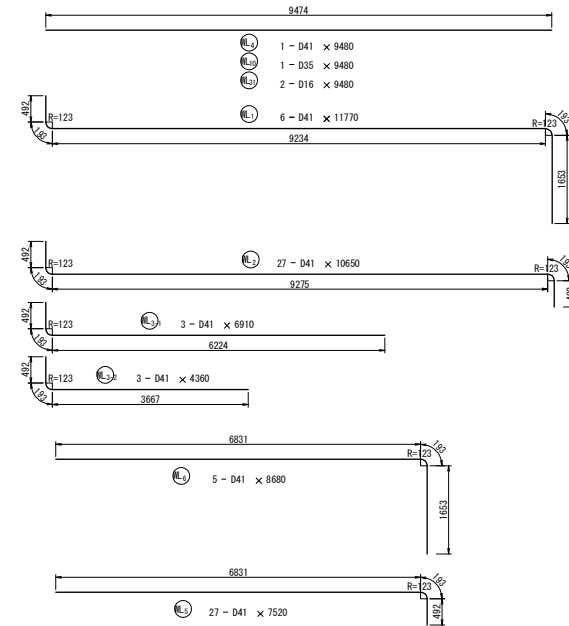
かぶり詳細図 S=1:40



かぶり詳細図 S=1:40

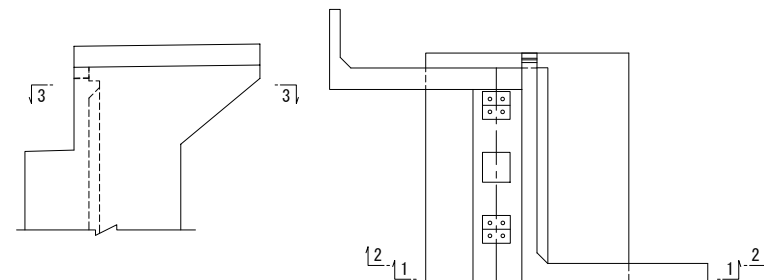
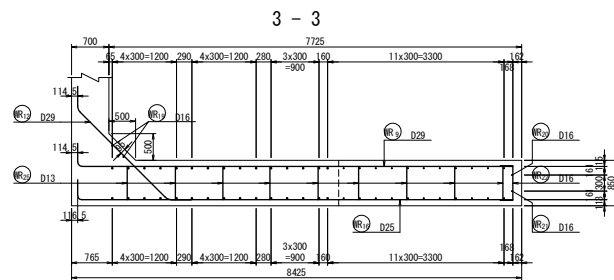
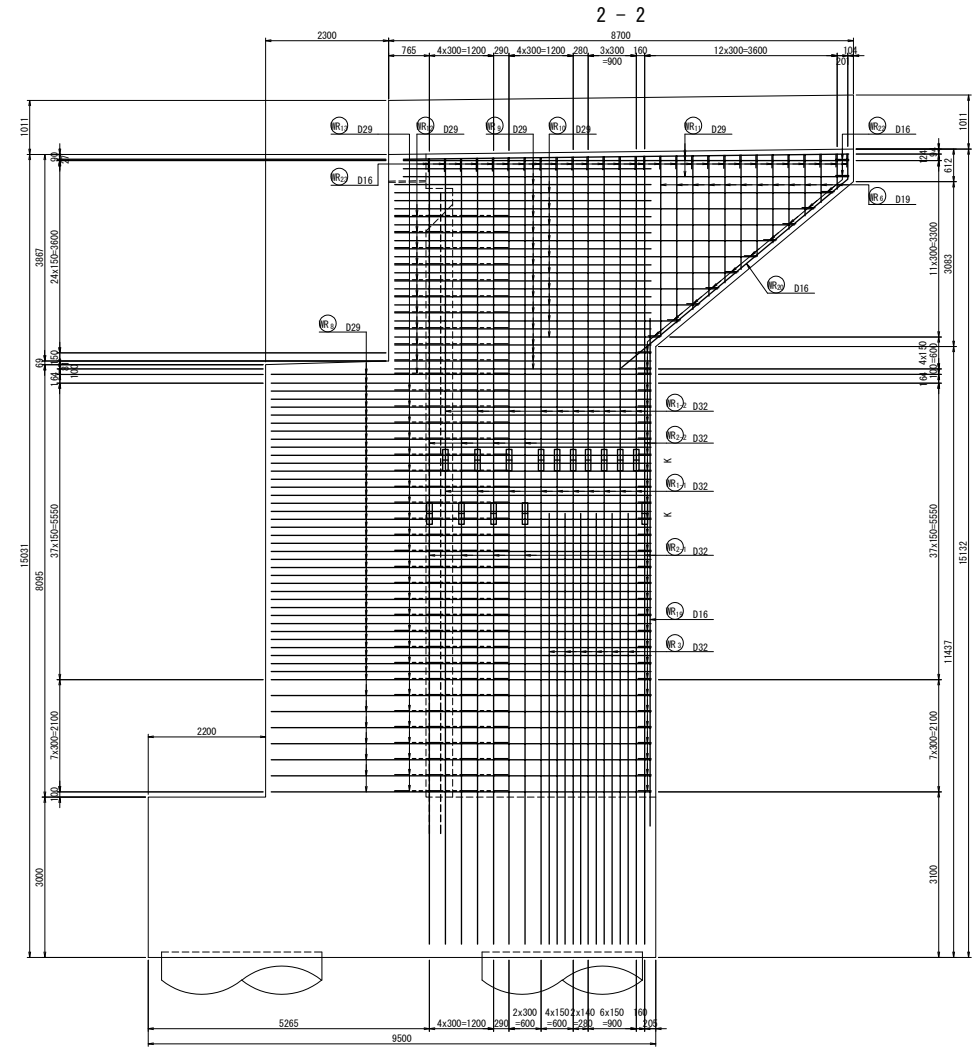
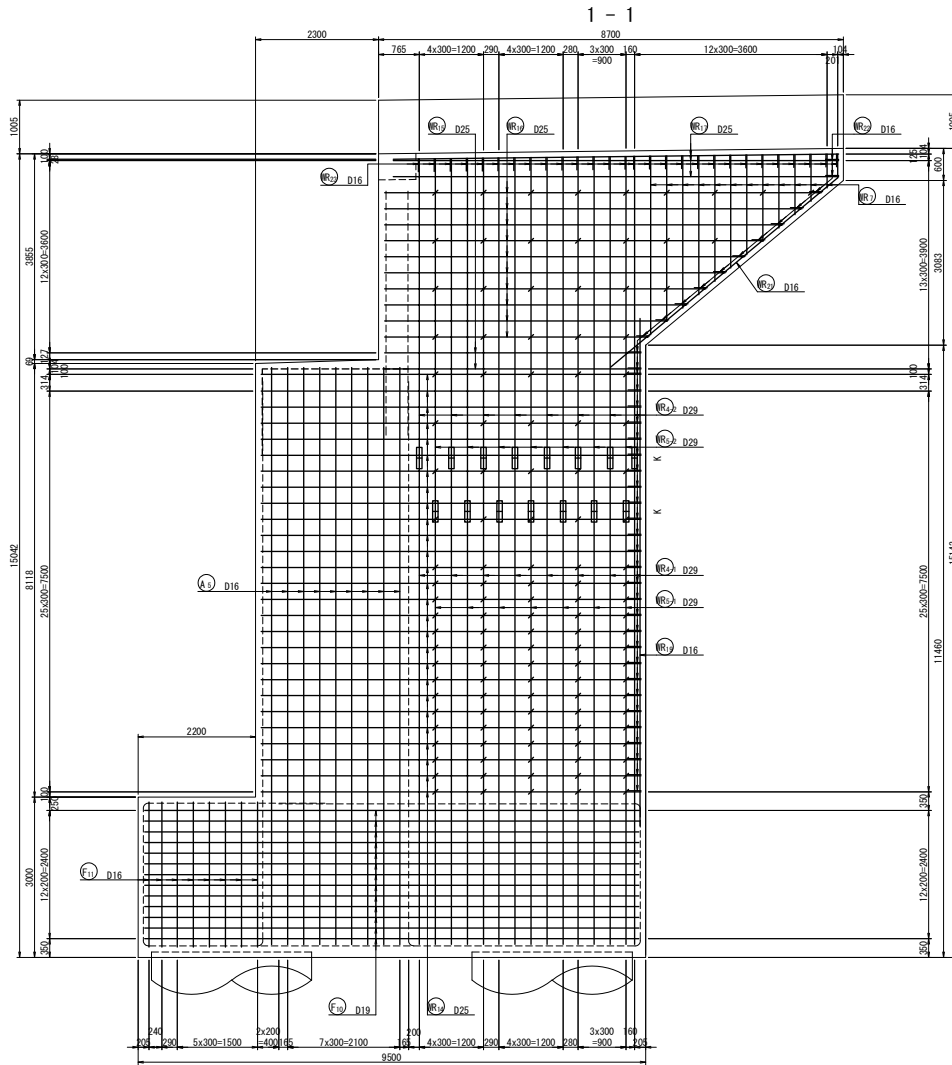


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(7)		
縮尺	図示	図番	図番
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

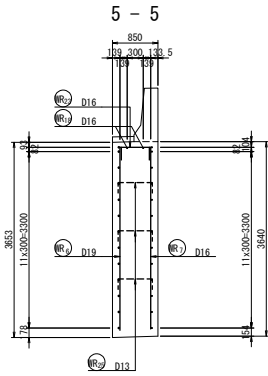
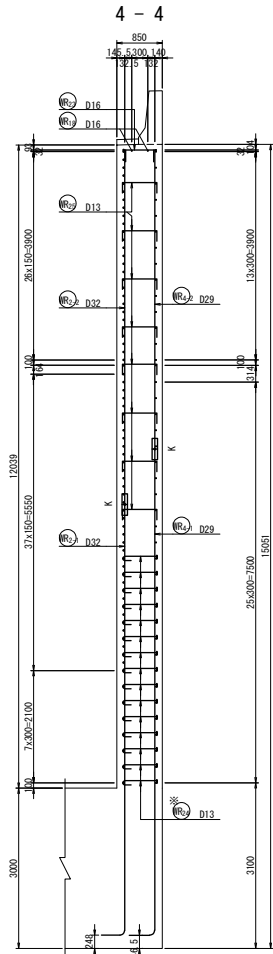


- 特記事項
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
道路橋示方書・附属規程(029.11日本道路協会)
機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(028.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間等鉄筋に本定着体を用いる場合は構造物効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
 - 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監理員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
 - 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
 - ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
 - K は機械式継手を示す。

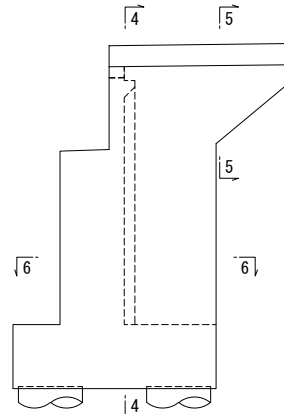
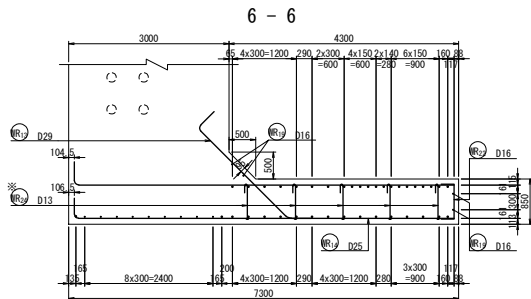
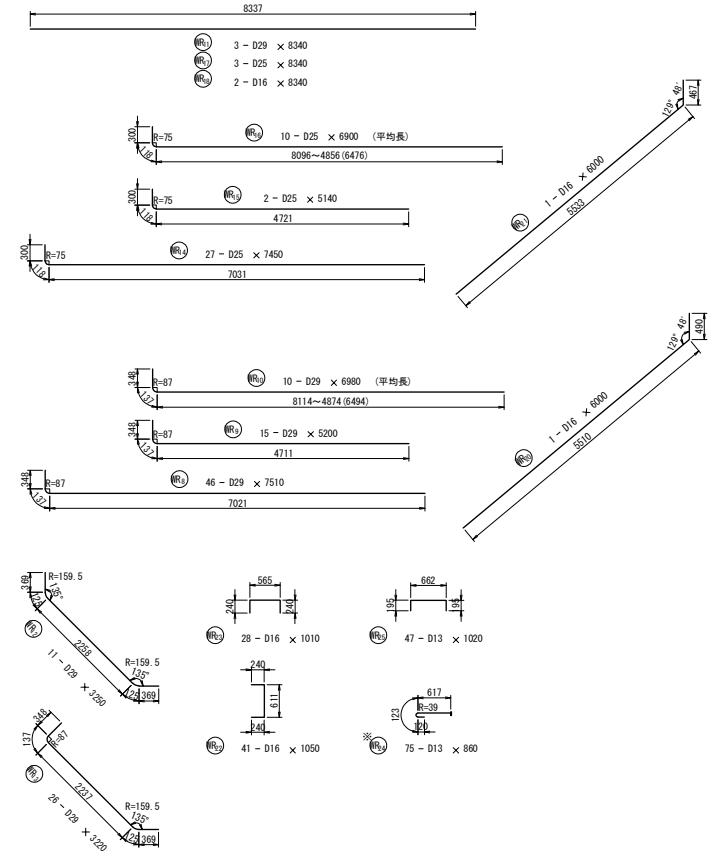
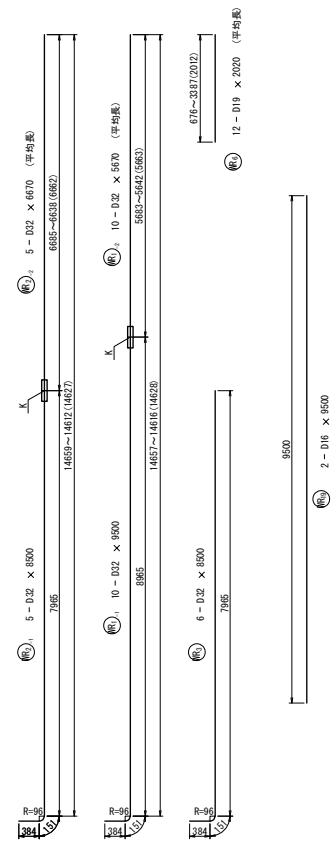
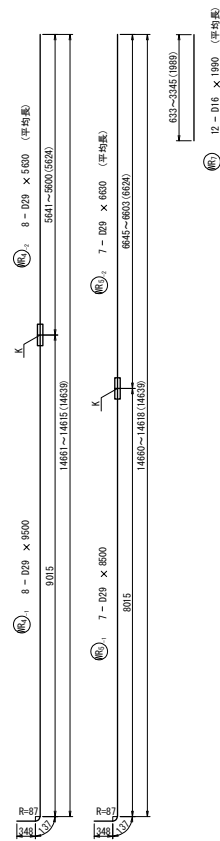
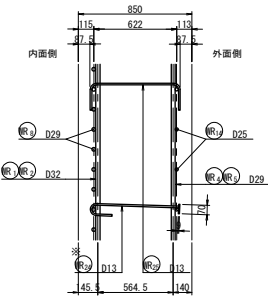
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(8)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図 (9)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社		
事務所名	いわき工務所		



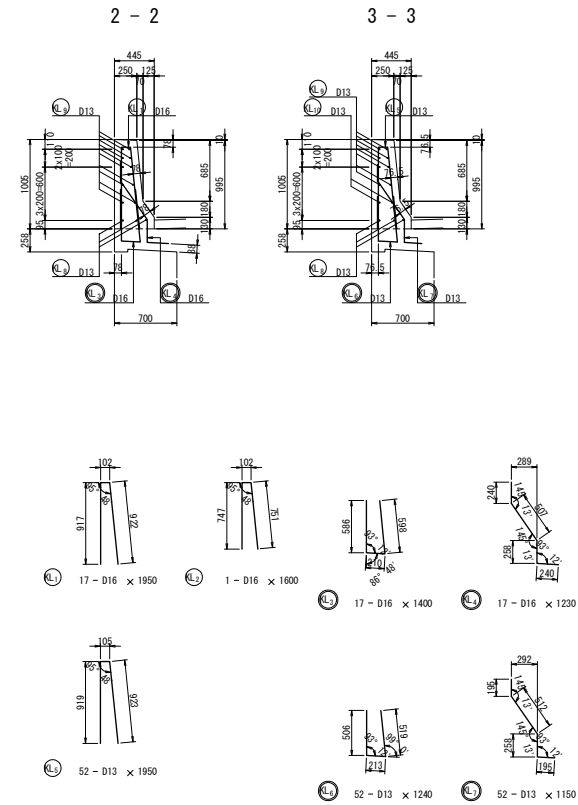
かぶり詳細図 S=1:40



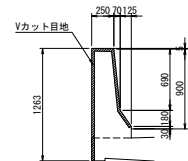
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
-道路橋示方書・同解説 (H29:11日本道路協会)
-機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式鉄筋については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
- K は機械式組手を示す。

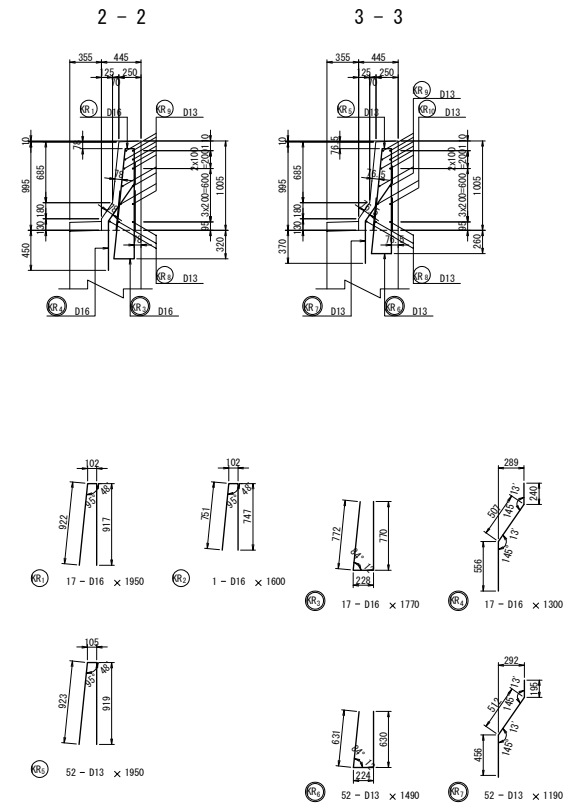
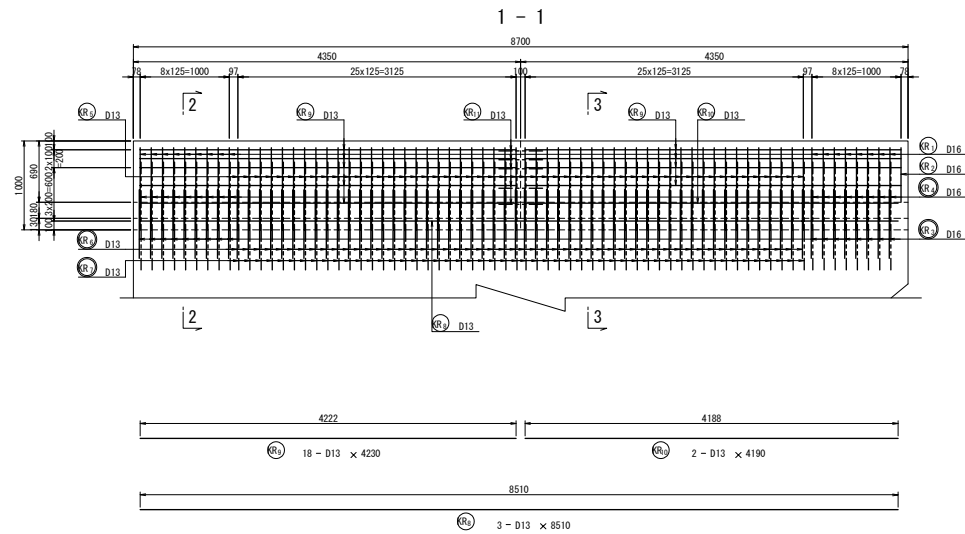
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(10)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



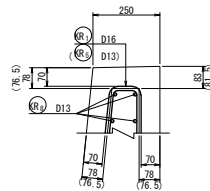
壁高欄誘発目地詳細図 S=1:60



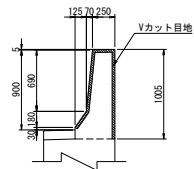
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(11)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



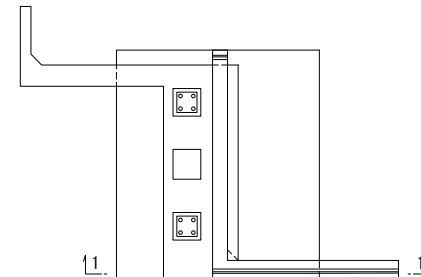
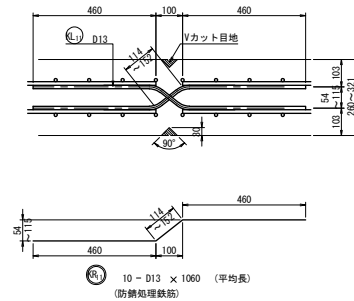
かぶり詳細図 S=1:20



壁高欄誘発目地詳細図 S=1:60



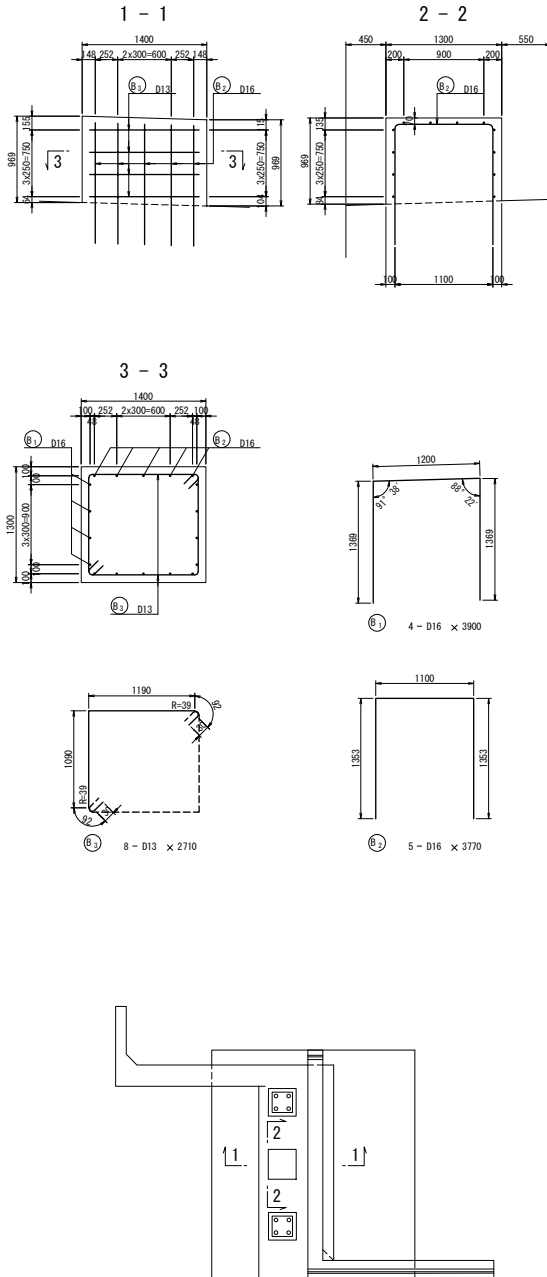
Vカット目地配筋詳細図 S=1:20



・◎で示す鉄筋番号は、下部工施工時鉄筋を表す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(12)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

段差防止構造



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
P 1	D35	4,500	64	7.51	33.8	2,163	┐
P 2	D35	4,500	36	7.51	33.8	1,217	┐
P 3	D32	10,690	5	6.23	66.6	333	┐
P 4-1	D32	10,690	13	6.23	66.6	866	┐
P 4-2	D32	10,690	4	6.23	66.6	266	┐
P 5	D29	10,600	22	5.04	53.4	1,175	┐
P 6	D16	3,800	2	1.56	5.93	12	┐
P 7	D13	910	7	0.995	0.905	6	┐
P 8	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	┐
P 9	D13	710	357	0.995	0.706	252	※
							6,300 kg
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	┐
E 2	D16	2,690	28	1.56	4.20	118	┐
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	┐
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	┐
							192 kg
A 1	D32	11,000	83	6.23	68.5	5,686	┐
A 2	D32	10,500	17	6.23	65.4	1,112	┐
A 3	D19	10,370	77	2.25	23.3	1,794	┐
A 4	D19	5,590	1	2.25	12.6	13	┐
A 5	D16	11,000	9	1.56	17.2	155	┐
A 6	D16	10,750	9	1.56	16.8	151	┐
A 7	D19	10,380	2	2.25	23.4	47	┐
A 8	D19	3,090	286	2.25	6.95	1,988	※
							10,946 kg
S 1	D16	10,670	10	1.56	16.6	166	┐
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	※
S 3	D16	5,000	38	1.56	7.80	296	┐
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	┐
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	┐
							793 kg
F 1-1	D32	8,000	38	6.23	49.8	1,892	[38]
F 1-2	D32	6,530	38	6.23	40.7	1,547	┐
F 2	D32	7,580	37	6.23	47.2	1,746	┐
F 3	D32	7,490	75	6.23	46.7	3,503	┐
F 4	D32	4,000	38	6.23	24.9	946	┐
F 5	D29	11,250	34	5.04	56.7	1,928	┐
F 6	D29	11,270	16	5.04	56.8	909	┐
F 7	D22	1,580	8	3.04	4.80	38	┐
F 8	D19	10,980	10	2.25	24.7	247	┐
F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	┐
F 10	D19	9,900	26	2.25	22.3	580	┐
F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	┐
F 12	D16	3,150	22	1.56	4.91	108	┐
F 13	D19	2,990	206	2.25	6.73	1,386	※
F 14	D16	2,940	33	1.56	4.59	151	※
							15,725 kg
WL 1	D41	11,770	6	10.5	124.0	744	┐
WL 2	D41	10,650	27	10.5	112.0	3,024	┐
WL 3-1	D41	6,910	3	10.5	72.6	218	┐
WL 3-2	D41	4,360	3	10.5	45.8	137	┐
WL 4	D41	9,480	1	10.5	99.5	100	┐
WL 5	D41	7,520	27	10.5	79.0	2,133	┐
WL 6	D41	8,680	5	10.5	91.1	456	┐
WL 7	D35	9,960	6	7.51	74.8	449	┐
WL 8	D35	9,970	27	7.51	74.9	2,022	┐
WL 9	D35	5,500	3	7.51	41.3	124	┐
WL 10	D35	9,480	1	7.51	71.2	71	┐
WL 11	D25	3,070	36	3.98	12.2	439	┐
WL 12-1	D35	9,000	4	7.51	67.6	270	[4]
WL 12-2	D35	3,870	4	7.51	29.1	116	(平均長)
WL 13-1	D35	8,000	3	7.51	60.1	180	[3]
WL 13-2	D35	4,870	3	7.51	36.6	110	(平均長)
WL 14	D35	3,000	8	7.51	22.5	180	(平均長)
WL 15-1	D35	10,390	7	7.51	78.0	546	(平均長)
WL 15-2	D25	10,390	9	3.98	41.4	373	(平均長)
WL 16-1	D19	9,500	3	2.25	21.4	64	┐
WL 16-2	D19	4,000	3	2.25	9.00	27	┐
WL 17-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	┐
WL 17-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	┐
WL 18	D19	3,000	8	2.25	6.75	54	(平均長)
WL 19	D16	10,390	16	1.56	16.2	259	(平均長)
WL 20	D16	1,160	29	1.56	1.81	52	┐

鉄筋表

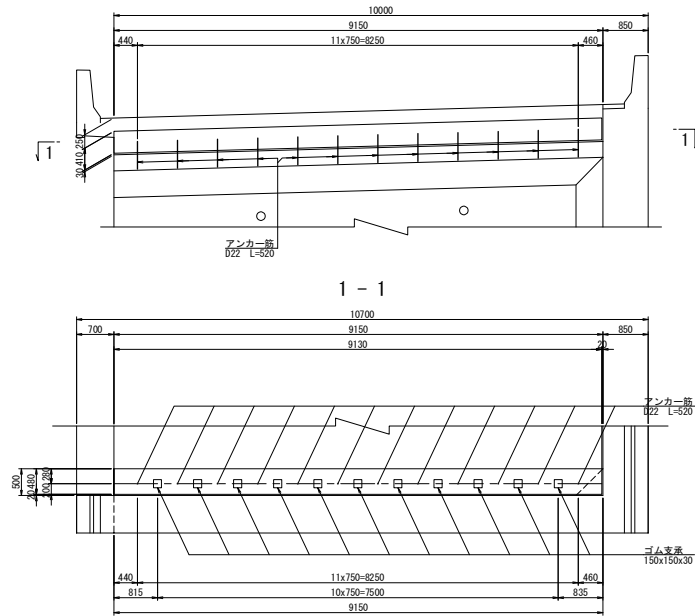
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
WL 21	D13	1,170	113	0.995	1.16	131	┐
WL 22	D32	3,950	41	6.23	24.6	1,009	┐
WL 23	D32	3,510	1	6.23	21.9	22	┐
WL 24	D19	3,770	41	2.25	8.48	348	┐
WL 25	D19	3,510	1	2.25	7.90	8	┐
WL 26	D19	10,330	10	2.25	23.2	232	┐
WL 27	D16	10,330	14	1.56	16.1	225	┐
WL 28	D16	670	10	1.56	10.5	11	┐
WL 29	D16	710	36	1.56	1.11	40	┐
WL 30	D13	670	43	0.995	0.67	29	┐
WL 31	D16	9,480	2	1.56	14.8	30	┐
							14,355 kg
WR 1-1	D32	9,500	10	6.23	59.2	592	[10]
WR 1-2	D32	5,670	10	6.23	35.3	353	(平均長)
WR 2-1	D32	8,500	5	6.23	53.0	265	[5]
WR 2-2	D32	6,670	5	6.23	41.6	208	(平均長)
WR 3	D32	8,500	6	6.23	53.0	318	┐
WR 4-1	D29	9,500	8	5.04	47.9	383	[8]
WR 4-2	D29	5,630	8	5.04	28.4	227	(平均長)
WR 5-1	D29	8,500	7	5.04	42.8	300	[7]
WR 5-2	D29	6,630	7	5.04	33.4	234	(平均長)
WR 6	D19	2,040	12	2.25	4.99	55	(平均長)
WR 7	D19	1,990	12	1.56	3.10	37	(平均長)
WR 8	D29	7,510	46	5.04	37.9	1,743	┐
WR 9	D29	5,200	15	5.04	26.2	393	┐
WR 10	D29	6,980	10	5.04	35.2	352	(平均長)
WR 11	D29	8,340	3	5.04	42.0	126	┐
WR 12	D29	3,250	11	5.04	16.4	180	┐
WR 13	D29	3,220	26	5.04	16.2	421	┐
WR 14	D25	7,450	27	3.98	29.7	802	┐
WR 15	D25	5,140	2	3.98	20.5	41	┐
WR 16	D25	6,900	10	3.98	27.5	275	(平均長)
WR 17	D25	8,340	3	3.98	33.2	100	┐
WR 18	D16	8,340	2	1.56	13.0	26	┐
WR 19	D16	9,500	2	1.56	14.8	30	┐
WR 20	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	┐
WR 21	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	┐
WR 22	D16	1,050	41	1.56	1.64	67	┐
WR 23	D16	1,010	28	1.56	1.58	44	┐
WR 24	D13	860	75	0.995	0.856	64	※
WR 25	D13	1,020	47	0.995	1.01	47	┐
							7,701 kg
KL 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KL 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KL 3	D16	1,400	17	1.56	2.18	37	┐
KL 4	D16	1,230	17	1.56	1.92	33	┐
KL 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KL 6	D13	1,240	52	0.995	1.23	64	┐
KL 7	D13	1,150	52	0.995	1.14	59	┐
KL 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	┐
KL 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	┐
KL 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	┐
KL 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	┐
							469 kg
KR 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KR 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KR 3	D16	1,770	17	1.56	2.76	47	┐
KR 4	D16	1,300	17	1.56	2.03	35	┐
KR 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KR 6	D13	1,490	52	0.995	1.48	77	┐
KR 7	D13	1,190	52	0.995	1.18	61	┐
KR 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	┐
KR 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	┐
KR 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	┐
KR 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	┐
							496 kg
B 1	D16	3,900	4	1.56	6.08	24	┐
B 2	D16	3,770	5	1.56	5.88	29	┐
B 3	D13	2,710	8	0.995	2.70	22	┐
							75 kg

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A+B+C
普通鉄筋	D51	— kg	— kg	— kg
	D41	— kg	— kg	— kg
	D38	— kg	— kg	— kg
	D35	— kg	— kg	— kg
	D32	6195 kg	3439 kg (38)	9634 kg
	D29	2837 kg	— kg	2837 kg
	D25	— kg	— kg	— kg
	D22	38 kg	— kg	38 kg
	D19	1472 kg	— kg	1386 kg
	D16	207 kg	— kg	151 kg
	D13	— kg	— kg	— kg
合計	10749 kg	3439 kg	1537 kg	15725 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51	— kg	— kg	— kg
	D41	6812 kg	— kg	6812 kg
	D38	— kg	— kg	— kg
	D35	6772 kg	676 kg (7)	7448 kg
	D32	9612 kg	1418 kg (15)	11030 kg
	D29	4390 kg	1144 kg (15)	5534 kg
	D25	2030 kg	— kg	2030 kg
	D22	19 kg	— kg	19 kg
	D19	2764 kg	— kg	1988 kg
	D16	2212 kg	— kg	171 kg
	D13	1003 kg	— kg	316 kg
合計	35614 kg	3238 kg	2475 kg	41327 kg
総質量	46363 kg	6677 kg	4012 kg	57052 kg

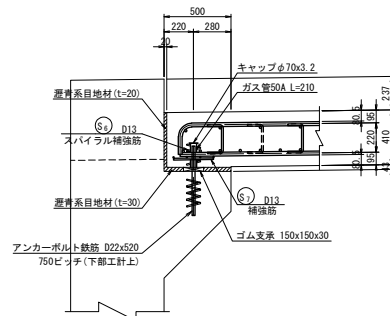
機械式鉄筋定着工法数量表 (普通鉄筋)

鉄筋径	箇 所 数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	—	—	—	—	—	—
D16	—	—	33	—	—	—
D19	—	—	206	—	—	—
D22	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	—	—	—	—
小 計	—	—	239	—	—	—
合 計						239 箇所

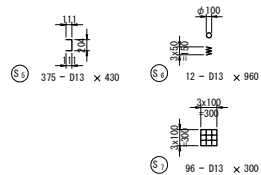
受台部横断面



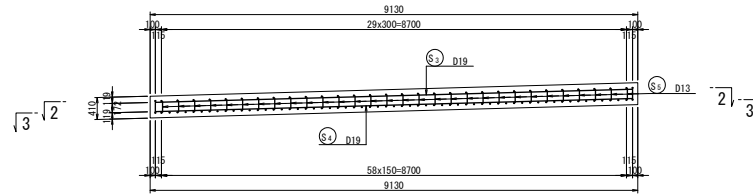
受台部詳細図 S=1:40



※アンカーボルト鉄筋は下部工埋込み部
以外は垂鉛メッキを施す。(本体工に計上)

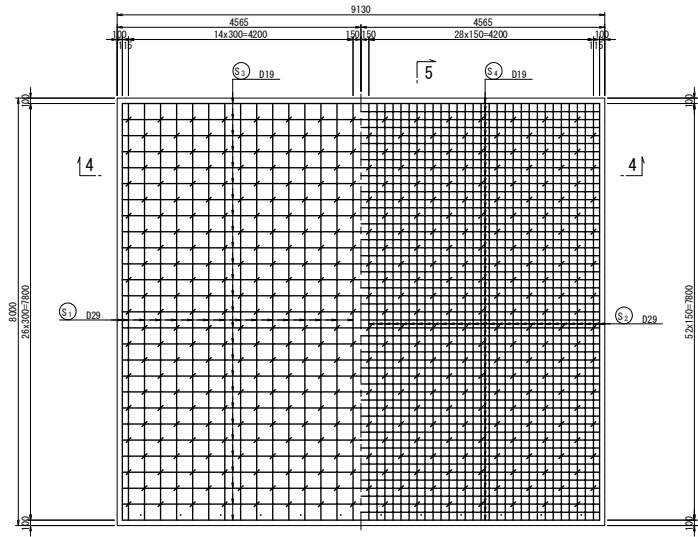


4 - 4

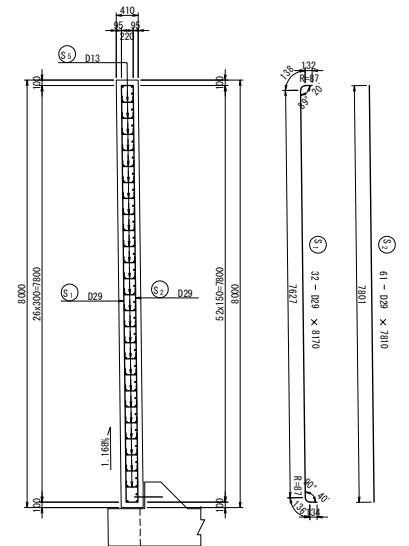


2 - 2

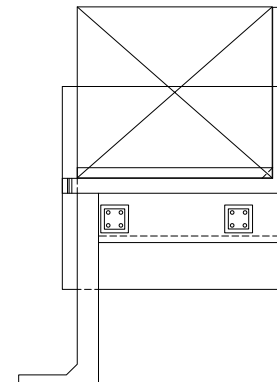
3 - 3



5 - 5



位置図



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/2m)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D29	8,170	32	5.04	41.18	1,318	—	
S 2	D29	7,810	61	5.04	39.36	2,401	「	
S 3	D19	9,230	27	2.25	20.77	561	「	
S 4	D19	8,940	53	2.25	20.12	1,066	「	
S 5	D13	430	375	0.995	0.43	161	コ	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	「	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
5,548 kg								
(SD345) D13 202 kg								
(SD345) D19 1,627 kg								
(SD345) D29 3,719 kg								
合計 5,548 kg								

下部工計上以外施工対象外(舗装工事施工)

常 常 自 助 車 道			
相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台踏掛版配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

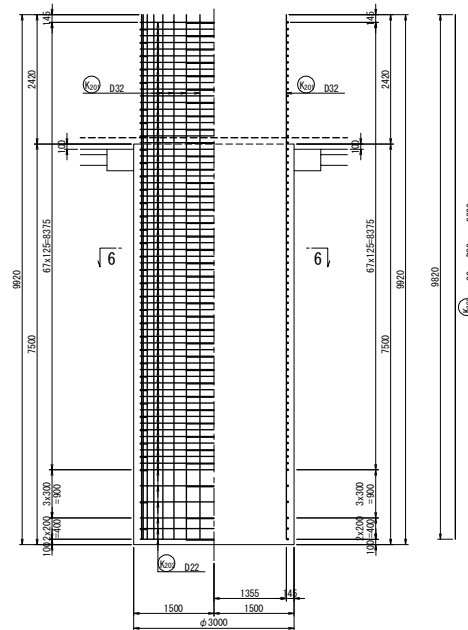
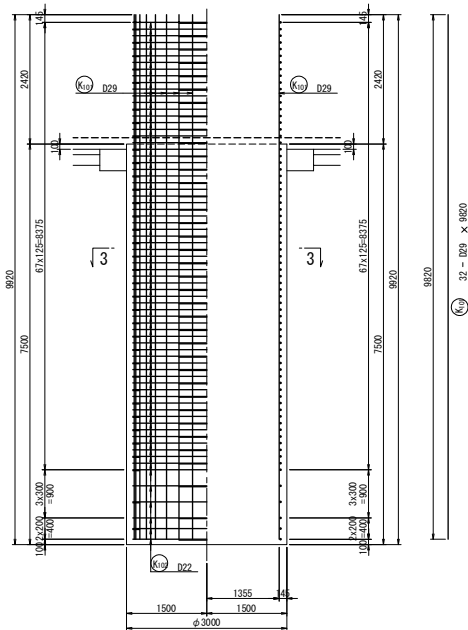
NO.1深礎杭

< φ3000 杭長 L=7.5m, N=2本 >

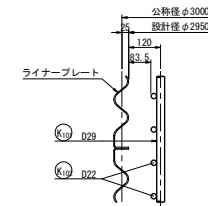
NO.2深礎杭

1 - 1 2 - 2

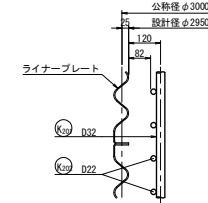
4 - 4 5 - 5



かぶり詳細図 S=1:20
NO. 1

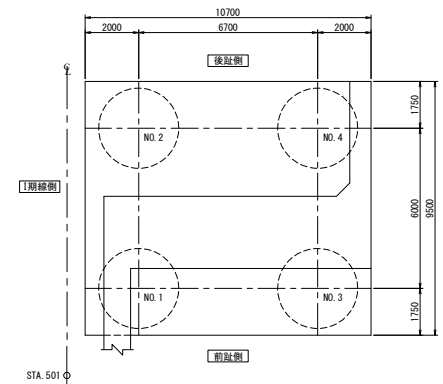
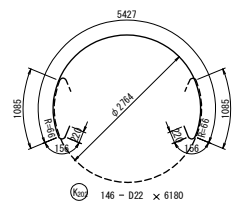
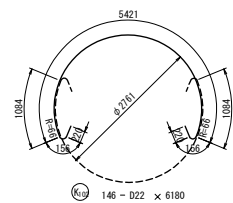
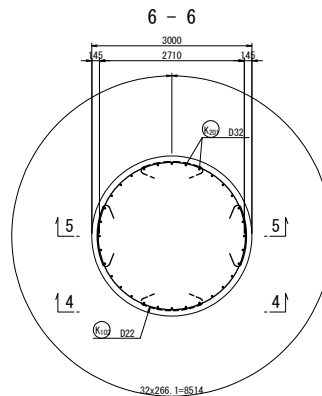
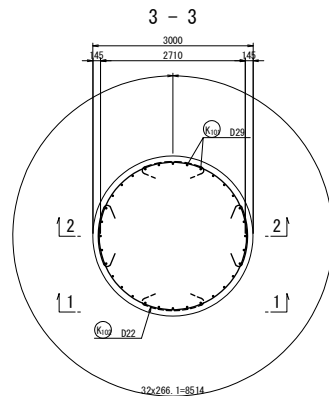


NO. 2



鉄 筋 表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	備 考
NO.1深礎杭							
K 101	D29	9,820	32	5.04	49.5	1,584	
K 102	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	
						4,329	kg
(SD345) D22						2,745	kg
(SD345) D29						1,584	kg
合計						4,329	kg
NO.2深礎杭							
K 201	D32	9,820	32	6.23	61.2	1,958	
K 202	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	
						4,703	kg
(SD345) D22						2,745	kg
(SD345) D32						1,958	kg
合計						4,703	kg

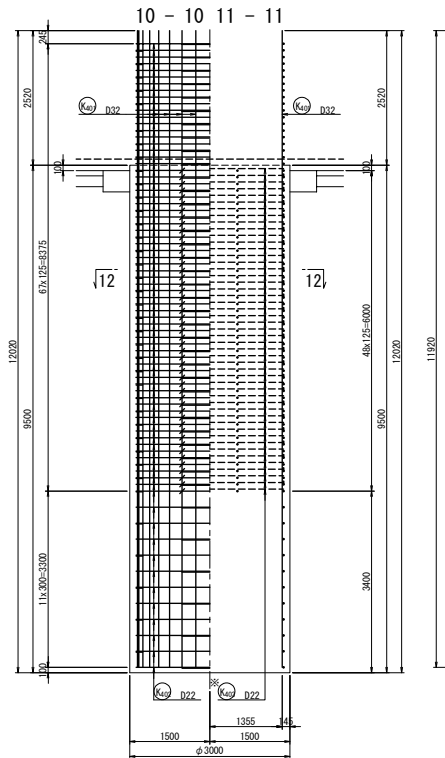
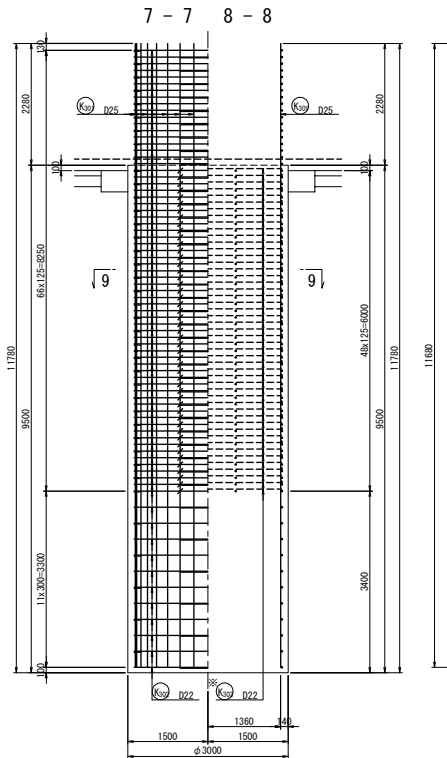


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

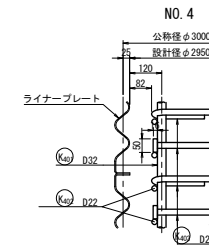
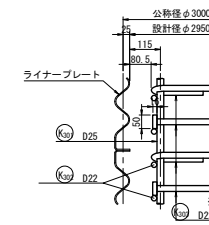
NO.3深礎杭

< $\phi 3000$ 杭長 L=9.5m, N=2本 >

NO.4深礎杭



かぶり詳細図 S=1:20
NO.3

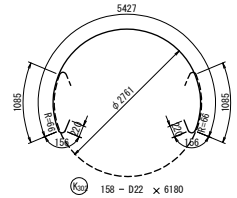
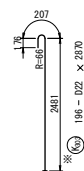
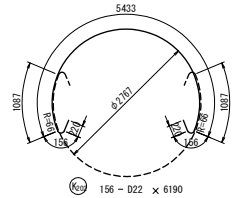
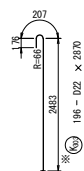
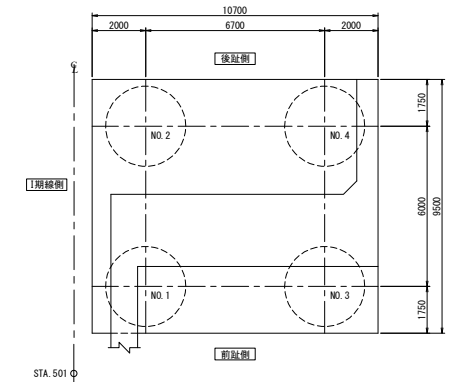
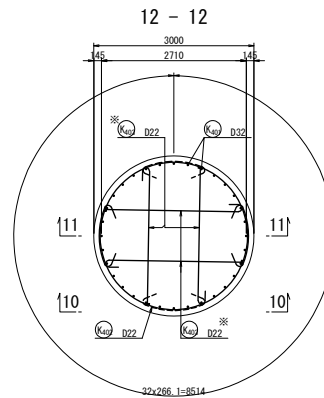
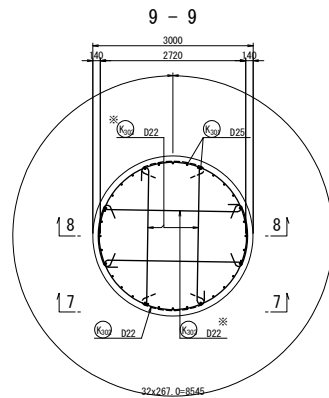


鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	備 考
NO.3深礎杭							
K 301	D25	11,680	32	3.98	46.5	1,488	
K 302	D22	6,190	156	3.04	18.8	2,933	
K 303	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709	
						6,130 kg	
						鉄筋A	鉄筋C
						(SD345) D22	2,933 kg
						(SD345) D25	1,488 kg
合計						4,421 kg	1,709 kg
NO.4深礎杭							
K 401	D32	11,920	32	6.23	74.3	2,378	
K 402	D22	6,180	158	3.04	18.8	2,970	
K 403	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709	
						7,057 kg	
						鉄筋A	鉄筋C
						(SD345) D22	2,970 kg
						(SD345) D32	2,378 kg
合計						5,348 kg	1,709 kg

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	392	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小 計	---	---	392	---	---	---
合 計						392箇所

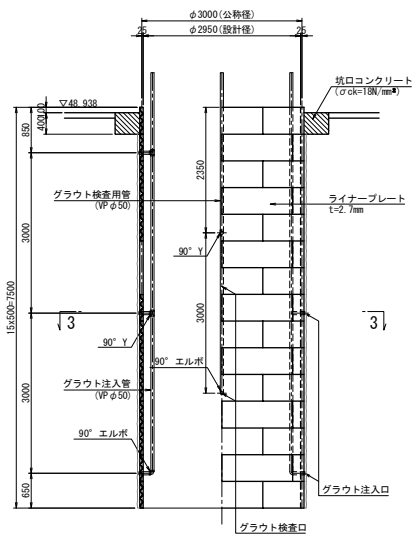


特記事項
機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

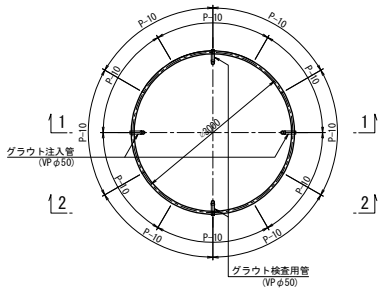
常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台深礎杭配筋図(2)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

NO. 1, 2深礎杭

1-1 2-2



3-3

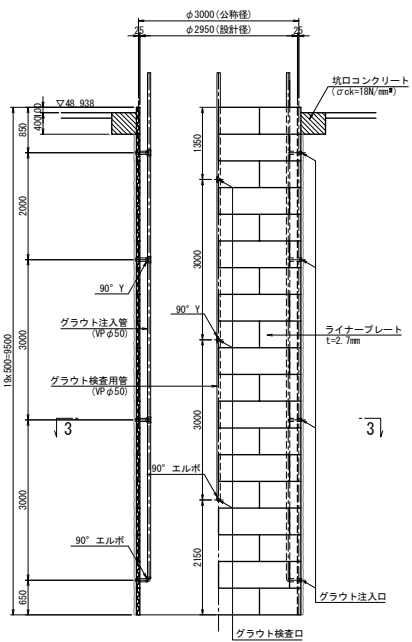


ライナープレート材料表

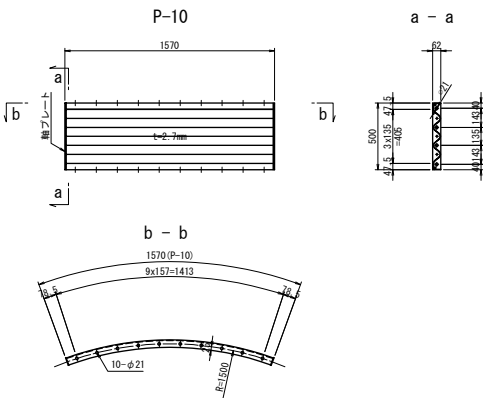
名 称	規 格 寸 法	数 量	単位質量	質量(kg)	備 考
・NO. 1, 2深礎杭(設計長 7.5m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	180	26.0	4,680	黒皮品
組立ボルト	M16×30(4.6LP組立て用)	2,400	0.137	329	
・NO. 3, 4深礎杭(設計長 9.5m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	228	26.0	5,928	黒皮品
組立ボルト	M16×30(4.6LP組立て用)	3,072	0.137	421	
ライナープレート		10,608	kg		
組立ボルト		750	〃		
合計		11,358	kg		

NO. 3, 4深礎杭

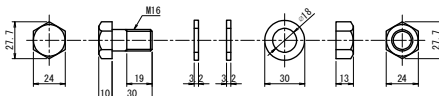
1-1 2-2



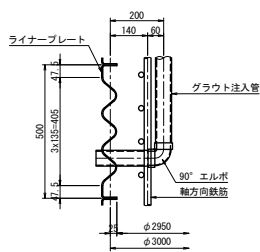
ライナープレート詳細図 S=1:40



組立ボルト詳細図 S=1:4

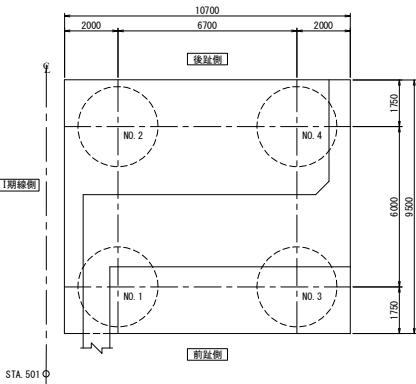


配管詳細図 S=1:20



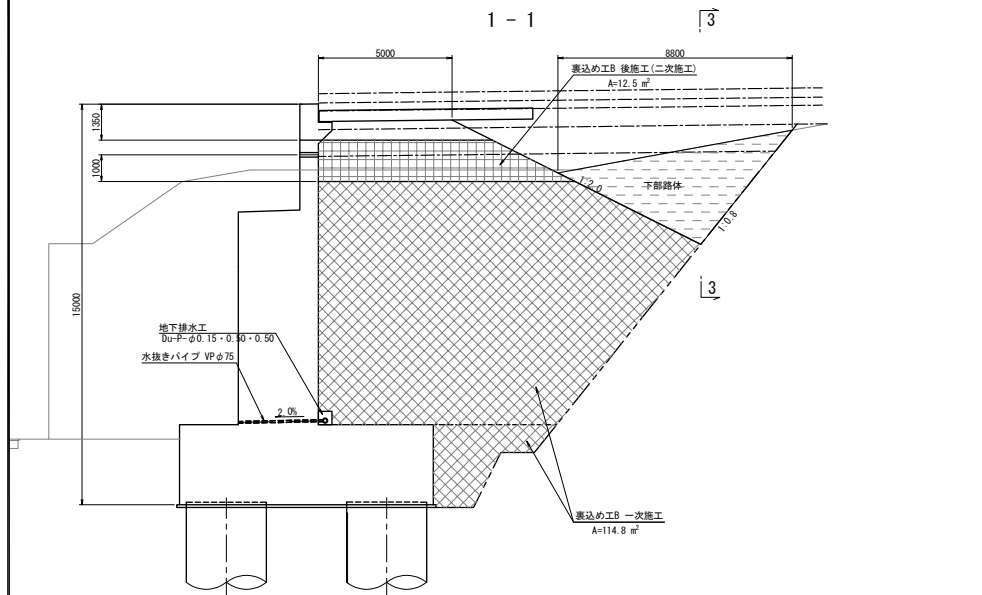
グラウト注入管材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	延長(m)	備 考
・NO. 1, 2深礎杭(設計長 7.5m)				
直管	VP φ50	—	50.0	
継手管	90° エルボ(VP φ50用)	8	—	
継手管	90° Y(VP φ50用)	12	—	
・NO. 3, 4深礎杭(設計長 9.5m)				
直管	VP φ50	—	66.0	
継手管	90° エルボ(VP φ50用)	8	—	
継手管	90° Y(VP φ50用)	20	—	
坑口コンクリートD1-1		2.2	m ²	1本当たり
坑口型枠D		8.8	m ²	4本当たり
坑口型枠D		5.025	m ²	1本当たり
坑口型枠D		20.1	m ²	4本当たり

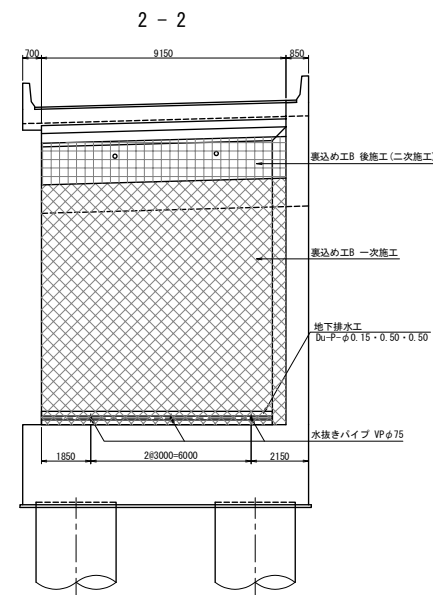


・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。

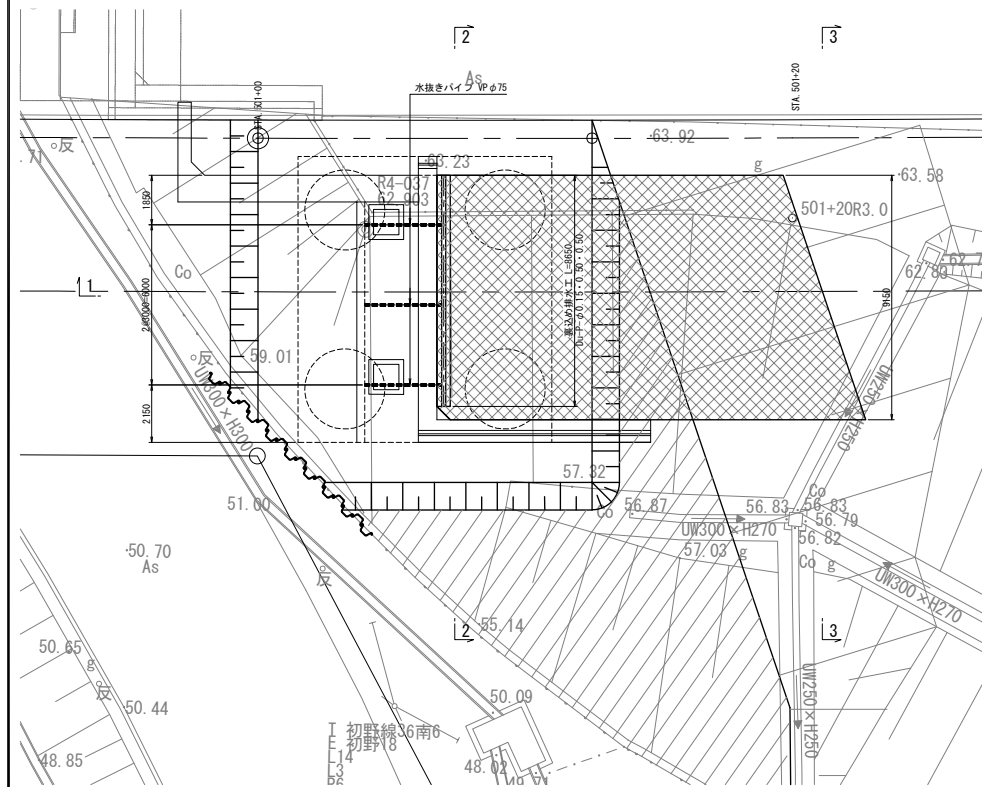
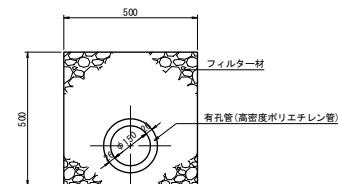
常 務 自 動 車 送 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭土留工図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社		
事務所名	いわき工務事務所		



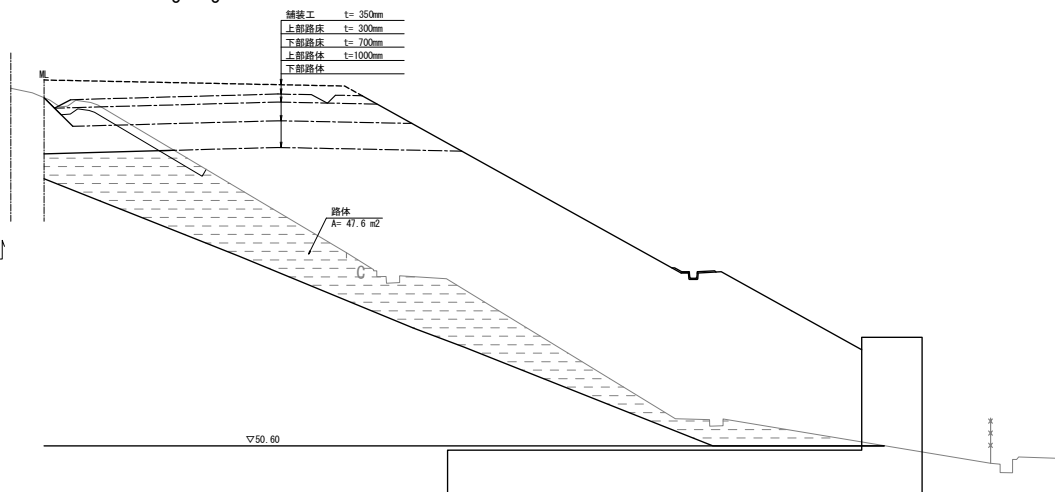
平面図



地下排水工詳細図 S=1:40



3 - 3



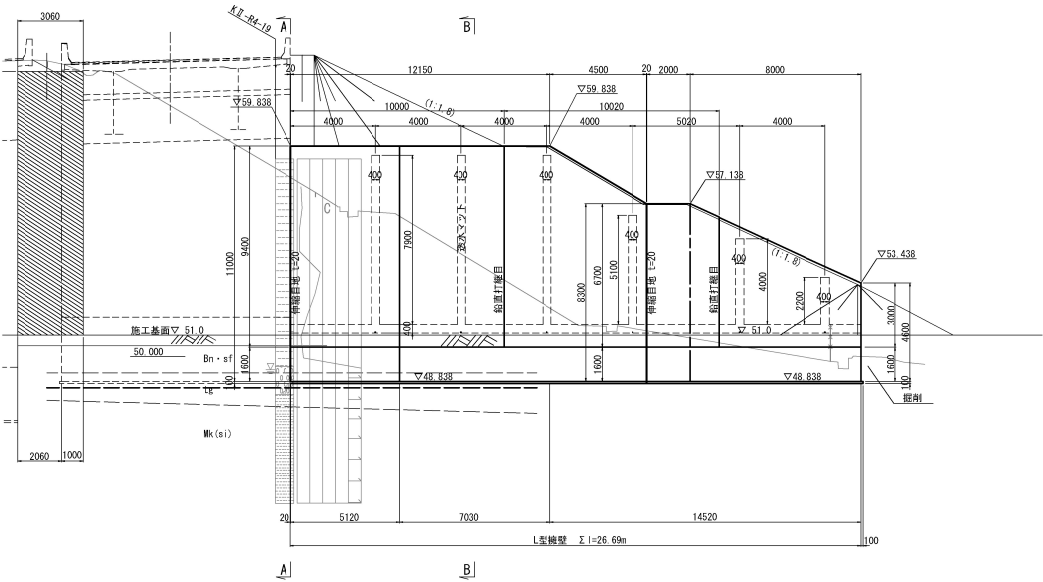
数量表

項目	種別	単位	数量	備考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m³	1050.4	
	裏込め工B (舗装工事施工)	m³	114.4	二次施工
路体	本線路体へ計上	m³	209.4	
地下排水工	Du-P-φ0.15・0.50・0.50	m	9.2	

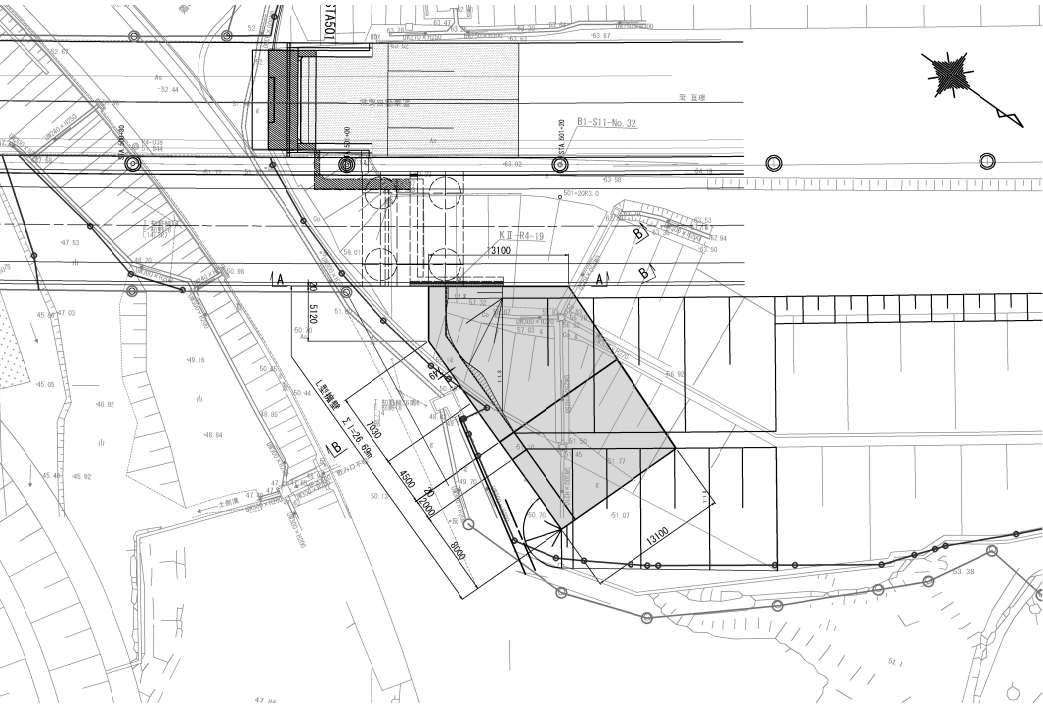
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台裏込め工排水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

かやぐらばし L型擁壁一般図

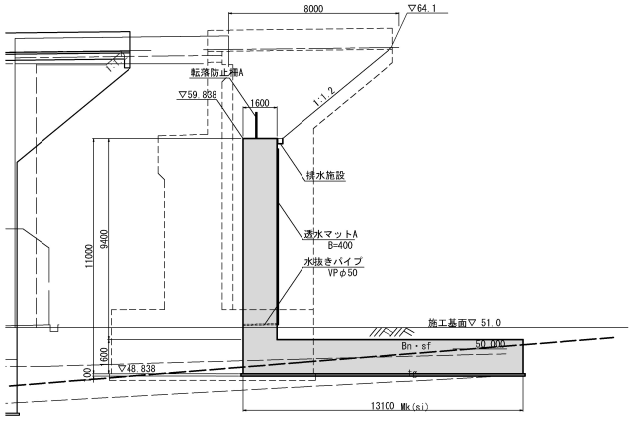
展開図 S=1:250



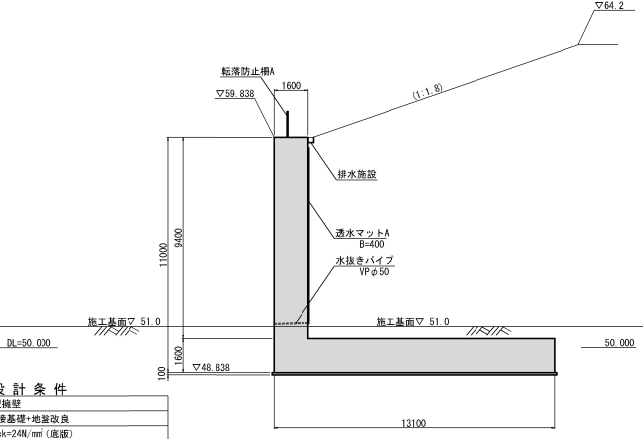
平面図 S=1:500



A - A S=1:250



B - B S=1:250



設計条件

擁壁形式	L型擁壁
基礎形式	直接基礎・地盤改良
材料	コンクリート σ _{ck} =24N/mm ² (底版) σ _{ck} =30N/mm ² (壁壁)
鉄筋	SD345
設計水平面高	kh=0.16 (第1種地盤)
設計要領	第三集 (R1.7)
適用基準	道路橋示方書・同解説I~V (H29.11)

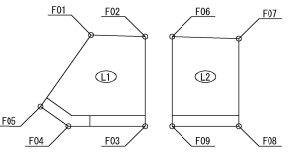
L型擁壁 数量表

項目	種別	単位	数量
コンクリート	A1-3	m ³	316.5
	B2-1	m ³	479.0
	D1-1	m ³	30.4
	C	m ³	561.4
鉄筋	D	m ³	8.5
	D13	t	1.572
	D16~D25	t	4.468
	D29~D32	t	6.266
	合計	t	12.306
	D16~D25	t	3.651
	D29~D32	t	18.908
	合計	t	22.559
	D13	t	1.203
	D16~D25	t	4.115
	D29~D32	t	15.414
	合計	t	19.705
裏面排水工	透水マットA	m ²	24.7
転落防止柵工	A	m	26.7

L型擁壁座標

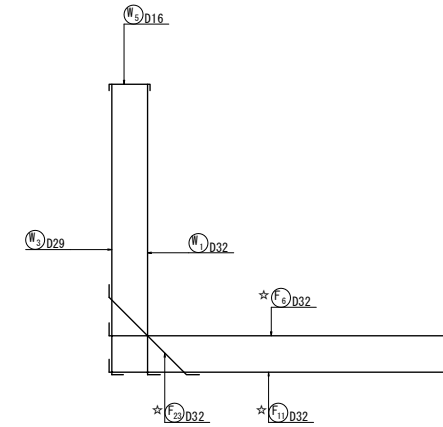
		x	y
L1	F01	201,589.7039	92,250.8274
	F02	201,597.3275	92,253.7212
	F03	201,592.9547	92,266.3923
	F04	201,582.0551	92,262.6309
L2	F05	201,579.0668	92,258.4735
	F06	201,597.3464	92,253.7275
	F07	201,606.7000	92,257.2775
	F08	201,602.4265	92,269.6613
	F09	201,592.9736	92,266.3989

位置図

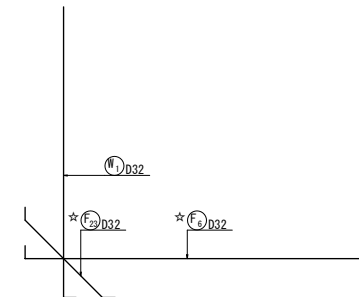


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	L型擁壁一般図	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

ctc 125mm



ctc 125mm



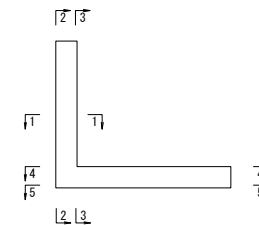
注：下記機械式鉄筋施工法については、
 ①下の基準等が適用すること。

1. 道路橋方策一斉解説(024.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋施工法記号設計ガイドライン
 (028.7 機械式鉄筋定着工法技術委員会)など
 など、定常的な設置方法、施工条件に応じて定着体と
 半円筒形の設置方法を変更してもよい。
- また、中国規格に定常体を用いる場合は構造物効果の
 変異等により効果が増減した定着体を用いること。

注：機械式鉄筋については、下記の基準等が適用すること。

1. 道路橋方策一斉解説(024.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・接合手引(028.7 日本道路協会)
3. 設置員より使用品目の施主と施工法、管理方法の
 書面を得てこの工法を行うこと。

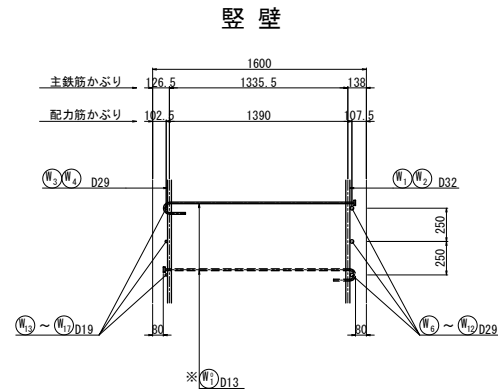
注：◎は上部工施工を示す。
 ※印記号は通常規格、この印のない場合は工ホキ工鉄筋を示す。
 ①は機械式鉄筋を示す。



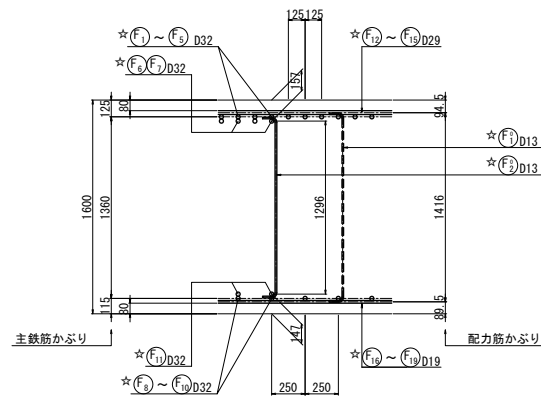
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型縮壁配筋図 (1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

L1(2)

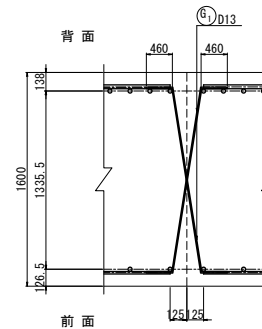
かぶり詳細図 縮尺 1:40



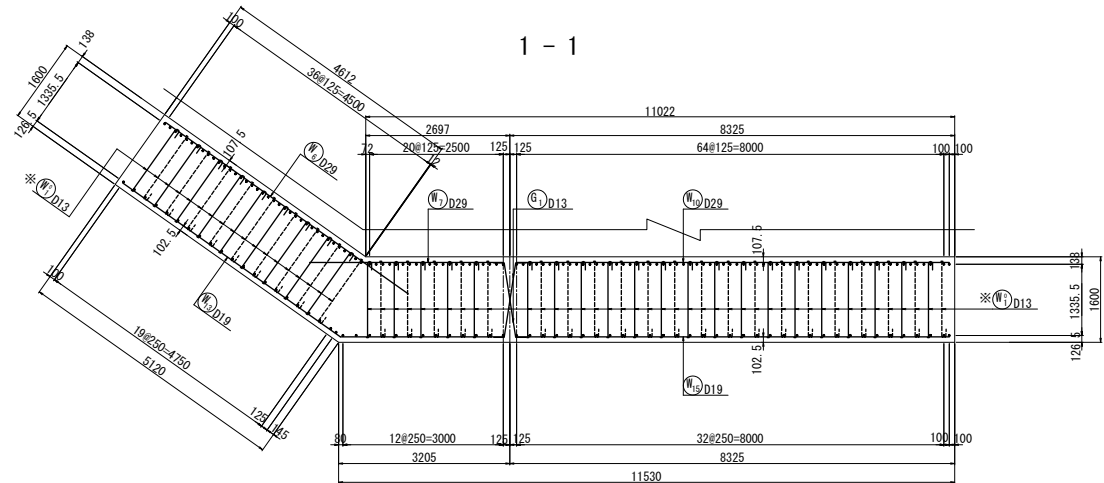
底板



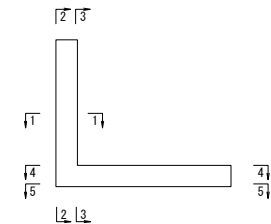
目地部詳細図 縮尺 1:40



1 - 1



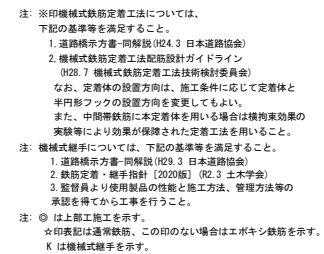
矢視図



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (H2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上組施工を示す。
☆ 印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

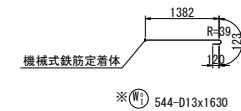
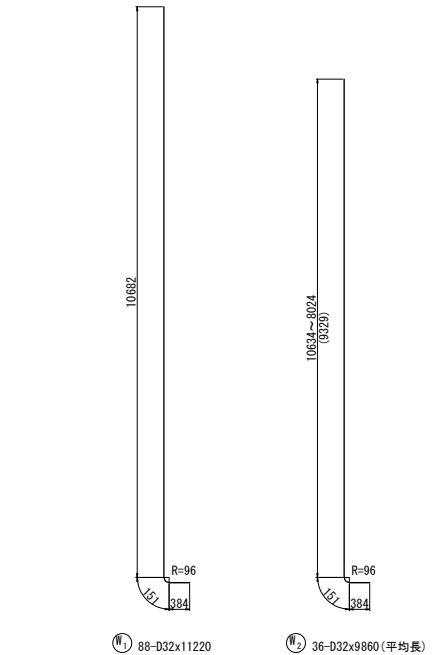
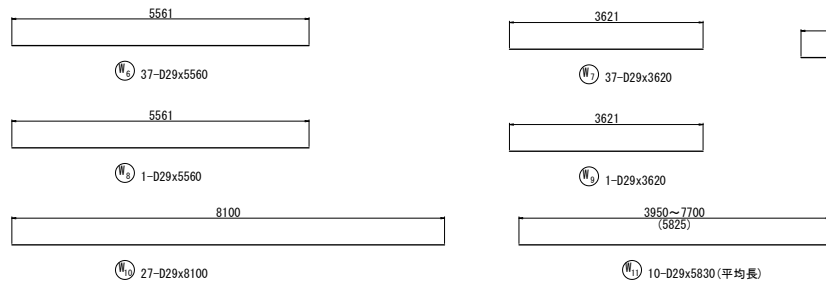
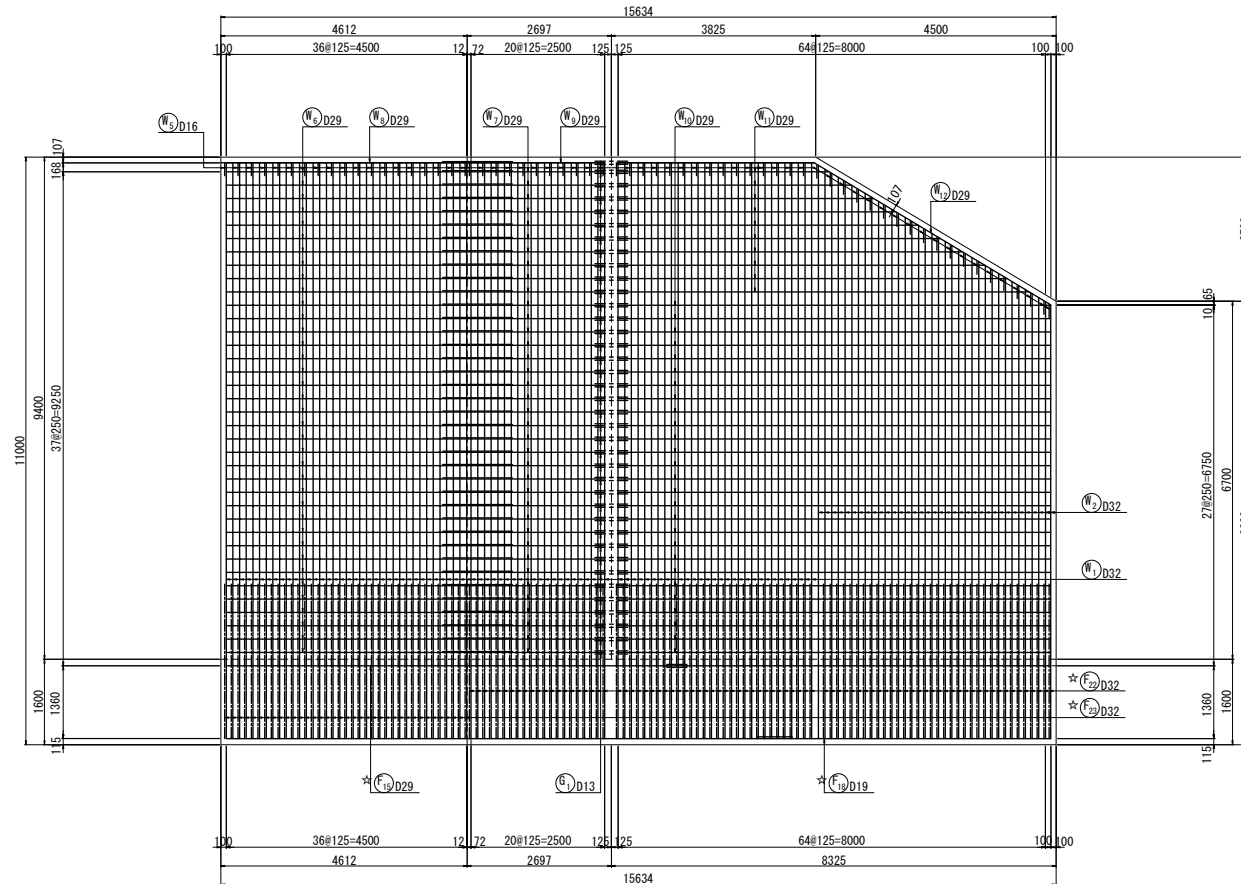
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

L1 (3)

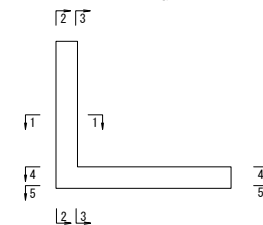


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型縦壁配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

3 - 3 (縦壁背面)



矢 視 図

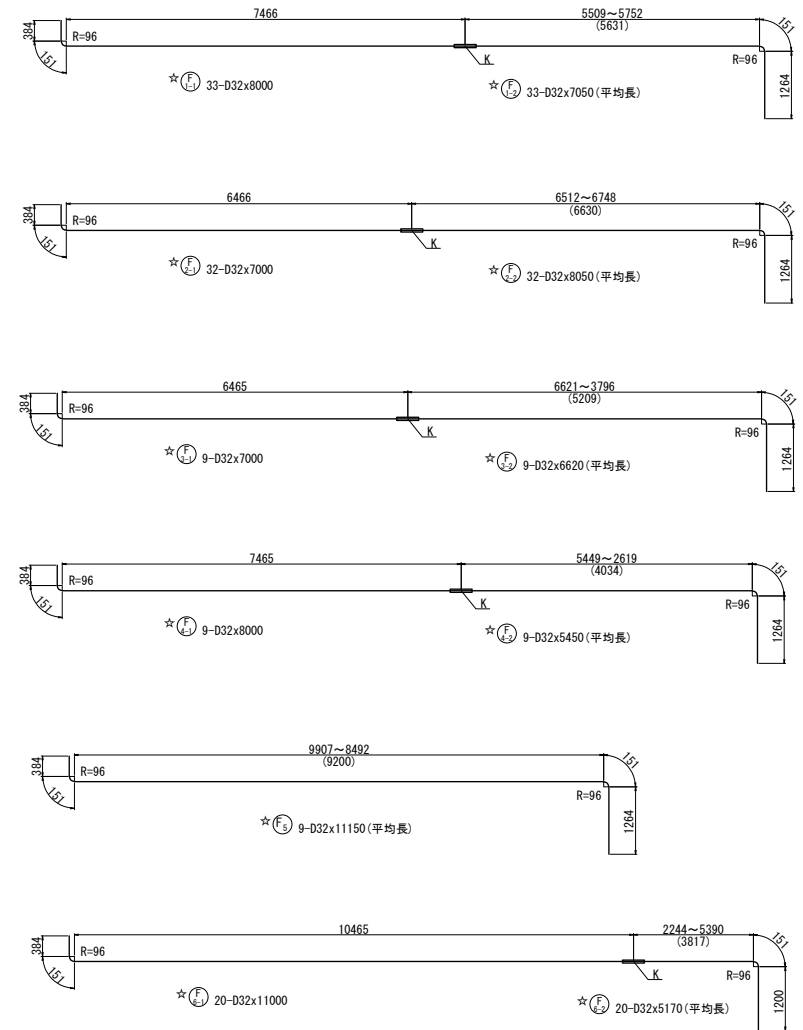
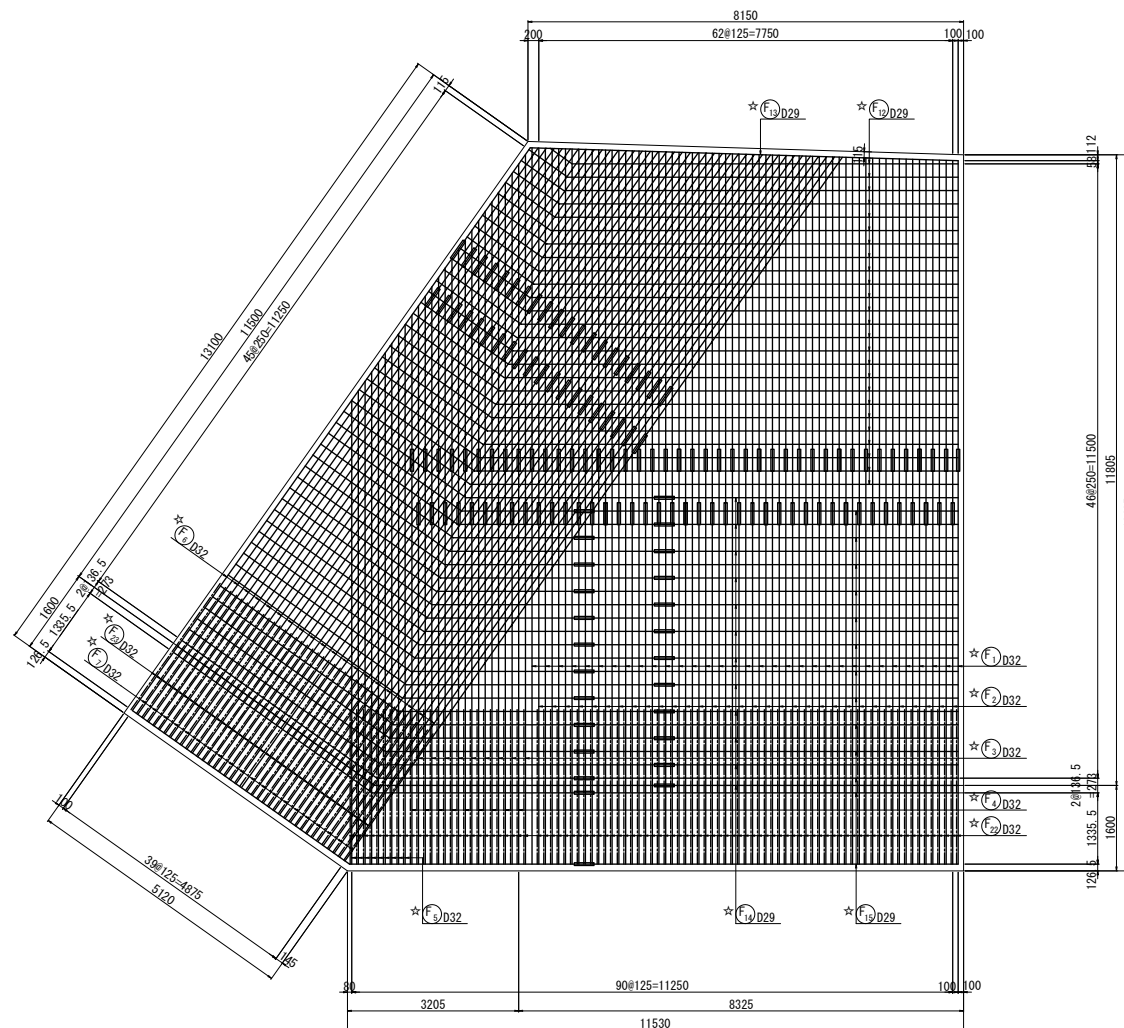


注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路横断方書・同解説(1024.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(1028.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構構効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路横断方書・同解説(1029.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針(2020版)(R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎は上部工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
Kは機械式継手を示す。

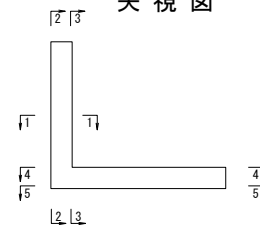
常 務 自 助 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

L1(5)

4 - 4 (底版上面)



矢 視 図

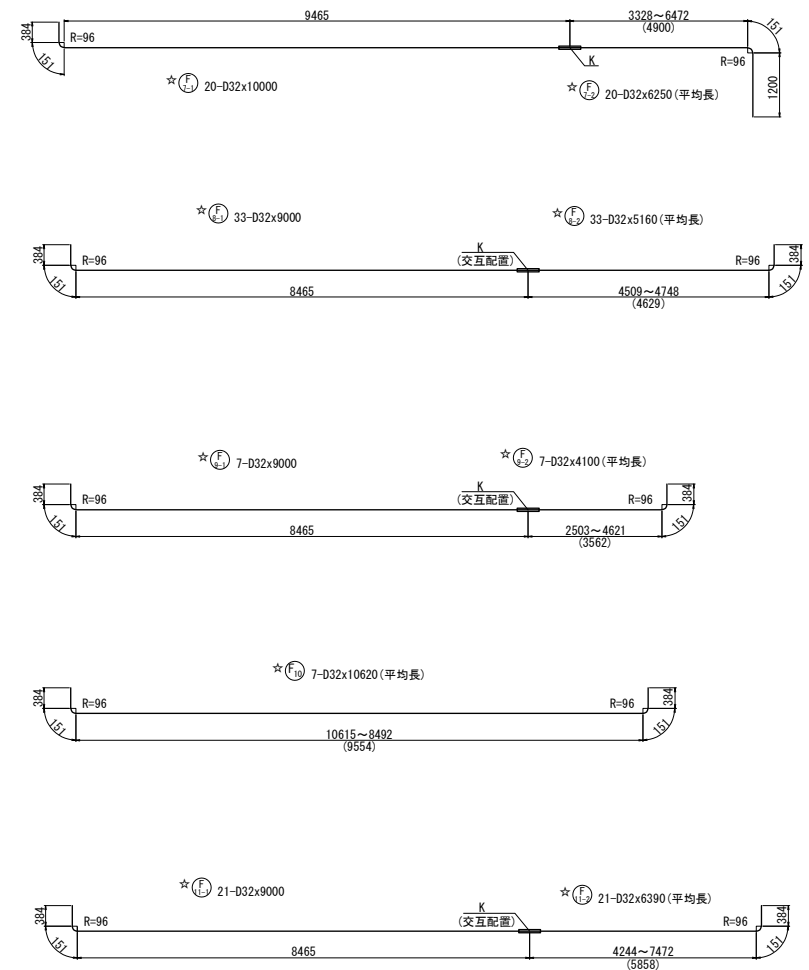
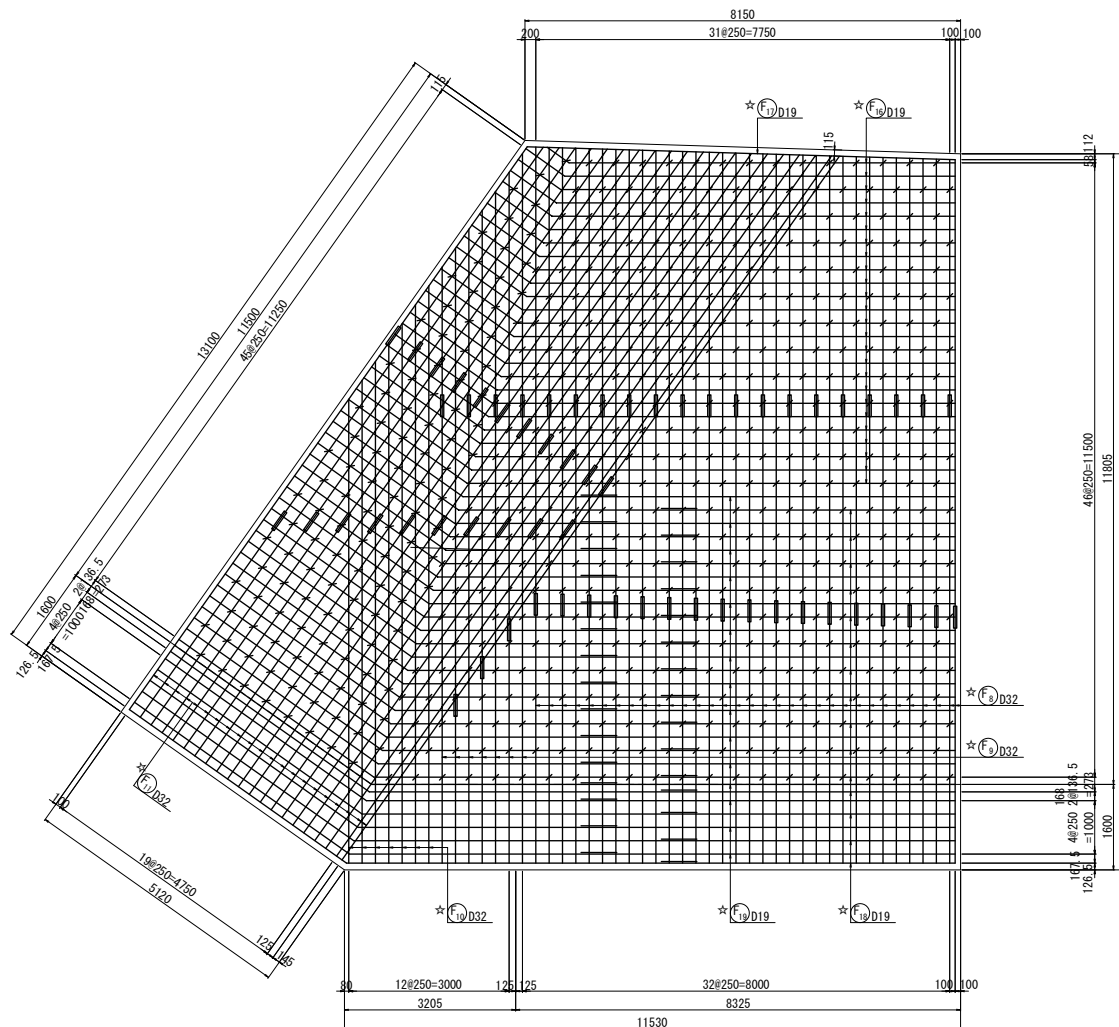


注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (H2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上層施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 常 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

L1 (6)

5 - 5 (底版下面)



矢 視 図

注: 下記機械式鉄筋配置施工法については、
 下の基準等を満足すること。

1. 道路構造物方書・関係図(024.3 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着装置ガイドライン
 (027.7 機械式鉄筋配置施工法検討委員会)
 など、定着機の設置方法、施工条件に応じて着床性と
 半円筒状の設置方法を変更してもよい。
 また、中間鉄筋に定着機を用いる場合は機構末効果の
 実驗により効率が確保された定着法を用いること。

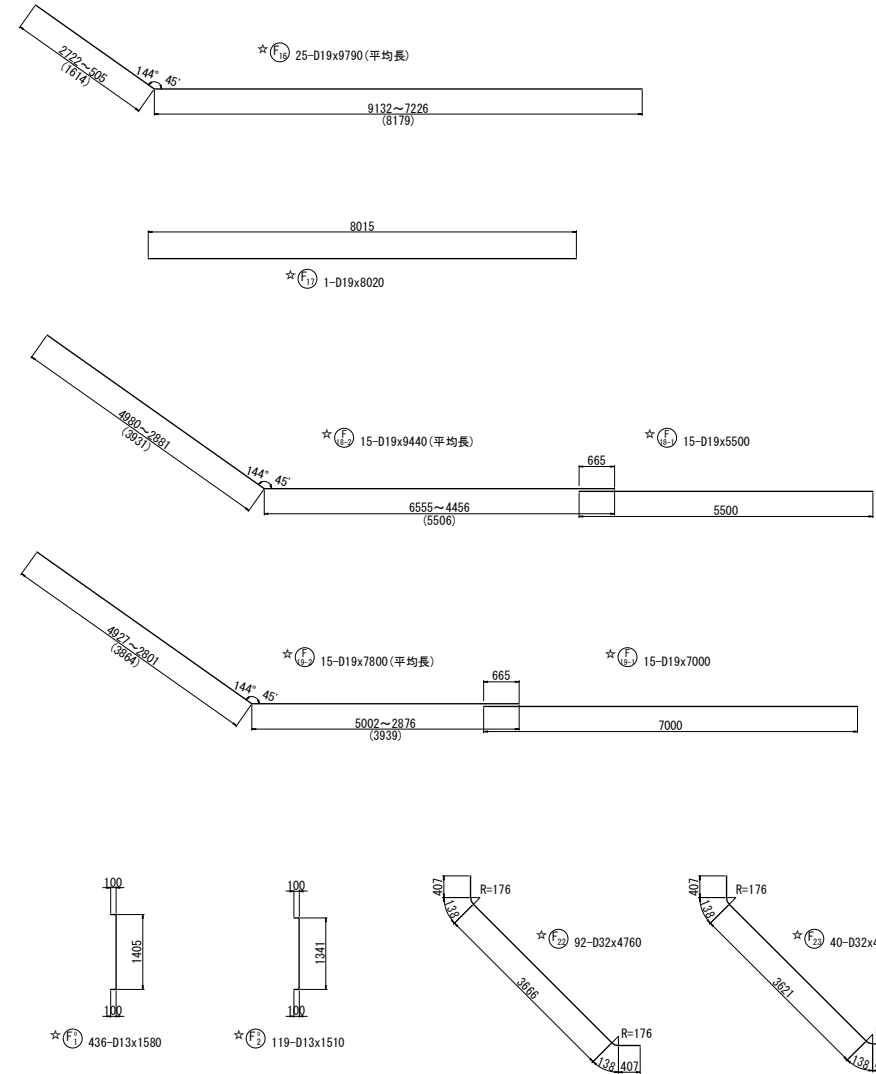
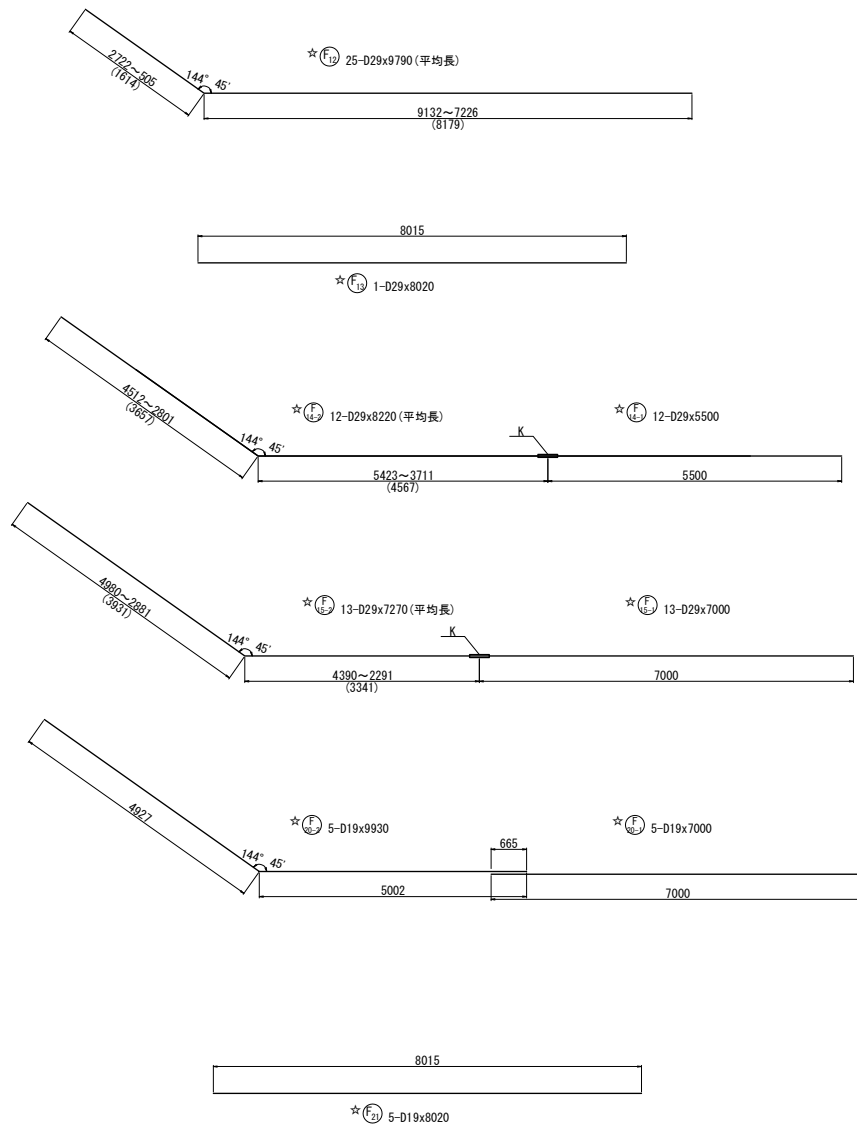
注: 機械式鉄筋配置については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路構造物方書・関係図(024.3 日本道路協会)
 2. 定着装置・棒引き装置(2002年12月、土木学会)
 3. 定着装置より使用される定着機施工法、管理方法等の
 承認を受ける工事を行うこと。

注: ◎ は上層施工を示す。
 ◎ 印表示は通称鉄筋、この印のない場合はモルタル鉄筋を示す
 △ は機械式棒引きを示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(6)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事業部		

L1(7)



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
 1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
 なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
 また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋構東効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
 注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
 1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)
 2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (H2.3 土木学会)
 3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
 注: ◎ は上組施工を示す。
 ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
 K は機械式継手を示す。

常 常 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(7)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W 1	D32	11220	88	6.23	69.9	6151	L
W 2	D32	9860	36	6.23	61.4	2210	L (平均長)
W 3	D29	11800	49	5.04	59.5	2916	L
W 4	D29	9820	19	5.04	49.5	941	L (平均長)
W 5	D16	1770	64	1.56	2.76	177	┐
W 6	D29	5560	37	5.04	28.0	1036	—
W 7	D29	3620	37	5.04	18.2	673	—
W 8	D29	5560	1	5.04	28.0	28	—
W 9	D29	3620	1	5.04	18.2	18	—
W 10	D29	8100	27	5.04	40.8	1102	—
W 11	D29	5830	10	5.04	29.4	294	— (平均長)
W 12	D29	8830	1	5.04	44.5	45	—
W 13	D19	8030	37	2.25	18.1	670	—
W 14	D19	8030	6	2.25	18.1	109	—
W 15	D19	8100	27	2.25	18.2	491	—
W 16	D19	5830	10	2.25	13.1	131	— (平均長)
W 17	D19	8840	6	2.25	19.9	119	—

17111 kg

※ C

WO 1	D13	1630	544	0.995	1.62	881	→ <544>
881 kg							

G 1	D13	2320	76	0.995	2.31	176	┐
176 kg							

☆ B

F 1-1	D32	8000	33	6.23	49.8	1643	┐ (33)
-------	-----	------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 1-2	D32	7050	33	6.23	43.9	1449	┐ (平均長)
-------	-----	------	----	------	------	------	---------

☆ B

F 2-1	D32	7000	32	6.23	43.6	1395	┐ (32)
-------	-----	------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 2-2	D32	8050	32	6.23	50.2	1606	┐ (平均長)
-------	-----	------	----	------	------	------	---------

☆ B

F 3-1	D32	7000	9	6.23	43.6	392	┐ (9)
-------	-----	------	---	------	------	-----	-------

☆ B

F 3-2	D32	6620	9	6.23	41.2	371	┐ (平均長)
-------	-----	------	---	------	------	-----	---------

☆ B

F 4-1	D32	8000	9	6.23	49.8	448	┐ (9)
-------	-----	------	---	------	------	-----	-------

☆ B

F 4-2	D32	5450	9	6.23	34.0	306	┐ (平均長)
-------	-----	------	---	------	------	-----	---------

☆

F 5	D32	11150	9	6.23	69.5	626	┐
-----	-----	-------	---	------	------	-----	---

☆ B

F 6-1	D32	11000	20	6.23	68.5	1370	┐ (20)
-------	-----	-------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 6-2	D32	5170	20	6.23	32.2	644	┐ (平均長)
-------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆ B

F 7-1	D32	10000	20	6.23	62.3	1246	┐ (20)
-------	-----	-------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 7-2	D32	6250	20	6.23	38.9	778	┐ (平均長)
-------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆ B

F 8-1	D32	9000	33	6.23	56.1	1851	┐ (33)
-------	-----	------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 8-2	D32	5160	33	6.23	32.1	1059	┐ (平均長)
-------	-----	------	----	------	------	------	---------

☆ B

F 9-1	D32	9000	7	6.23	56.1	393	┐ (7)
-------	-----	------	---	------	------	-----	-------

☆ B

F 9-2	D32	4100	7	6.23	25.5	179	┐ (平均長)
-------	-----	------	---	------	------	-----	---------

☆ B

F 10	D32	10620	7	6.23	66.2	463	┐ (平均長)
------	-----	-------	---	------	------	-----	---------

☆ B

F 11-1	D32	9000	21	6.23	56.1	1178	┐ (21)
--------	-----	------	----	------	------	------	--------

☆ B

F 11-2	D32	6390	21	6.23	39.8	836	┐ (平均長)
--------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆

F 12	D29	9790	25	5.04	49.3	1233	┐ (平均長)
------	-----	------	----	------	------	------	---------

☆

F 13	D29	8020	1	5.04	40.4	40	—
------	-----	------	---	------	------	----	---

☆ B

F 14-1	D29	5500	12	5.04	27.7	332	— (12)
--------	-----	------	----	------	------	-----	--------

☆ B

F 14-2	D29	8220	12	5.04	41.4	497	┐ (平均長)
--------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆ B

F 15-1	D29	7000	13	5.04	35.3	459	┐ (13)
--------	-----	------	----	------	------	-----	--------

☆ B

F 15-2	D29	7270	13	5.04	36.6	476	┐ (平均長)
--------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆

F 16	D19	9790	25	2.25	22.0	550	┐ (平均長)
------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆

F 17	D19	8020	1	2.25	18.0	18	—
------	-----	------	---	------	------	----	---

☆

F 18-1	D19	5500	15	2.25	12.4	186	—
--------	-----	------	----	------	------	-----	---

☆

F 18-2	D19	9440	15	2.25	21.2	318	┐ (平均長)
--------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆

F 19-1	D19	7000	15	2.25	15.8	237	—
--------	-----	------	----	------	------	-----	---

☆

F 19-2	D19	7800	15	2.25	17.6	264	┐ (平均長)
--------	-----	------	----	------	------	-----	---------

☆

F 20-1	D19	7000	5	2.25	15.8	79	—
--------	-----	------	---	------	------	----	---

☆

F 20-2	D19	9930	5	2.25	22.3	112	┐ (平均長)
--------	-----	------	---	------	------	-----	---------

☆

F 21	D19	8020	5	2.25	18.0	90	—
------	-----	------	---	------	------	----	---

鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
F 22	D32	4760	92	6.23	29.7	2732	┐
F 23	D32	4710	40	6.23	29.3	1172	┐
27028 kg							

☆

F0 1	D13	1580	436	0.995	1.57	685	┐
------	-----	------	-----	-------	------	-----	---

☆

F0 2	D13	1510	119	0.995	1.50	179	┐
------	-----	------	-----	-------	------	-----	---

864 kg

A(E)鉄筋 A鉄筋 B鉄筋 C(E)鉄筋 合計 機械継手箇所 機械式定着箇所

D32 8361 kg 4993 kg 17144 kg 30498 kg (184)

D29 7053 kg 1273 kg 1764 kg 10090 kg (25)

D19 1520 kg 1854 kg 3374 kg

D16 177 kg 177 kg

D13 176 kg 864 kg 881 kg 1921 kg <544>

合計 17,287 kg 8,984 kg 18,908 kg 881 kg 46060 kg (209) <544>

注：()内数値は機械継手箇所を示す。

< >内数値は機械式定着箇所を示す。

鉄筋集計表

種別	径	質量(kg)	摘要
A(E) (SD345)	D13	176	
	D16 ~D25	D16	177
		D19	1520
		D22	
		D25	
		小計	1697
	D29, D32	D29	7053
		D32	8361
		小計	15414
	D35		
	D38		
	合計	17287 kg	
A (SD345)	D13	864	
	D16 ~D25	D16	
		D19	1854
		D22	
		D25	
		小計	1854
	D29, D32	D29	1273
		D32	4993
		小計	6266
	D35		
	D38		
	合計	8984 kg	
B (SD345)	D13		
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	1764
		D32	17144
		小計	18908
	D35		
	D38		
	合計	18908 kg	
C(E) (SD345)	D13	881	
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	
		D32	
		小計	
	D35		
	D38		
	合計	881 kg	

鉄筋加工寸法表

主筋							壁・底版スタースラップ						
主筋							スタースラップ						
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3φ			$\theta = 135^\circ$ R=5.5φ			径	$\theta = 90^\circ$ R=2.5φ					
	R	a	△L	R	a	△L		R	a	△L			
D13	39	61	17	71.5	56	3	D13	32.5	51	14			
D16	48	75	21	88	69	4	D16	40	63	17			
D19	57	89	25	104.5	82	5							
D22	66	104	28	121	95	5							
D25	75	118	32	137.5	108	6							
D29	87	137	37	159.5	125	7							
D32	96	151	41	176	138	8							
D35	105	165	45	192.5	151	8							
D38	114	179	49	209	164	9							

機械継手数量表

項目	鉄筋径	箇所数
機械継手 箇所数	D29	25
	D32	184
	D35	-
	D38	-
	D41	-
	D51	-
合計		209箇所

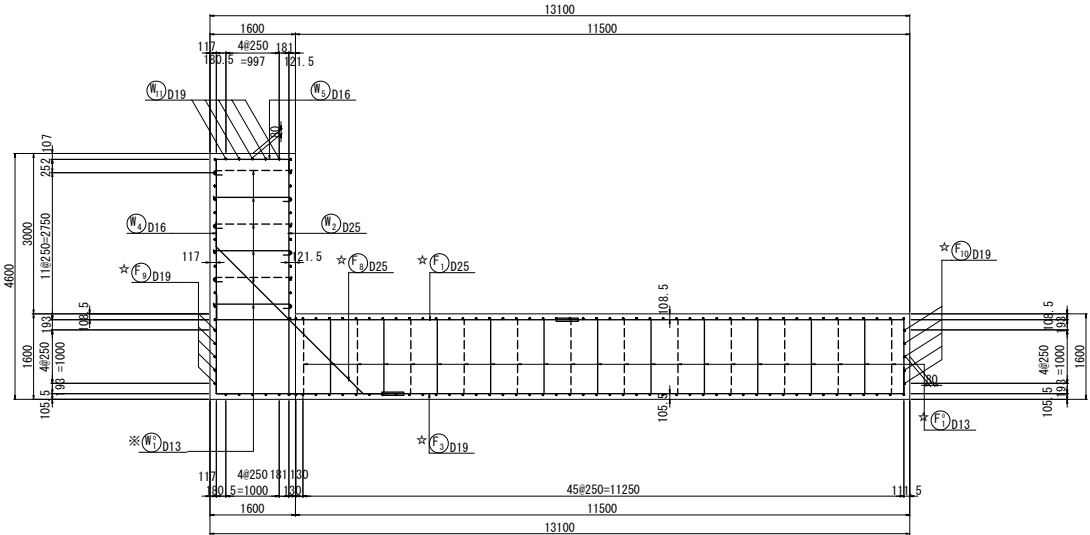
機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0 < L ≤ 1m	1m < L ≤ 2m	2m < L ≤ 3m	3m < L ≤ 4m	4m < L ≤ 5m	5m < L ≤ 6m
D13		544				
D16						
D19						
D22						
D25						
D29						
D32						
D35						
D38						
小計		544				
合計						544箇所

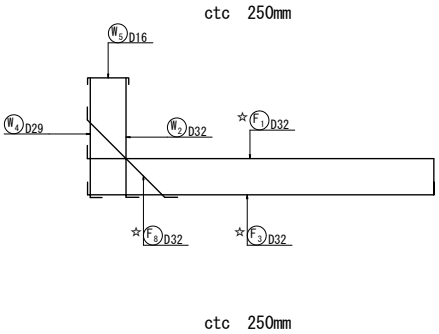
注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (024.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (028.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は機構実効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (029.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 [2000版] (02.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注：◎ は上級工法を示す。
☆ 印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。
B はB種鉄筋とする。
C はC種鉄筋とする。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(8)		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

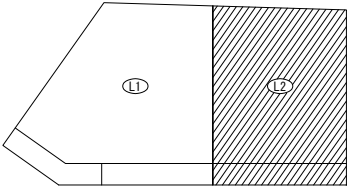
断面図
(A-A)



鉄筋組立図

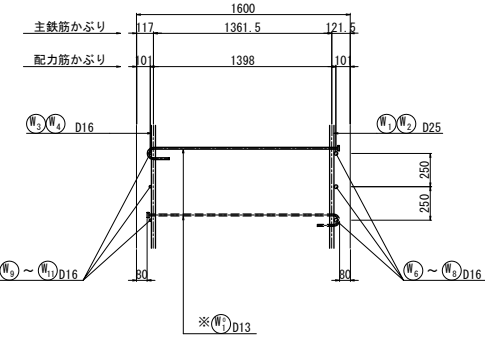


位置図

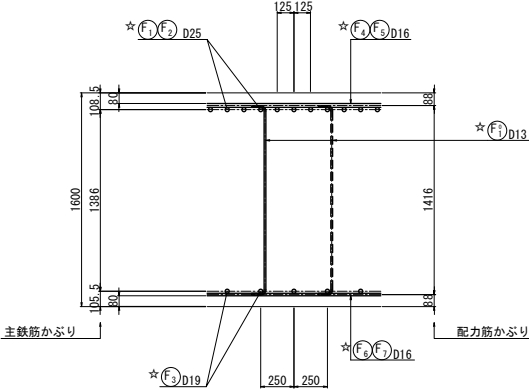


かぶり詳細図 縮尺 1:40

縦壁

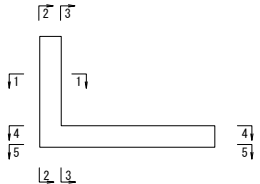


底板



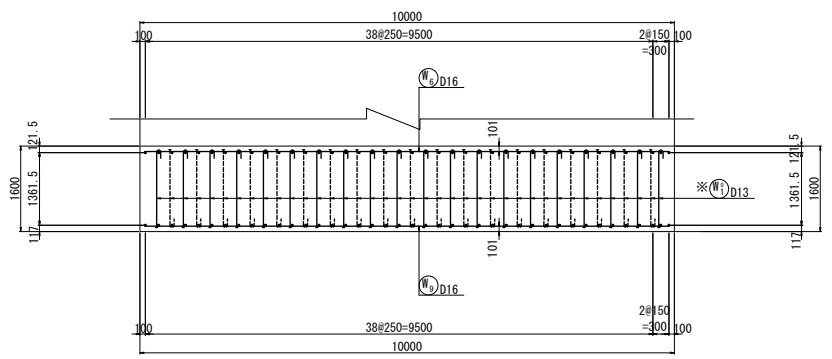
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (R28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構構束効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (R29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針 (2020版) (R2.3 土木学会)
3. 監理員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上層工施工を示す。
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

矢視図

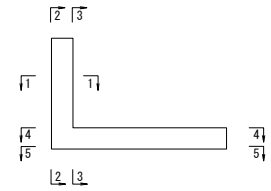


常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(9)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

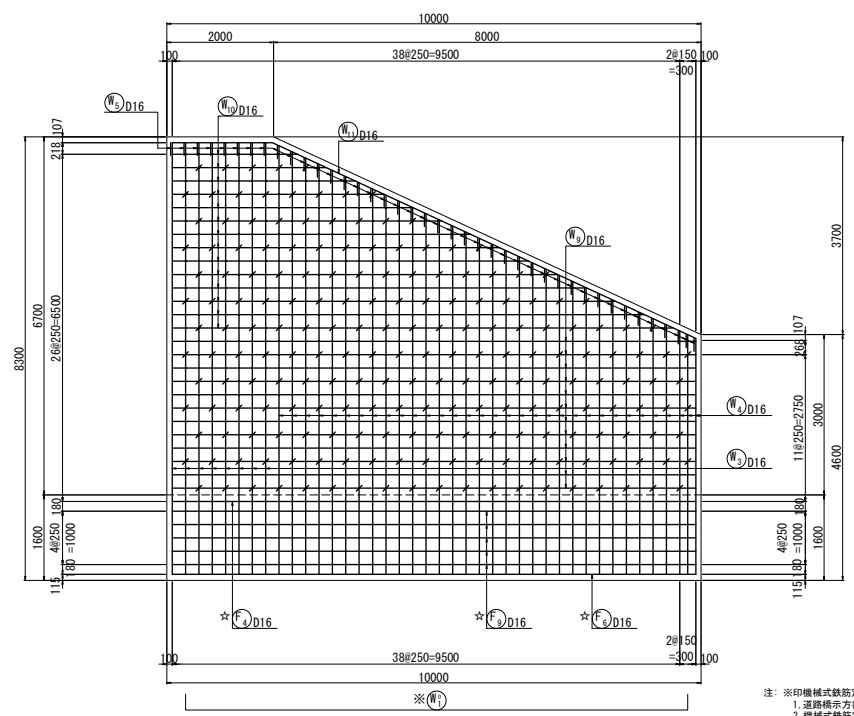
1 - 1



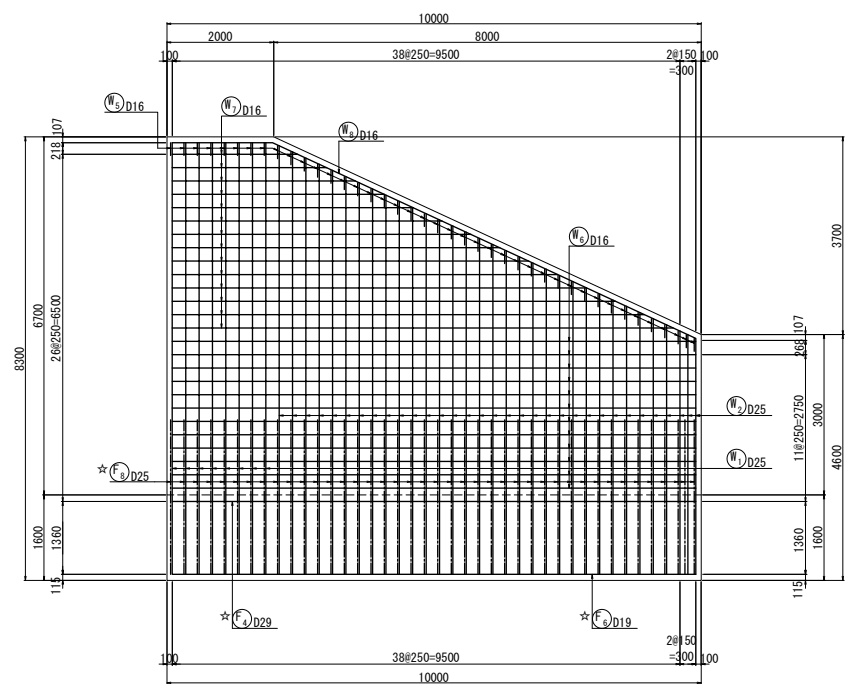
矢 視 図



2- 2(縦壁前面)



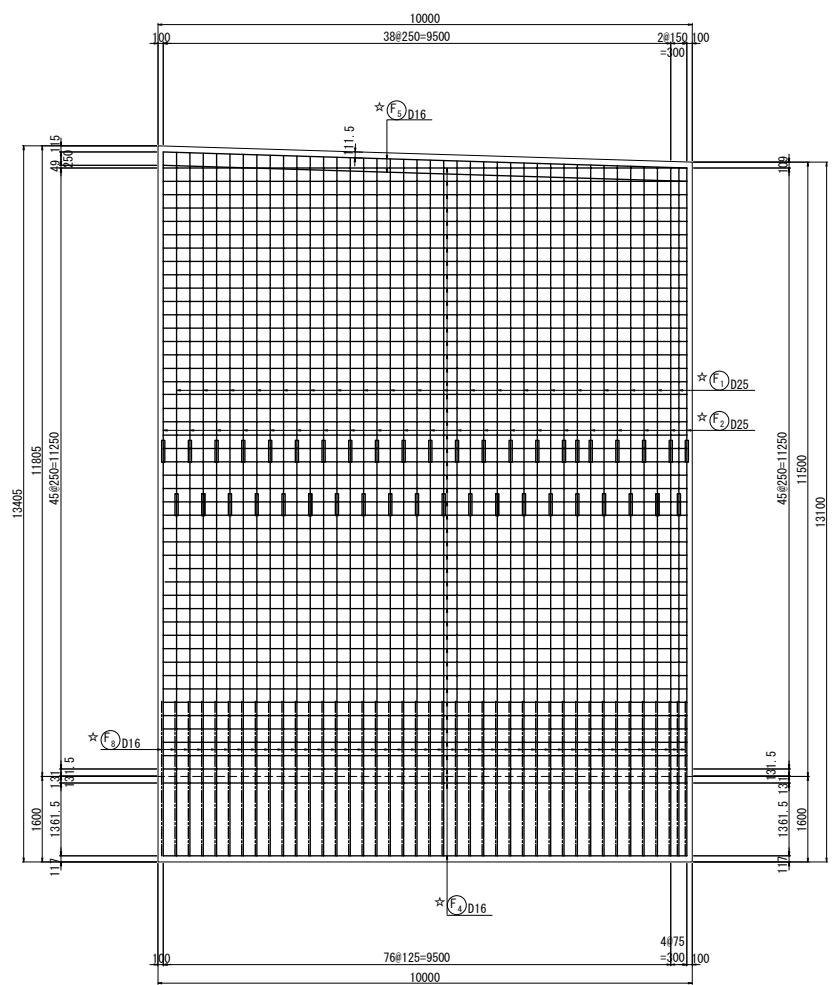
3 - 3 (縦壁背面)



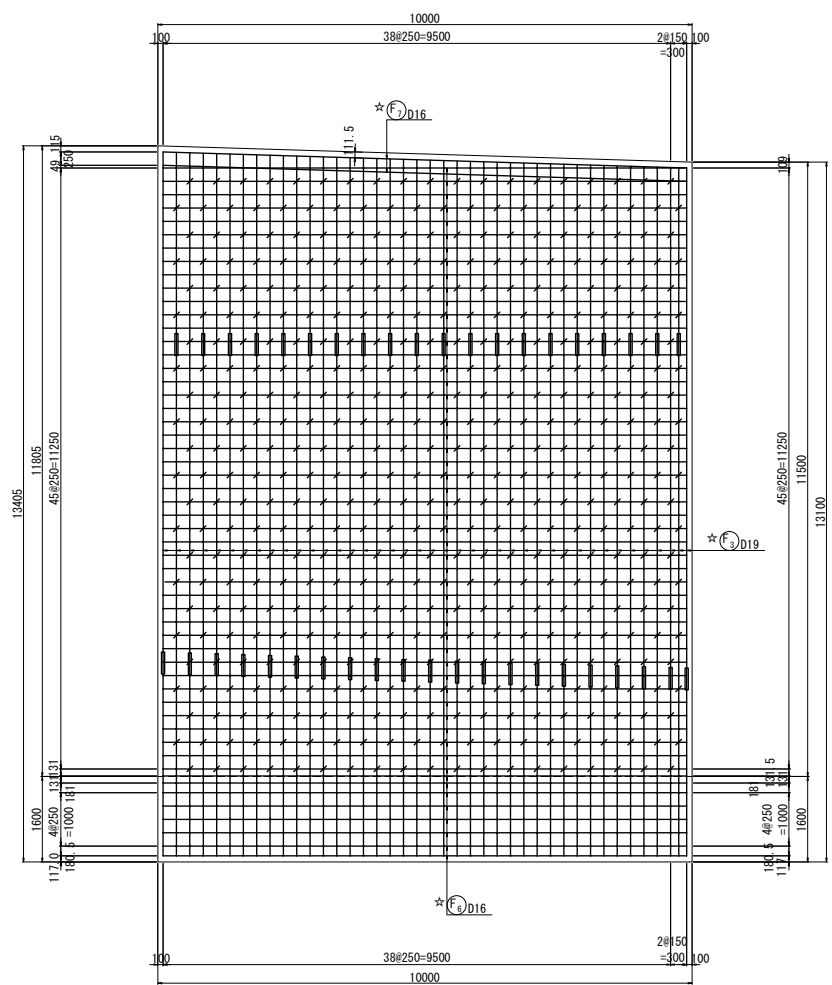
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手設計 [2020版] (R2.3 土木学会)
3. 監製員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部工施工を示す。
※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(10)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

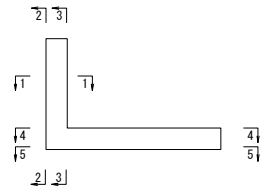
4 - 4 (底版上面)



5 - 5 (底版下面)

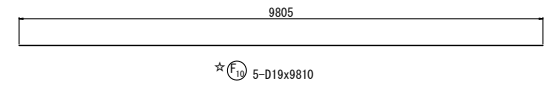
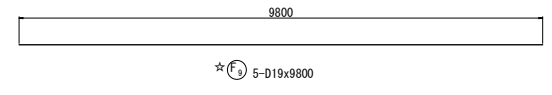
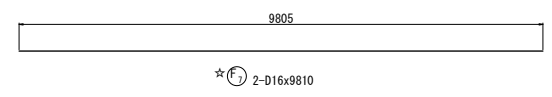
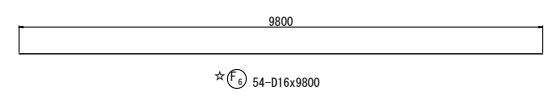
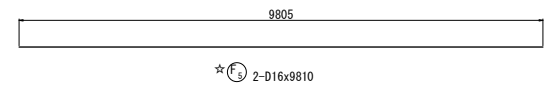
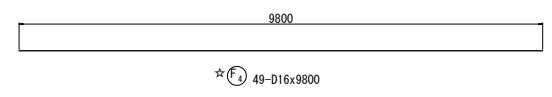
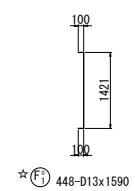
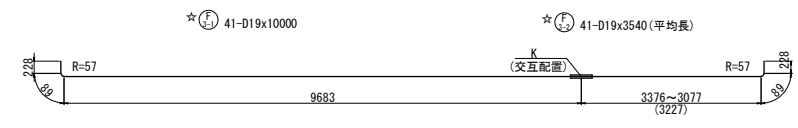
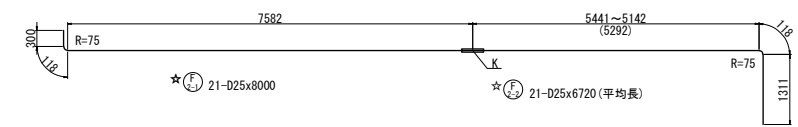
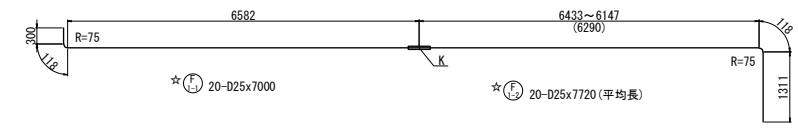
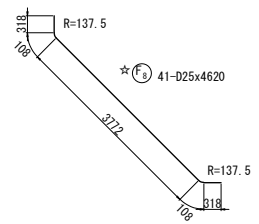
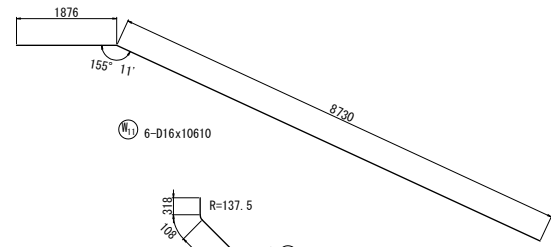
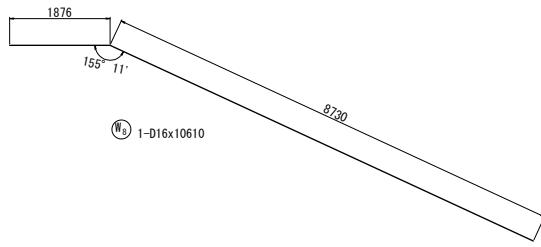
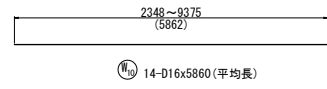
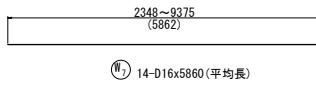
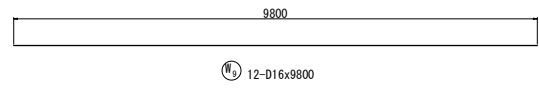
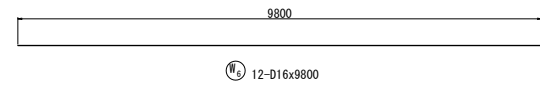
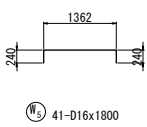
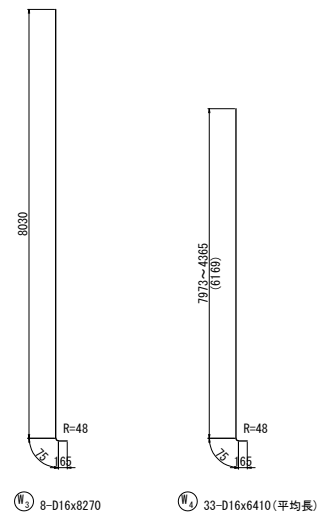
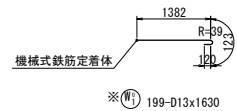
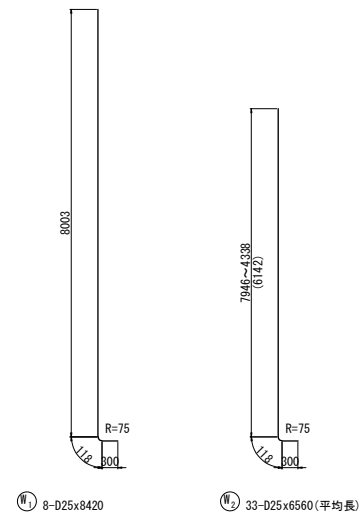


矢 視 図



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間等鉄筋に本定着体を用いる場合は橋脚束効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: ◎ は上部工施工を示す。
☆ 印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 設 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(11)		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社		
事務所名	いわき工務事務所		



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構造物効果の
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)
2. 鉄筋定着・継手指針【2020版】(R2.3 土木学会)
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。
注: ◎ は上部土工工を示す。
※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
K は機械式継手を示す。

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(12)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

主筋 縦壁・底版スターラ

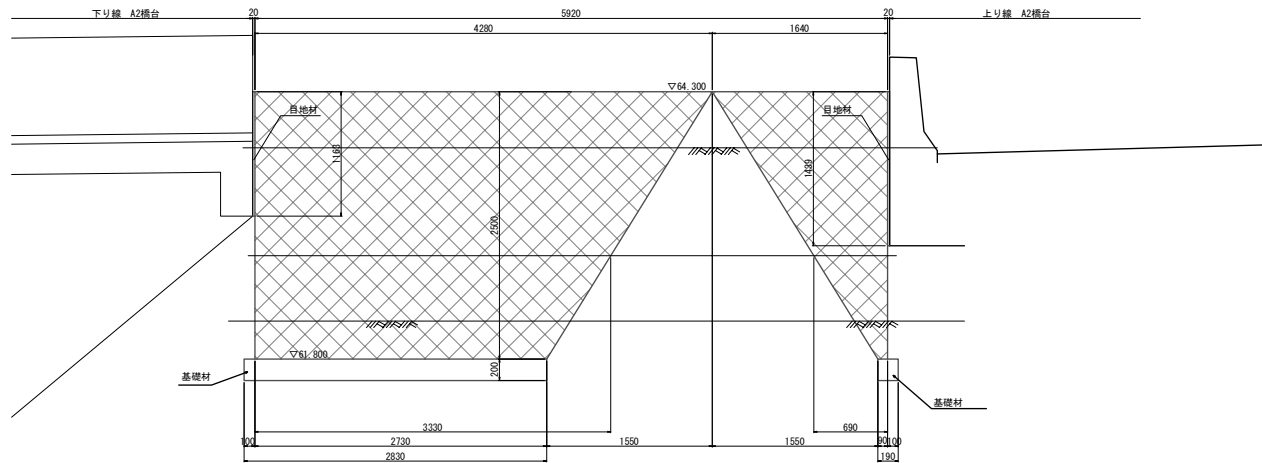
主 筋							スターラップ			
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3 ϕ			$\theta = 135^\circ$ R=5, 5 ϕ			径	$\theta = 90^\circ$ R=2, 5 ϕ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL		R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3	D13	32.5	51	14
D16	48	75	21	88	69	4	D16	40	63	17
D19	57	89	25	104.5	82	5				
D22	66	104	28	121	95	5				
D25	75	118	32	137.5	108	6				
D29	87	137	37	159.5	125	7				
D32	96	151	41	176	138	8				
D35	105	165	45	192.5	151	8				
D38	114	179	49	209	164	9				

鉄筋径	箇所数					
	$0 < L \leq 1m$	$1m < L \leq 2m$	$2m < L \leq 3m$	$3m < L \leq 4m$	$4m < L \leq 5m$	$5m < L \leq 6m$
D13		199				
D16						
D19						
D22						
D25						
D29						
D32						
D35						
D38						
小 計		199				
合 計						199 箇所

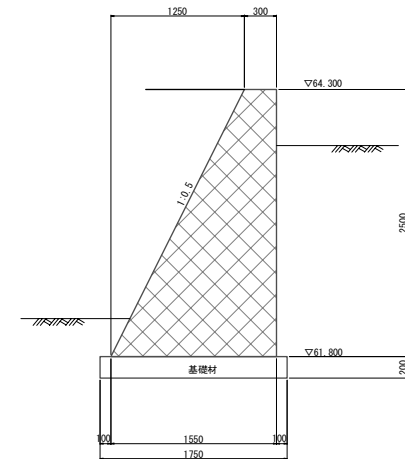
項目	鉄筋径	箇所数
機械継手 箇所数	D16	-
	D19	41
	D22	-
	D25	41
合 計		82箇所

常 登 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(13)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

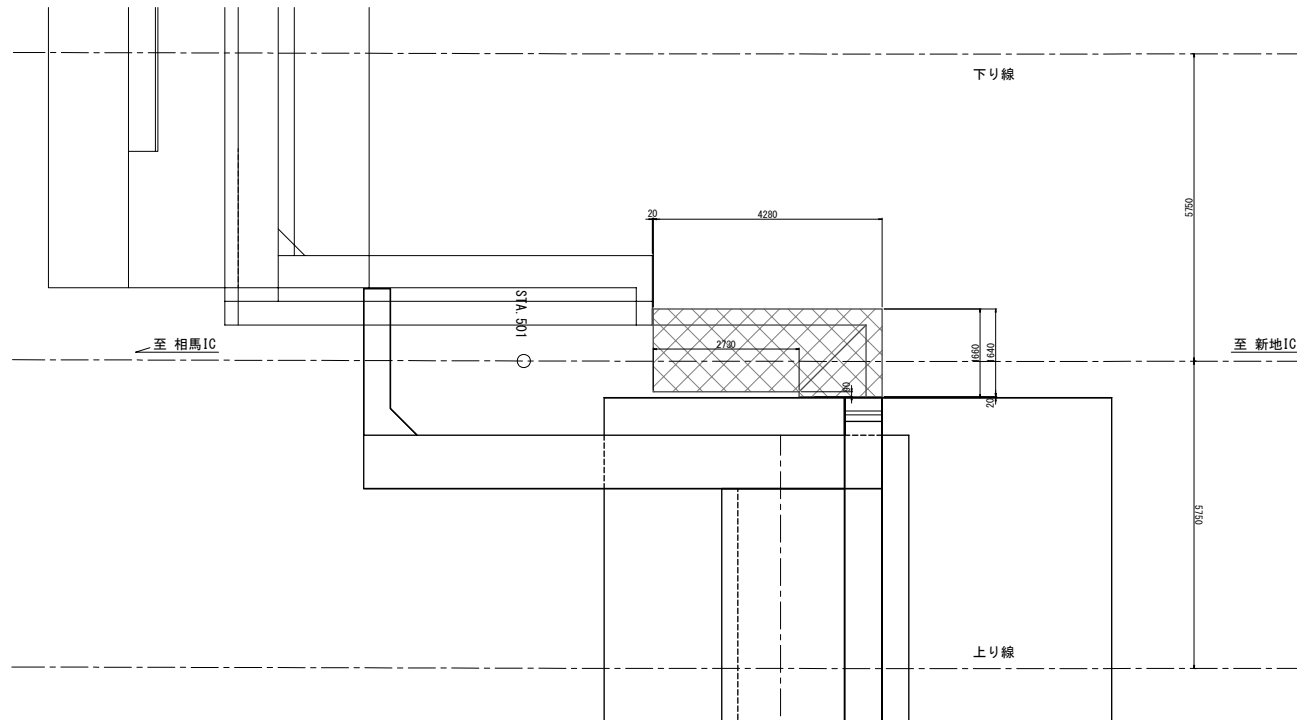
展開図 S=1:50



標準断面図 S=1:50



平面図 S=1:100

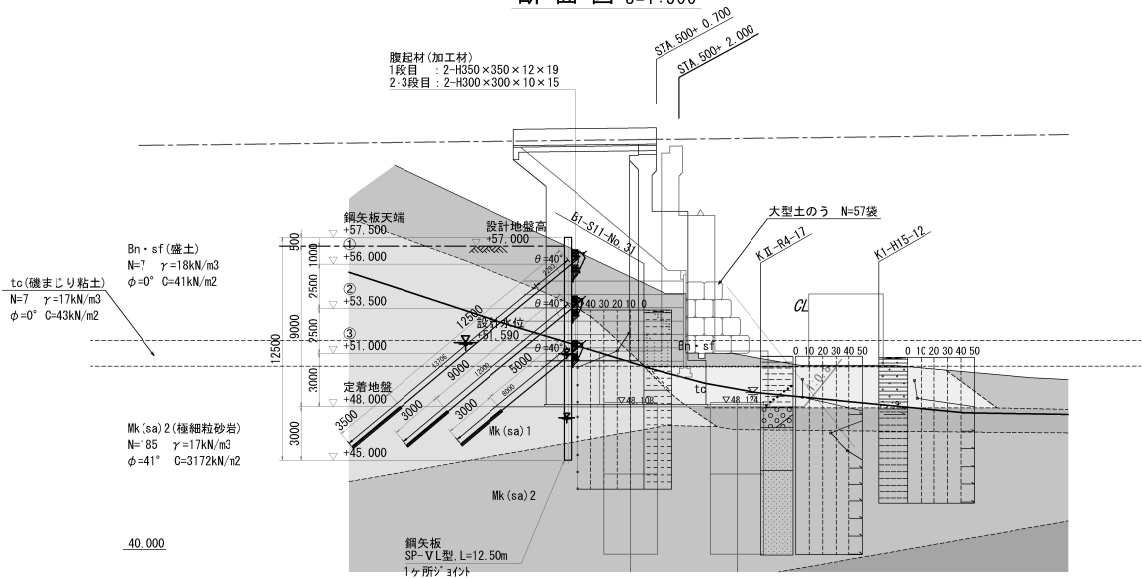


数量表

項目	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	C2-1	m ³	9.3	
型枠	C	m ²	25.9	
基礎材	RC-40 t=20cm	m ³	1.1	

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台重力式擁壁一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務所		

断面図 S=1:300



・鋼矢板数量表

項目	規格寸法 (mm)	長さ (本/m)	本数	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg/本)	質量 (t)	摘要
鋼矢板	SP-VL型	12.500	43	105.0	1312.5	56.438	SY295
添接板	PL210×19×670		43		10.49	0.451	
	PL100×19×220		86		3.28	0.282	
						0.733	
杭材 合計質量:							57.171 t
支保工材							
腹起 (1段目)	H-350×350×12×19	7.750	2	150.0	1162.5	2.325	
腹起 (2段目)	H-300×300×10×15	19.750	2	100.0	1975.0	3.950	SS400
腹起 (3段目)	H-300×300×10×15	17.750	2	100.0	1775.0	3.550	
						9.825 t	
副部材	カバープレート (H350)		4		20	0.080	SS400
	カバープレート (H300)		12		17	0.204	SS400
消耗部材	(主部材質量×0.04)					0.393	SS400
支保工材 合計質量:							10.502 t
プレート							
ｽﾌｧｰ (1段目)	PL168×12×310		16		4.91	0.079	
ｽﾌｧｰ (2段目)	PL145×9×268		40		2.75	0.110	
ｽﾌｧｰ (3段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
						0.288 t	
腹起ブラケット							
1段目	H350-L50×4		8		4.0	0.032	
	H350-L90×13A		8		30.5	0.244	
2段目	H300-L50×4		20		4.0	0.080	
	H300-L90×10A		20		19.7	0.394	
3段目	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
	H300-L75×9		18		14.8	0.266	
						1.088 t	
ガス切断工							
切断長さ1.5m/本		12.500	43	105.0	157.5	6.773	
合計質量:							6.773 t スクラップ重量

・横矢板数量表

項目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
軽量鋼矢板	SP	LSP-3D型 (t=5mm)	1.6	25	19.3	30.88	772	SS400
合計質量:							772 kg	
ガイド金具	L	L150×150×12	1.200	7	27.3	32.76	229	
ガイド金具	L	L150×150×12	1.100	1	27.3	30.03	30	
合計質量:							259 kg	
打ち込み式アカー	BN	M20 (埋め込み長さ80mm)		24		0.5	12	
合計質量:							12 kg	
総合計質量:							1043 kg	

・グラウンドアンカー仕様

Level	打設角度		掘孔径 (mm)	自由長 Lf (m)	定着長 La (m)	掘孔長 (m)	分担幅 (m)	設計 アンカー力 Po (KN)	PC鋼 より線設置数		台座 板厚 (mm)	支圧板		ブラケット		
	水平 (°)	垂直 (°)							ユニット (本)	縁設置数 (ヶ所)		板厚 (mm)	タイ (ヶ所)	間長 (mm)		
①	0	40	φ135	12.530	3.500	16.150	2.000	665.24	K5-5	5	4	2-H350×350×12×9	16	25	H350-L90×13A	12
②	0	40	φ135	9.000	3.000	12.150	2.000	322.51	K5-3	2	10	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
③	0	40	φ135	5.000	3.000	8.150	2.000	147.90	K5-3	2	9	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6

<除去式アンカー> (参考)

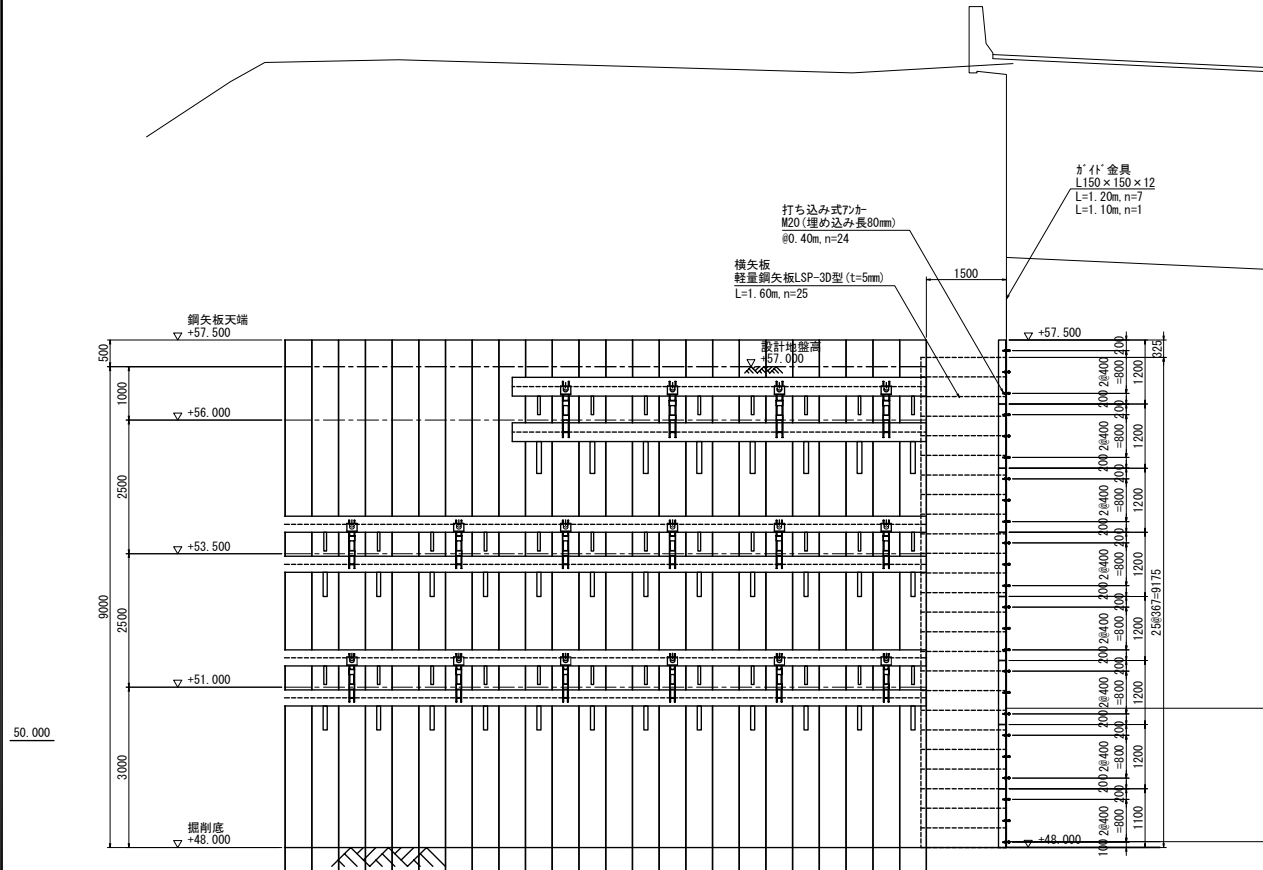
- ・使用工法 : KTB・リターン除去アンカー (荷重分散型)
- ・定着具 : クサビ定着方式
- ・使用鋼材 : PC鋼より線 (7本よりφ12.7mm)
- ・上表中の掘孔長は、余掘長 (0.15m) を考慮した長さ

<注 記>

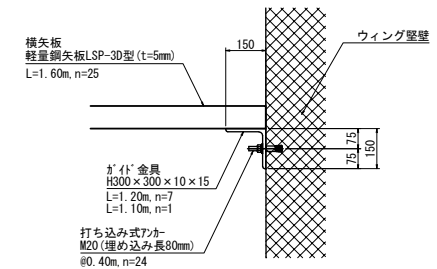
- ・鋼矢板天端 : +57.500
- ・設計地盤高 : +57.000
- ・設計水位 : +51.590
- ・掘削底 : +48.000
- ・定着地盤高 : Mk (sa) 2層天端から1.00m下がった位置とする。
- ・掘削時の余掘り : 掘削時は支保工設置位置より1.00m下までとする。
- ・解体位置 : 支保工設置位置より1.00m下まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・上載荷重 : 各掘削時の背面土重量を上載荷重に換算した上載荷重に、10.00kN/m² 加算した値を上載荷重として考慮する。
- ・鋼矢板の施工方法 : 圧入工法とする。但し、施工条件による頂面摩擦力度の係数βを0.5とする。

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台土留工構造図(2)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

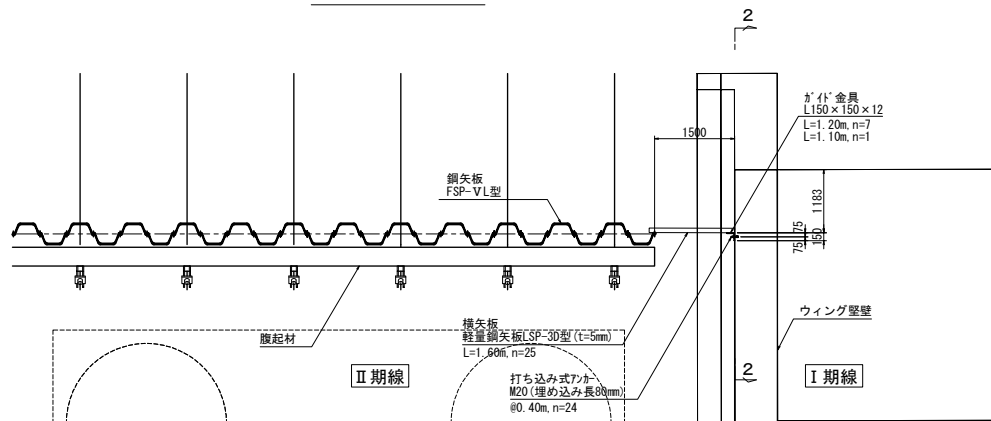
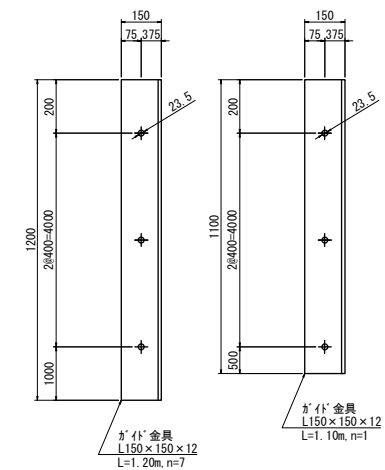
カ・ハ・金具取付詳細図 S=1:20



平面图 S=1:100



が 什 金 具 詳 細 図 S=1:20

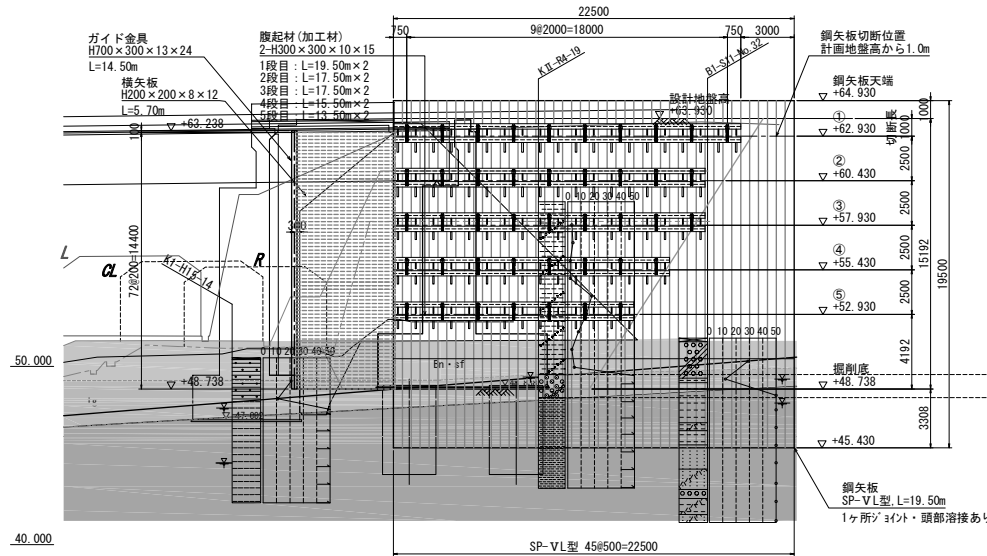


・横矢板数量表

[illegible]

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台横矢板詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

正面図 S=1:300



地質区分凡例

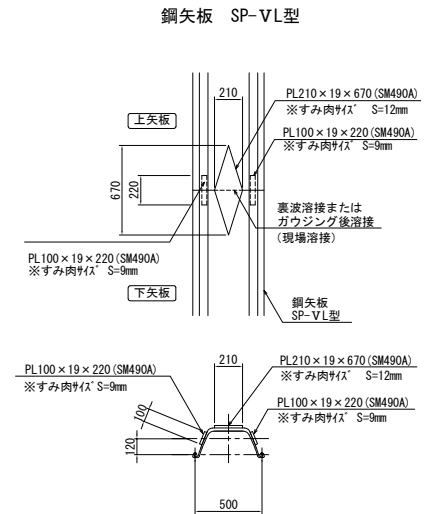
記号	主な土質・岩石名
Bn	粘性土
sf	粘土混じり砂礫
tc	礫混じり粘土
tg	粘土混じり砂礫
Mk (sa) 1	凝灰質中粒砂岩
Mk (sa) 2	極細粒砂岩
Mk (si)	シルト岩

Bn・sf (盛土)
N=7 $\gamma=18\text{kN/m}^3$
 $\phi=0^\circ$ $C=41\text{kN/m}^2$

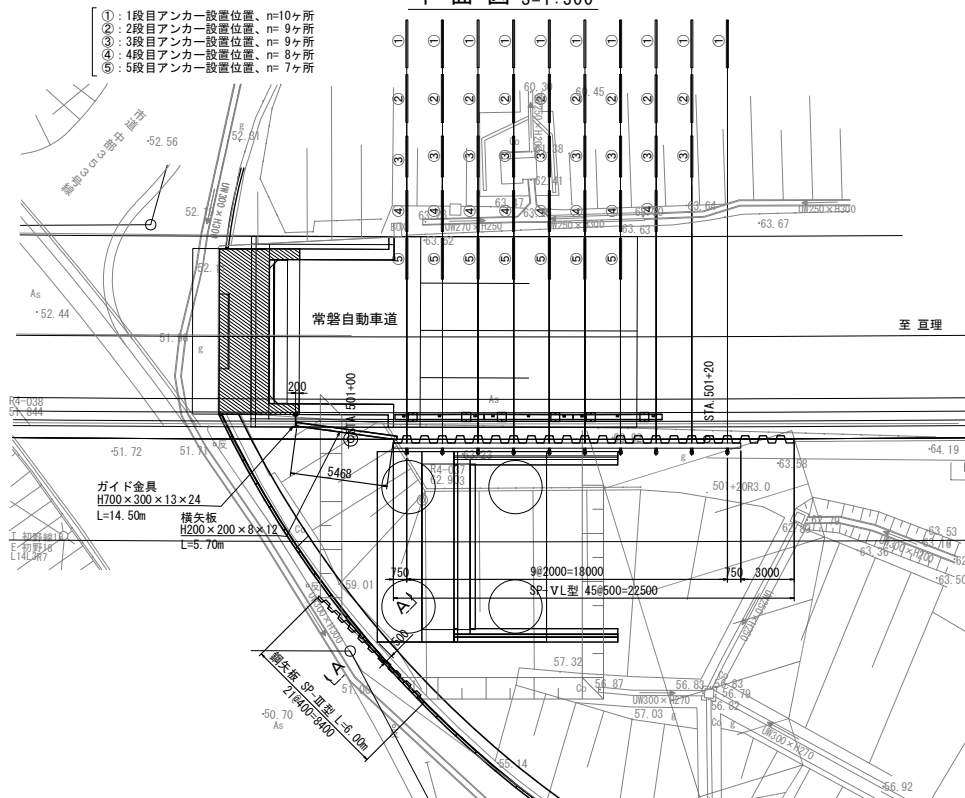
tg (砂礫)
N=37 $\gamma=21\text{kN/m}^3$
 $\phi=39^\circ$ $C=0\text{kN/m}^2$

Mk (si) (シルト岩)
N=132 $\gamma=17\text{kN/m}^3$
 $\phi=21^\circ$ $C=3329\text{kN/m}^2$

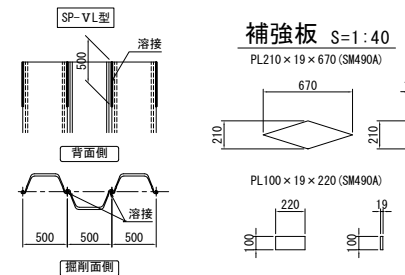
鋼矢板現場建込み溶接継手 S=1:40



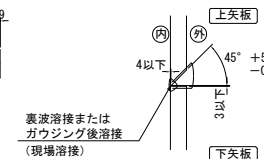
平面図 S=1:300



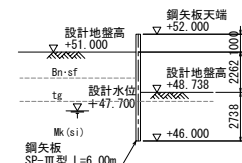
補強板 S=1:40



開先加工の形状 S=1:40

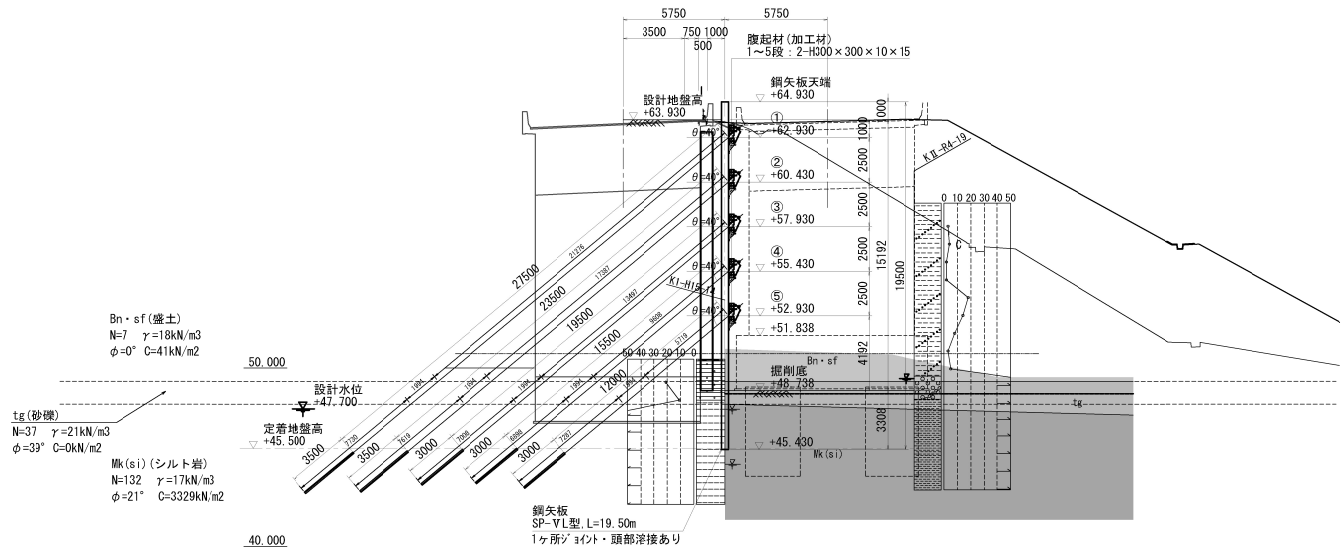


A-A断面図 S=1:300



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台土留工構造図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 東北支社		
事務所名	いわき工務事務所		

断面図 S=1:300



・鋼矢板数量表

項 目	規格寸法 (mm)	長さ (本/m)	本数	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg/本)	質 量 (t)	備 考
鋼矢板	SP-VL型	19.5	45	105.0	2047.5	92.138	SY295
	SP-Ⅲ型	6.0	21	60.0	360.0	7.560	
							99.698
添接板	PL210×19×70		45		10.49	0.472	
	PL100×19×70		21		3.28	0.295	
							0.767
杭材 合計質量:							100.465 t
支保工材							
腹起(1段目)	H-300×300×10×15	19.500	2	100.0	1950.0	3.900	SS400
腹起(2段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起(3段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起(4段目)	H-300×300×10×15	15.500	2	100.0	1550.0	3.100	
腹起(5段目)	H-300×300×10×15	13.500	2	100.0	1350.0	2.700	
支保工材 合計質量:							16.700 t
副部材							
副部材	カバープレート (H-300)		28		17	0.476	SS400
消耗部材	(主部材質量×0.04)					0.668	SS400
支保工材 合計質量:							17.844 t
プレート							
スチール(1段目)	PL145×9×268		40		2.75	0.110	
スチール(2段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチール(3段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチール(4段目)	PL145×9×268		32		2.75	0.088	
スチール(5段目)	PL145×9×268		14		2.75	0.039	
プレート 合計質量:							0.435 t
腹起ブラケット							
1段目	H350-L50×4		20		4.0	0.080	
	H350-L90×10B		20		21.5	0.430	
	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
2段目	H350-L90×10B		18		21.5	0.387	
	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
3段目	H300-L75×9		18		14.8	0.266	
	H300-L50×4		16		4.0	0.064	
4段目	H300-L75×9		16		14.8	0.237	
	H300-L50×4		14		4.0	0.056	
5段目	H300-L75×9		14		14.8	0.207	
	H300-L75×9		14		14.8	0.207	
ブラケット 合計質量:							1.871 t
ガス切断工							
ガス切断工	切断長さ2.0m/本	19.500	45	105.0	210	9.450	
合計質量:							9.450 t スクラップ重量

・横矢板数量表

項 目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	備 考
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	264.43	20479	SS400
合計質量:							20479 kg	
ガイド金具								
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402	
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237	
合計質量:							2639 kg	
ワイヤープレート								
ワイヤープレート	PL	PL40×(t19~25)×200		72		1.38	99	
合計質量:							99 kg	
打ち込み式アンカー								
打ち込み式アンカー	BN	M20(埋め込み長さ30mm)		144		0.5	72	
合計質量:							72 kg	
総合計質量:							23289 kg	

・グラウンドアンカー仕様

	打設角度		剛孔径 (mm)	自由長 Lf (m)	定着長 La (m)	剛孔長 (m)	分担幅 (m)	設計 アンカー力 Po (KN)	P C鋼 より線 (本)	設置数 (ヶ所)	サイズ	台座 板厚 (mm)	支圧板 板厚 (mm)	ブ ラ ケ ッ ト		
Level	水平 (°)	垂直 (°)												タイプ	脚長 (mm)	
①	0	40	φ115	27.500	3.500	31.200	2.000	421.78	K5-5	4	10	2-H300×300×16×15	16	22	H300-L90×10B	9
②	0	40	φ115	23.500	3.500	27.200	2.000	334.31	K5-3	3	9	2-H300×300×16×15	16	19	H300-L90×10B	9
③	0	40	φ115	19.500	3.000	22.700	2.000	221.97	K5-3	2	9	2-H300×300×16×15	16	16	H300-L75×9	6
④	0	40	φ115	15.500	3.000	18.700	2.000	128.61	K5-3	2	8	2-H300×300×16×15	16	16	H300-L75×9	6
⑤	0	40	φ115	12.000	3.000	15.200	2.000	40.00	K5-3	2	7	2-H300×300×16×15	16	16	H300-L75×9	6

<残置式アンカー> (参考)

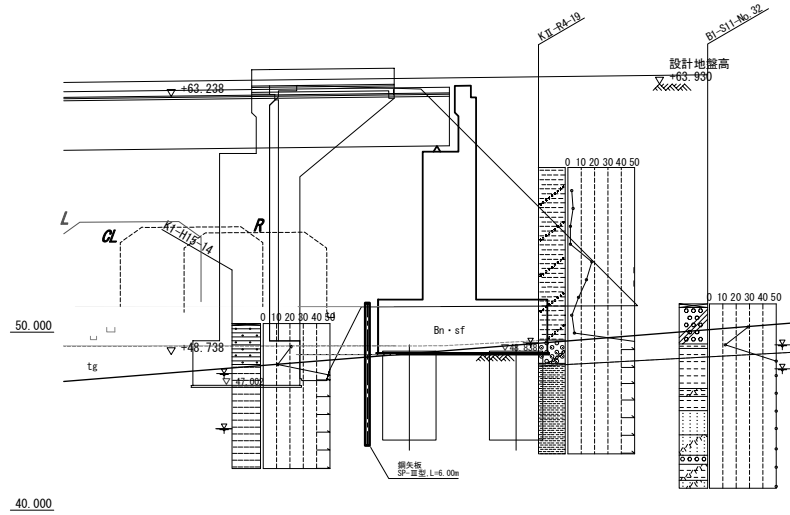
- ・使用工法 : K T B・残置式アンカー (引張型)
- ・定着具 : クサビ定着方式
- ・使用鋼材 : P C鋼より線 (7本よりφ12.7mm)
- ・上表中の剛孔長は、先端余長 (バ イ ッ ト カ ッ プ) 分として0.20m) を考慮した長さ

<注 記>

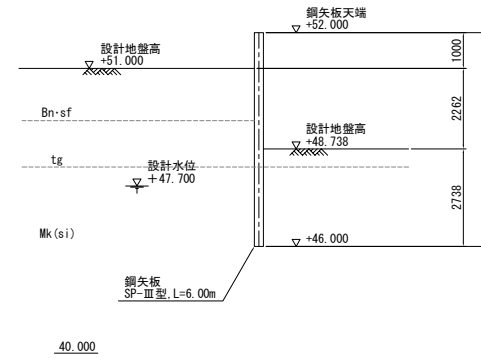
- ・鋼矢板天端 : +64.930
- ・設計地盤高 : +63.930
- ・設計水位 : +47.700
- ・掘削底 : +48.738
- ・定着地盤高 : +45.500
- ・掘削時の余掘り : 掘削時は支保工設置位置より1.00m下までとする。
- ・1次解体位置 : +51.838まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・2~5次解体位置 : 支保工設置位置より1.00m下まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・上載荷重 : 10.00kN/m² 考慮する。
- ・鋼矢板の施工方法 : 圧入工法とする。但し、施工条件による周面摩擦力度の係数βを0.5とする。
- ・鋼矢板の断面性能 : 右図に示すように、鋼矢板継手部の掘削面側を鋼矢板頭部から50cm程度溶接 するものとし、断面二次モーメントおよび断面係数は 全断面有効の80%とする。

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台土留工構造図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

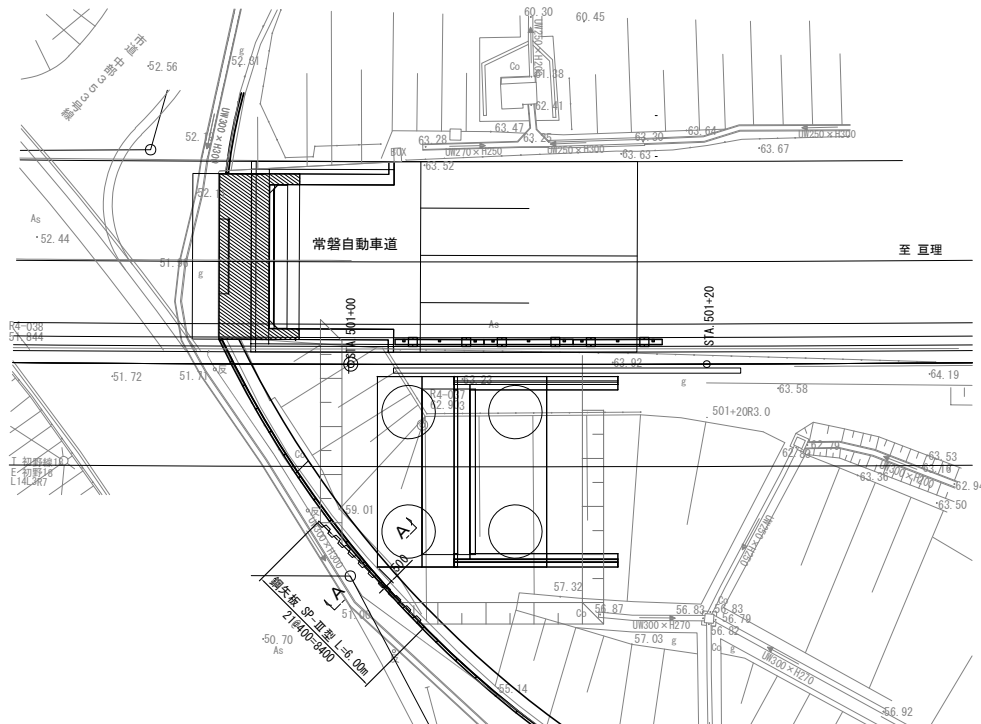
正面図 S=1:300



A-A断面図 S=1:150

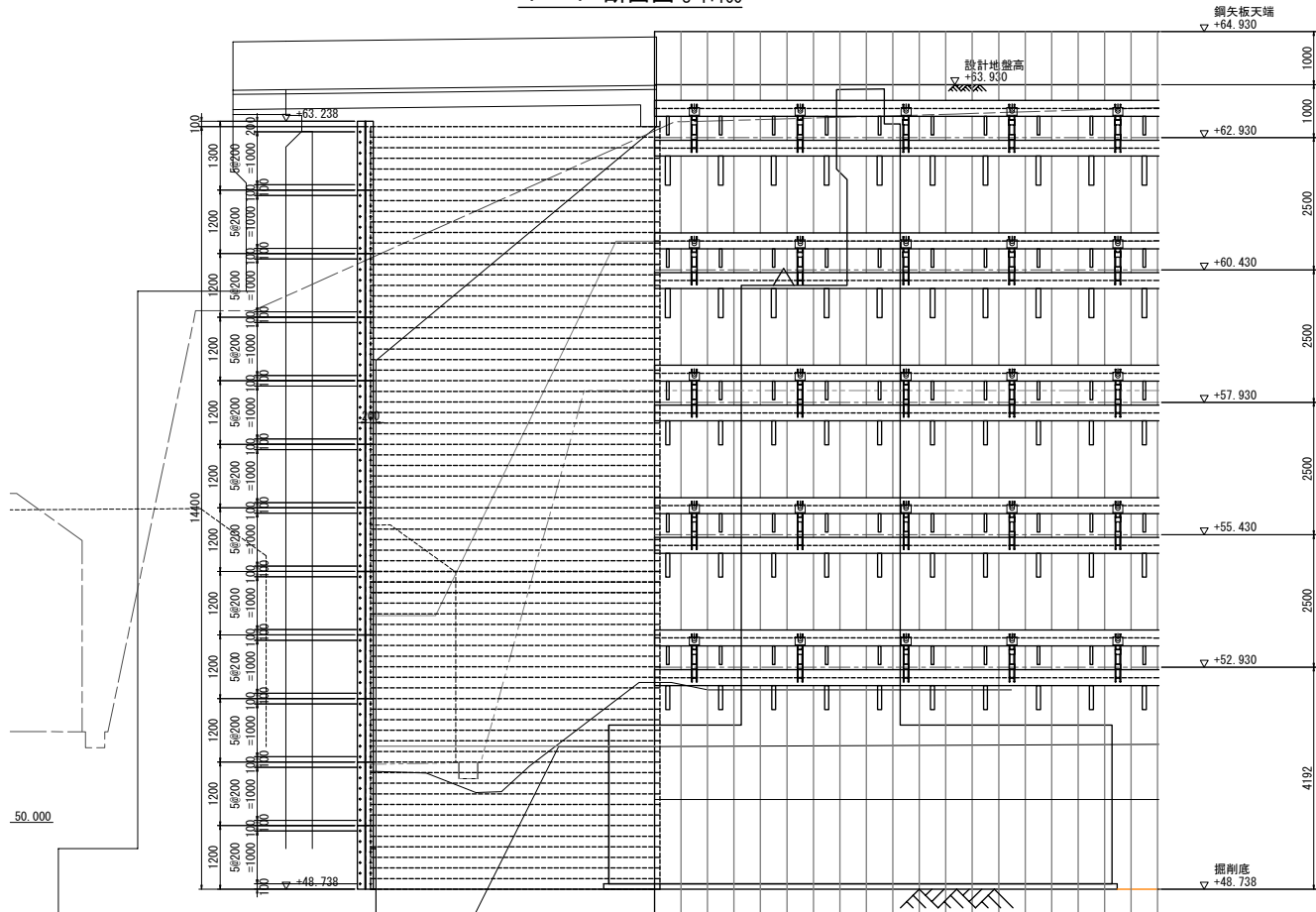


平面図 S=1:300

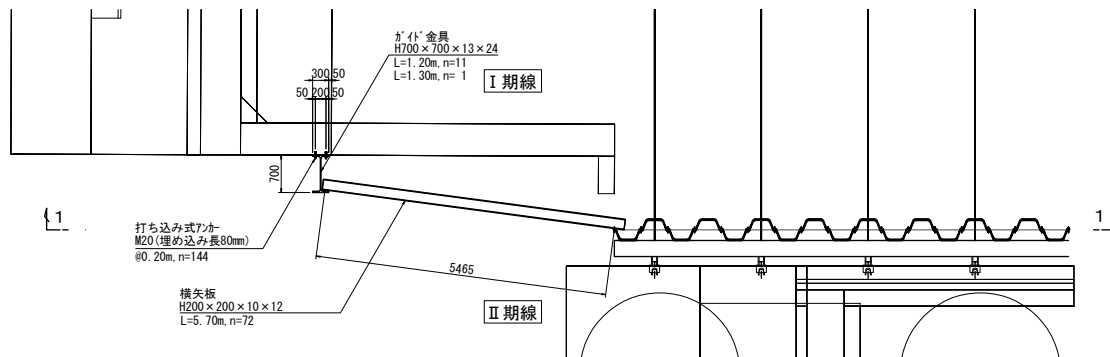


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台土留工構造図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

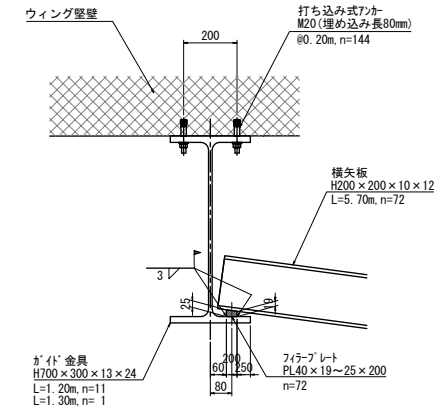
1-1 断面図 S=1:100



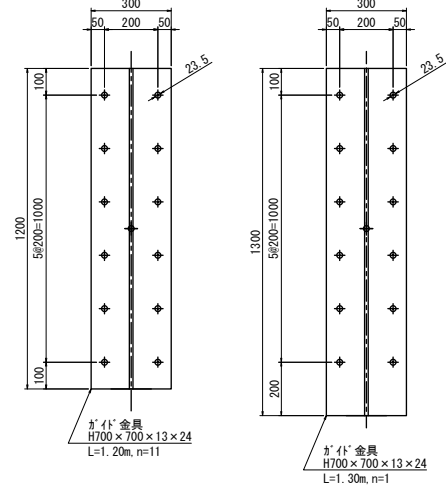
平面図 S=1:100



ガイド金具取付詳細図 S=1:20



ガイド金具詳細図 S=1:20

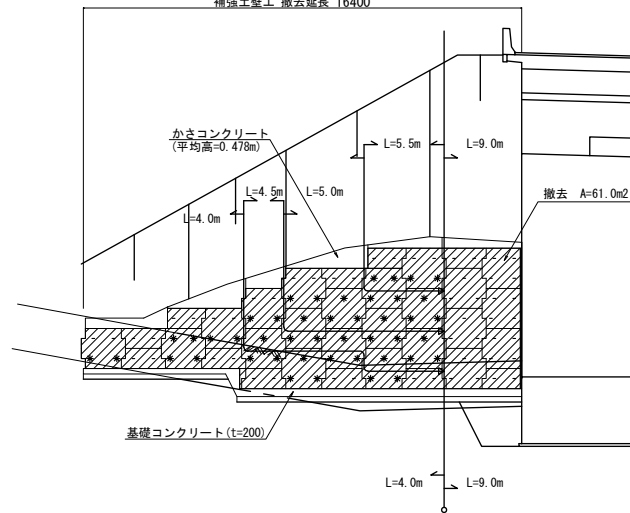


・横矢板数量表

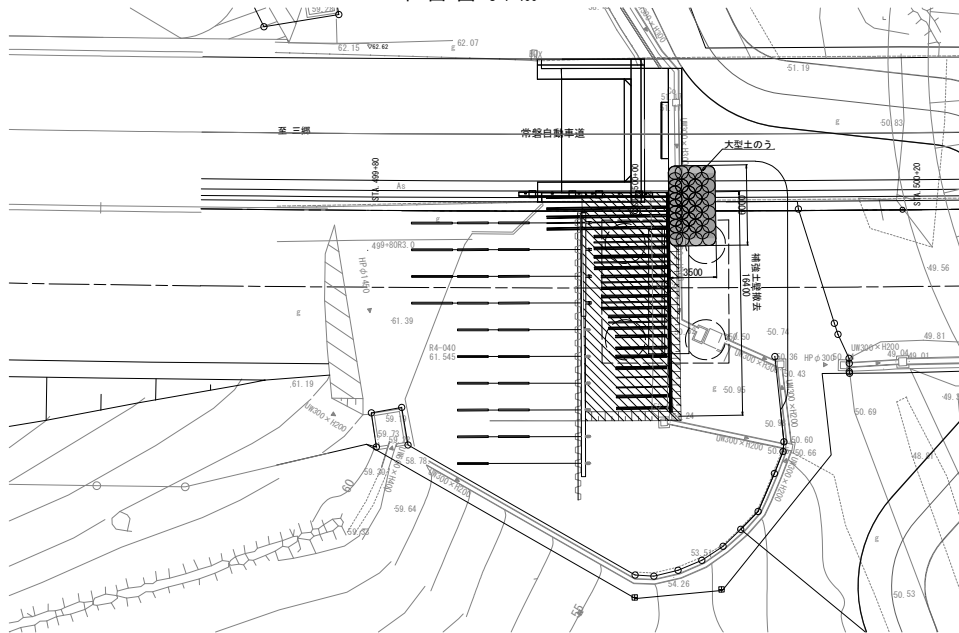
項 目	種 別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	284.43	20479	kg
						合計質量:	20479	
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402	kg
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237	
合計質量:							2639	
フーラプレート	PL	PL40×(119～25)×200		72		1.38	99	kg
合計質量:							99	
打ち込み式フカ	BN	M20 (埋め込み長さ80mm)		144		0.5	72	kg
合計質量:							72	
総合計質量:							23289	kg

常 務 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台横矢板詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

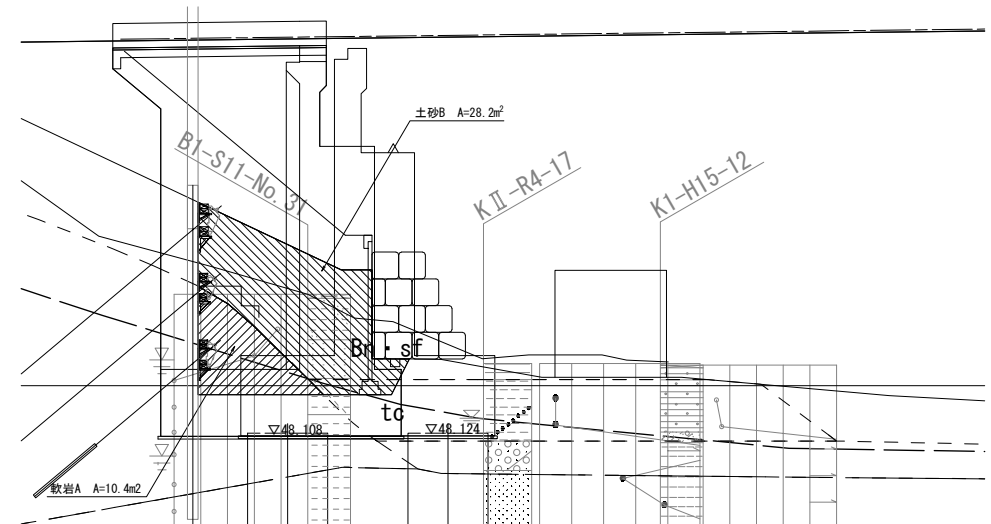
補強土壁工 撤去延長 16400



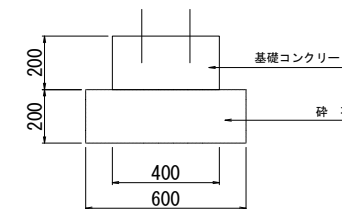
平面图 S=1:400



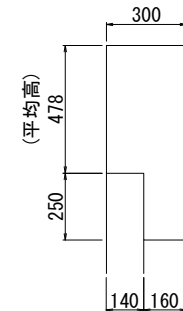
側面図 S=1:200



コンクリート基礎形状図 S=1:20



かさコンクリート形状図 S=1:20



補強土壁撤去工 数量表

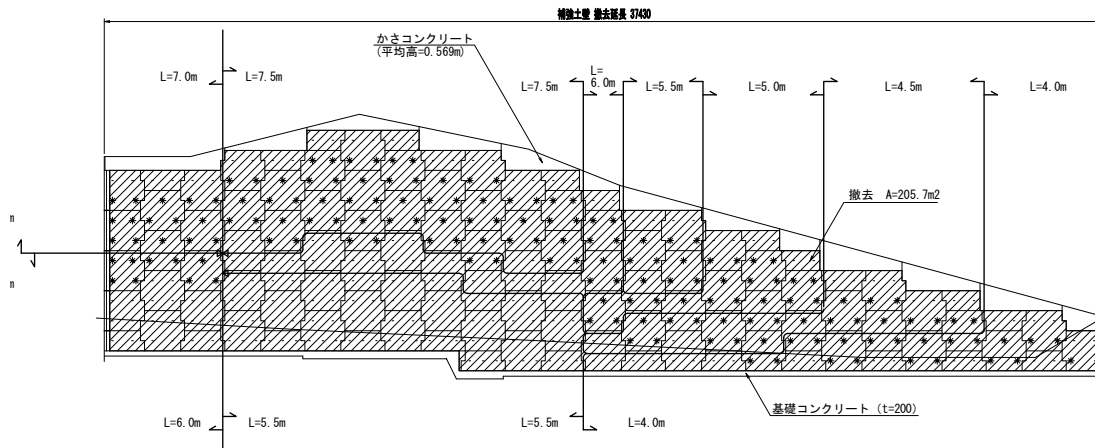
補強土壁撤去工事費		数量	単位	数量
項目	区分			
補強土壁撤去	撤去面積	m ²		61.0
	補強材	m		552.0
	かさコンクリート	m ³		3.0
	基礎コンクリート	m ³		1.4
	大型土のう	袋		57
	掘削	m ³	※	0

※ 該当する橋梁下部工の構造物掘削と重複する範囲を除く

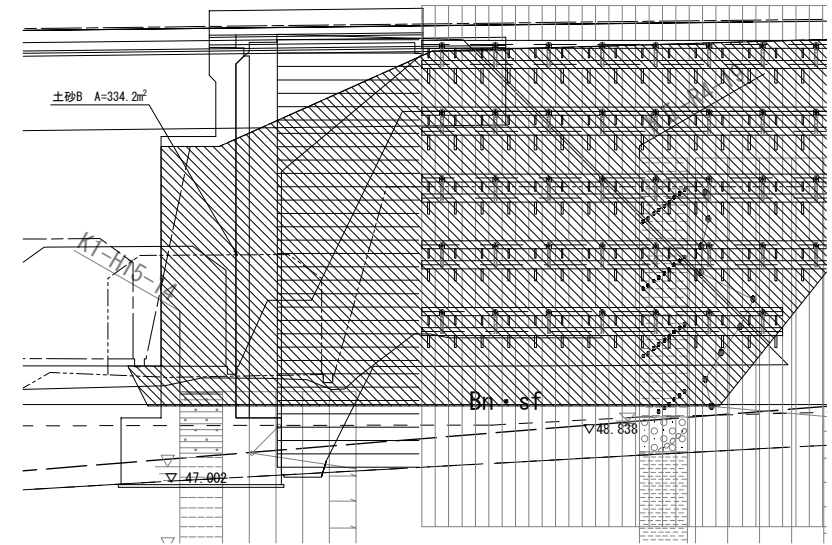
- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・米印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。
他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台既設補強土壁撤去図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事業務所		

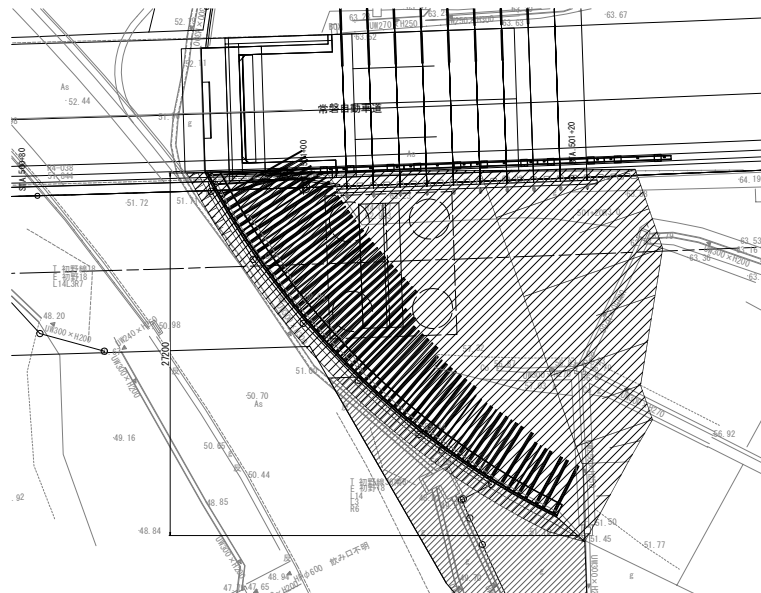
展開図 S=1:200



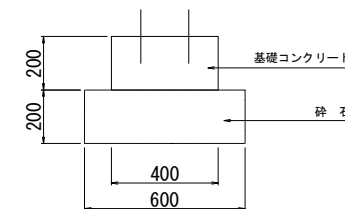
側面図 S=1:200



平面図 S=1:400



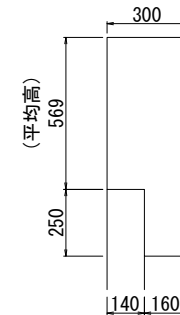
コンクリート基礎形状図 S=1:20



補強土壁撤去工 数量表			
項目	区分	単位	数量
補強土壁撤去	撤去面積	m²	205.7
	補強材	m	2286.5
	かさコンクリート	m³	7.9
	基礎コンクリート	m³	3.1
	撤去	※	0

※ 該当する補強下部工の構造物撤去と重複する範囲を除く

かさコンクリート形状図 S=1:20



- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・米 印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。
- 他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台既設補強土壁撤去図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき事務所		